

平成27年度
シーズ・ニーズマッチング強化事業報告書
(障害者自立支援機器等開発促進事業)

平成28年3月

公益財団法人テクノエイド協会

はじめに

我が国における障害者（「児」を含む。）の福祉機器に関する施策につきましては、ノーマライゼーションの理念に基づき、障害者の活動と社会参加を促す観点から、厚生労働省において「障害者自立支援機器等開発促進事業」を創設し、開発する企業に対して製品化に要する費用の一部を助成しているところであります。

一方、障害の種別や障害者が置かれている環境・状態は、広範囲にわたるものであり、自立生活に向けた課題（日常生活上のお困り事など）や支援機器に対するニーズは、近年、多様化・複雑化しており、ロボット技術やＩＣＴ（情報通信技術）など、新たに創出された技術を支援機器の分野で活用することが期待されているところであります。

こうした中、政府が掲げた「日本再興戦略」においては、「ロボット技術を利用した機器が障害者の自立や生活支援に活かされるよう、企業が行う開発を更に促進するためのシーズ・ニーズマッチング等を行う」とされ、また、平成２７年２月に日本経済再生本部が纏めた「ロボット新戦略」の中でも「ロボット介護機器の開発とあわせ、支援機器（ソフトウェアを開発する場合を含む。）等について、マーケットが小さい等のためビジネスモデルの確立が困難な機器の開発（実用的製品化）の取り組みに対して支援する」とされました。

このような背景を踏まえ、本事業は、障害者のニーズを的確に反映した製品開発及び普及の促進を図るとともに、自立支援機器分野への新規参入を促すことを目的として実施したものです。

本事業の企画段階から、大阪と東京で開催したシーズ・ニーズマッチング交流会にわたり検討委員やマッチングコーディネーターの皆様をはじめ、障害当事者の団体及び経済産業省、政府系関係機関等、極めて多くの皆様にご支援・ご協力をいただき、深く感謝する次第であります。

障害者が使用する機器の開発にあたりましては、市場規模が小さくビジネスモデルの確立が困難であるとの指摘されるところであります。新たに創出されるイノベーションを支援機器の分野でも大いに活用し、障害者の活動や参加に繋ぐことが出来れば幸いです。

なお、本事業は、厚生労働省が行う「障害者自立支援機器等開発促進事業」の一環として執り行ったものであり、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部から当協会が補助を受けて実施したものであります。また、交流会に展示出展いただいた企業及び試作機の概要は、当協会のホームページから閲覧することができます。交流会に参加することが出来なかった障害当事者及び開発・研究機関、行政、産学官連携団体等の皆様はご活用ください。

◆シーズ・ニーズマッチング交流会

<http://www.techno-aids.or.jp/needsmatch/index.shtml>

平成２８年３月

公益財団法人テクノエイド協会

目 次

I. 本編	1
1. 障害者自立支援機器等開発促進事業の目的	1
2. シーズ・ニーズマッチング強化事業の目的	1
3. 事業内容	2
(1) シーズ・ニーズマッチング強化検討会議の設置	2
(2) マッチングコーディネーターの設置	3
(3) シーズ・ニーズマッチング交流会の企画及び開催	4
(4) 障害者自立支援機器に係るシーズ・ニーズマッチングの推進	4
(5) シーズ・ニーズマッチング交流会専用サイトの構築	4
(6) シーズ・ニーズマッチング強化事業 事業報告書の作成	4
(7) 実施スケジュール	5
4. 実施結果	6
(1) シーズ・ニーズマッチング強化検討会議の開催	6
(2) マッチングコーディネーターの役割と会議の開催	6
(3) シーズ・ニーズマッチング交流会の開催結果	7
(4) 障害者自立支援機器に係るシーズ・ニーズマッチングの推進	22
5. 本事業を終えて	24
(1) シーズ・ニーズマッチング交流会について	24
(2) アンケート調査結果から	24
(3) シーズ・ニーズマッチングの推進について	25
(4) シーズ・ニーズの情報集約および整理について	27
(5) 検討委員からの主なご意見	27
(6) 今後のシーズ・ニーズマッチング交流会の在り方	28
II. 資料編	31
1. シーズ・ニーズマッチング強化事業の実施について	33
2. シーズ・ニーズマッチング交流会 出展要綱	39
3. シーズ・ニーズマッチング交流会 開催プログラム	55
4. シーズ・ニーズマッチング交流会 出展機器一覧	63
5. 障害者自立支援機器に関するニーズ集	85
6. 関係団体ニーズ調査の結果	103

Ⅰ. 本編

1. 障害者自立支援機器等開発促進事業の目的

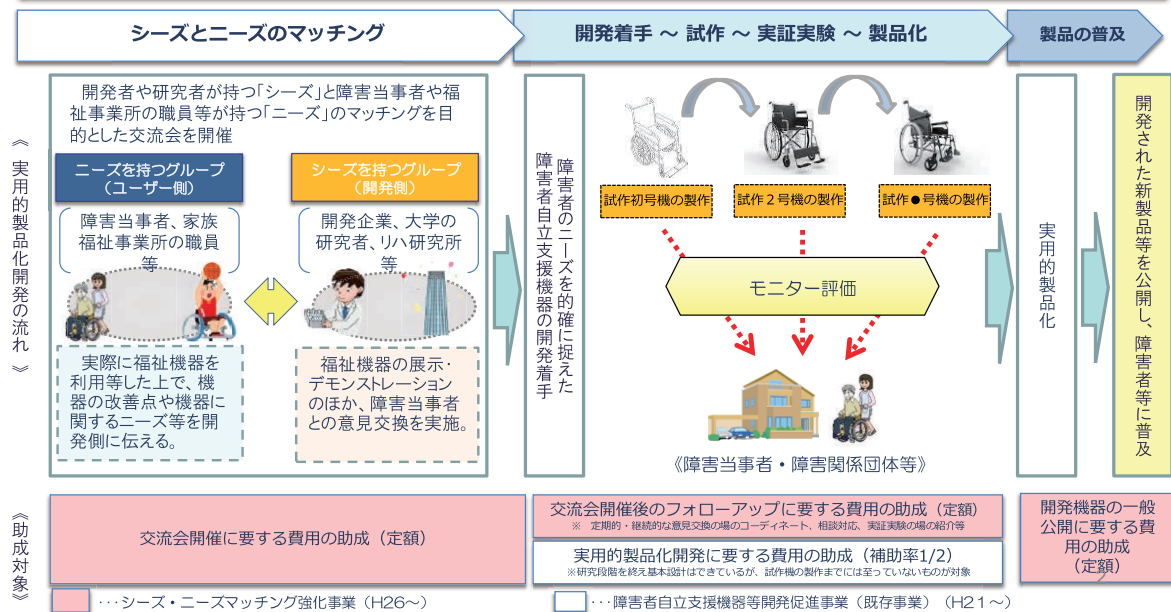
障害者の自立を支援する機器（以下「障害者自立支援機器」という。）の開発については、障害者自立支援機器等開発促進事業により開発を行う企業に対して、実用性評価の支援など適切な支援を進めてきたところであるが、開発された機器の中には、障害者のニーズを的確に捉えたものとなっていない実用性の低い機器も見受けられるところである。

このため、本事業は、民間企業等、学術団体等の研究機関及び障害当事者の知識・技術を結集し、個別具体的な障害者のニーズを的確に反映した機器開発をスタートさせる機会を設けるとともに、開発中の機器について、実証実験の場を紹介すること等により、機器開発分野への新たな企業の参入促進を通じた適切な価格で障害者が使いやすい機器の製品化・普及を図ることを目的とする。

※）「平成 27 年 3 月 27 日付、各都道府県知事宛、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長通知」から抜粋

障害者自立支援機器等開発促進事業（シーズ・ニーズマッチング強化事業）

障害者の自立や社会参加を支援するためには、支援機器や技術開発の促進を図ることが必要不可欠であるが、障害者の自立を支援する機器の開発（実用的製品化）が進んでいない状況にある。こうしたことから、
ア）産・学・障害者の知識・技術を結集し、個別具体的な**障害者のニーズを的確に反映した機器開発をスタートさせる機会を設ける**、
イ）開発中の機器について、ニーズに合ったものとなっているか**実証実験する場所を紹介する**、
ウ）各開発機関が行う**実用的製品化開発に要する費用の一部を助成する**
ことにより、機器開発分野への新たな参入促進を通じた適切な価格で障害者が使いやすい機器の製品化・普及を図る。



2. シーズ・ニーズマッチング強化事業の目的

我が国における障害者（「児」を含む。）の福祉機器に関する施策については、ノーマライゼーションの理念に基づき、障害者の活動と社会参加を促す観点から、厚生労働省において「障害者自立支援機器等開発促進事業」を創設し、開発する企業に対して製品化に要する費用の一部を助成している。

一方、障害の種別や障害者が置かれている環境・状態は、広範囲にわたるものであり、自立生活に向けた課題（日常生活上のお困り事など）や支援機器に対するニーズは、近年、多様化・複雑化しており、ロボット技術やＩＣＴ（情報通信技術）など、新たに創出された技術を支援機器の分野で活用することが期待されているところである。

政府が掲げた「日本再興戦略」においても「ロボット技術を利用した機器が、障害者の自立や生活支援に活かされるよう、企業が行う開発を更に促進するためのシーズ・ニーズマッチング等を行う」とされ、また、平成２７年２月に策定された「ロボット新戦略」の中でも「ロボット介護機器の開発とあわせ、支援機器（ソフトウェアを開発する場合を含む。）等について、マーケットが小さい等のためビジネスモデルの確立が困難な機器の開発（実用的製品化）の取り組みに対して支援する」とされたところである。

こうした背景を踏まえ、本事業では、障害者のニーズを的確に反映した製品開発及び普及の促進を図るとともに、自立支援機器分野への新規参入を促すことを目的として実施するものである。

また、本事業では、障害者自立支援機器等開発促進事業で採択された機器の一般公開を行うことにより、開発が進められる最新の支援機器に関する情報提供を行うとともに、関係する障害当事者とのマッチングを図りながら当事者参加型の開発支援を促進することとする。

3. 事業内容

（１）シーズ・ニーズマッチング強化検討会議の設置

本事業の実施にあたり、障害当事者の団体や組織団体、在宅の障害者を支える事業所、企業団体、研究開発を支援する政府系機関、研究所・有識者等の関係者から構成する「障害者自立支援機器シーズ・ニーズマッチング強化検討会議」を設置した。

（検討委員）

（敬称略）

氏 名	所 属
○諏訪 基	国立障害者リハビリテーションセンター研究所 顧問
鈴木 孝幸	社会福祉法人 日本盲人会連合 副会長
妻屋 明	公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会 理事長
川井 節夫	一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会 理事
川田 功二	社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国身体障害者施設協議会 研修・全国大会委員長、常任協議員
森 祐司	社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会 常務理事
石崎 洋子	NPO法人 生活サポートみらい 相談支援専門員
石田 眞	NPO法人 メッセージ花くじら 理事長
金井 光一	NPO法人 チャレンジド・コミュニティ 理事長
清水 壮一	日本福祉用具・生活支援用具協会 専務理事
中島 健祐	デンマーク大使館 投資担当官
井上 剛伸	国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部 部長

○印：委員長

(オブザーバー)

(敬称略)

氏 名	所 属
村越 正毅	国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 イノベーション推進部 プラットフォームグループ 統括主幹
野尻 誠	国立研究開発法人 情報通信研究機構 産業振興部門 情報バリアフリー推進室 室長
野邊 裕	経済産業省 商務情報政策局 ヘルスケア産業課 医療・福祉機器産業室 室長補佐
飯沼 薫也	経済産業省 商務情報政策局 ヘルスケア産業課 医療・福祉機器産業室 係長
東 祐二	厚生労働省 老健局 高齢者支援課 福祉用具・住宅改修指導官
峰 悠子	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課 自立支援振興室 福祉工学専門官
森 一也	厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課 自立支援振興室 主査

(2) マッチングコーディネーターの設置

良質な支援機器の開発をより一層推進するため、一部の検討委員及び障害者団体の協力をいただきマッチングコーディネーターを配置することとし、公平・中立的な視点に立って使用者と開発者の橋渡しを行い、円滑な支援機器開発を促すこととした。

(検討委員より選出)

(敬称略)

氏 名	所 属
諏訪 基	国立障害者リハビリテーションセンター研究所
石崎 洋子	NPO法人 生活サポートみらい
石田 眞	NPO法人 メッセージ花くじら
金井 光一	NPO法人 チャレンジド・コミュニティ
中島 健祐	デンマーク大使館

(障害当事者団体より選出)

(敬称略)

氏 名	所 属
中村 陽子	社会福祉法人 日本盲人会連合
庵 悟	社会福祉法人 全国盲ろう者協会
川井 節夫	一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
平岡久仁子	一般社団法人 日本ALS協会

氏 名	所 属
澤藤 充教	公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会
小山万里子	ポリオの会
増澤 高志	NPO法人 自閉症サポートセンター
園田 尚美	NPO法人 日本失語症協議会

(3) シーズ・ニーズマッチング交流会の企画及び開催

各種障害の内容や障害者の置かれている状態を十分に理解するとともに、就学や就労、レクリエーションやスポーツ等、活動や参加を行うに際してのお困り事や課題の把握と開発者や研究者がもつシーズとのマッチングを図るため、シーズ・ニーズマッチング交流会を大阪（平成27年11月）と東京（平成28年2月）の2会場で開催した。（P7参照）

(4) 障害者自立支援機器に係るシーズ・ニーズマッチングの推進

シーズ・ニーズマッチング交流会の効果的な開催と交流会後の円滑なフォローアップ等を推進するため、交流会前に障害当事者団体を訪問し、障害者の置かれている状況・望んでいる生活に対する課題等についてのヒアリング調査を実施し、その結果をニーズ集として取りまとめ、マッチングを活性化するためのツールを作成した。（P22参照）

(5) シーズ・ニーズマッチング交流会専用サイトの構築

シーズ・ニーズマッチング交流会の一般参加者周知及び、出展公募や出展機器の情報提供を行うため、協会ホームページ内に専用サイトを構築した。（P23参照）

<http://www.techno-aids.or.jp/needsmatch/index.shtml>

(6) シーズ・ニーズマッチング強化事業 事業報告書の作成

本事業の実施結果を事業報告書として取り纏める。（本書）

(7) 実施スケジュール

実施内容等	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1. 事業計画の策定	→											
2. 各団体への協力依頼		→										
3. シーズ・ニーズマッチング強化検討会議の設置・開催												
○委員委嘱					→							
○第1回の開催					9/29★							
○第2回の開催											3/14★	
4. 障害者団体へのニーズ調査					→							
5. コーディネーター会議の選定と会議開催												
○コーディネーターの選定					→							
○会議の開催							★11/10					
6. シーズ・ニーズマッチング交流会の開催												
○開催周知、参加受付					→							
○出展企業の募集					→							
○専用サイトの設置						→						
○交流会の開催							11/28★			2/12★		
○アンケート調査							11/28★			2/12★		
7. 事業報告書の作成											→	

4. 実施結果

(1) シーズ・ニーズマッチング強化検討会議の開催

交流会の開催にあたり、出展者（障害者団体、開発支援機関、機器開発企業）の選定や会場設営、運営方法など、活発な交流を促すための方策について検討を行うとともに、交流会後のフォローアップ及び来年度以降の課題や抱負について協議した。

① 第1回検討会議 平成27年9月29日 主婦会館 10時～12時

(報告事項)

- ◇本事業の概要について
- ◇交流会開催にあたっての準備について
 - ・出展要項
 - ・出展希望事業者等一覧

(検討事項)

- ・交流会フロアレイアウト
- ・開催プログラム
- ◇ニーズ調査の実施と取り纏め
- ◇マッチングコーディネーターの設置及び会議の開催
- ◇アンケートの主要項目について
- ◇今後のスケジュール

② 第2回検討会議 平成28年3月14日 主婦会館 14時～16時

(報告事項)

- ◇実施結果の報告

(検討事項)

- ◇今後の交流会の在り方
- ◇来年度に向けた抱負 等

(2) マッチングコーディネーターの役割と会議の開催

当協会にマッチングコーディネーター会議を設置し、障害当事者の置かれている課題を共有化するとともに、対象者ニーズの具体的な把握と需要の予測、試作機に対する意見交換会の実施、また、支援機器の開発・普及にあたってモニター調査や実証試験が適切かつ円滑に行えるよう使用者・開発者の双方にとって必要な支援を行うこととした。

① マッチングコーディネーターの役割

コーディネーターの役割を以下のとおり設定した。

- 交流会の開催時にマッチングの活性化を図る推進役
- 障害当事者の日常生活上の課題等を開発者等へ伝える役目
- 適切かつ円滑にモニター調査や実証試験が行えるよう団体窓口となること
- その他、開発及び普及に係る取り組みに支援協力すること

② 第1回マッチングコーディネーター会議の開催

平成27年11月10日 砂防会館 14時～16時

(報告事項)

◇本事業の概要について

◇交流会開催にあたっての準備について

(検討事項)

◇マッチングコーディネーターの設置と役割等について

- ・コーディネーターの配置と役割

- ・モニター協力団体等のリスト化を検討

◇ニーズ調査結果の活用等について

◇アンケート及びヒアリングの実施について

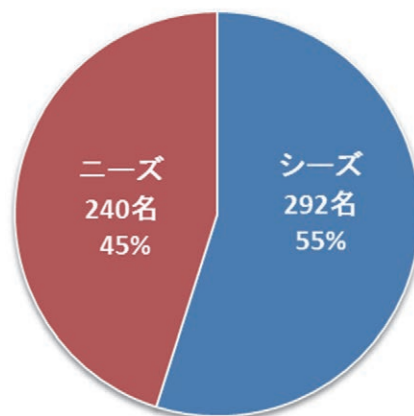
◇今後のスケジュール

(3) シーズ・ニーズマッチング交流会の開催結果

① 来場者の状況

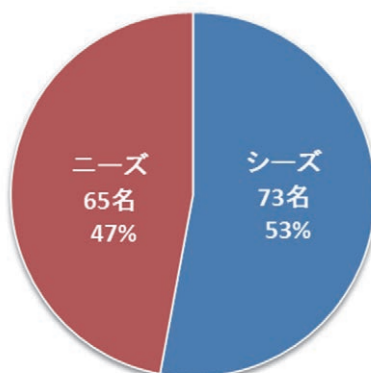
＜大阪及び東京の合計＞

来場者数合計：532名



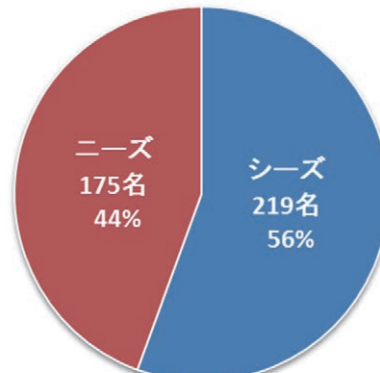
＜大阪開催＞

来場者数計：138名



＜東京開催＞

来場者数計：394名



② 大阪開催の概要

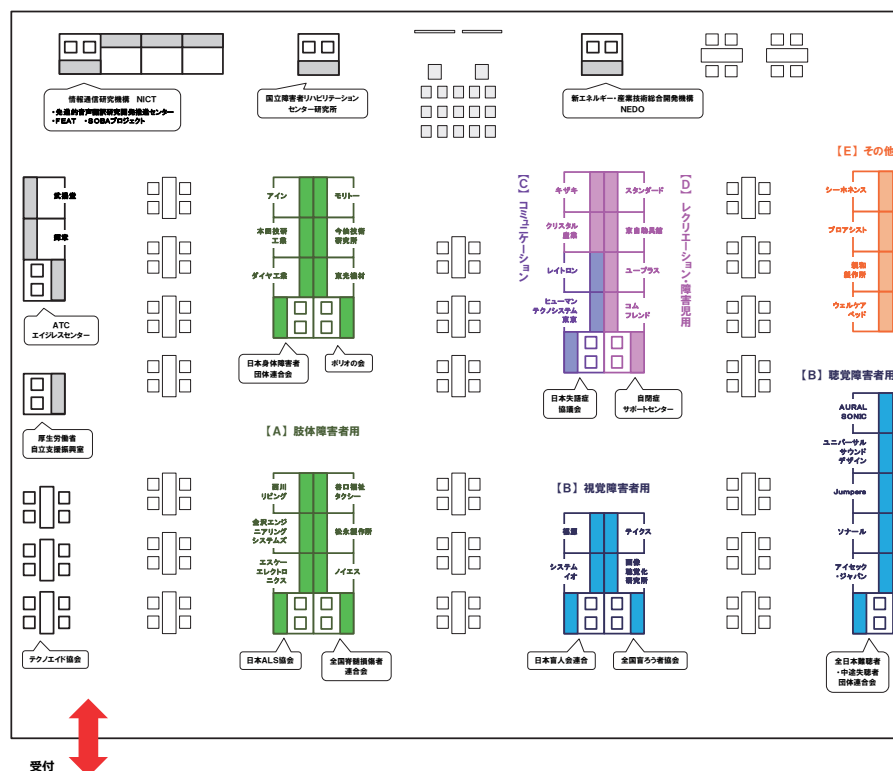
◇日時：平成27年11月28日(土)10時～16時

◇場所：大阪南港ATCホール（南港ポートタウン線 トレードセンター前 徒歩5分）

◇参加：出展者 53団体・企業

来場者 138名（シース側73名（53%）、ニーズ側65名（47%））

会場レイアウト



交流会場の様子



出展者による機器開発報告会の様子

③ 東京開催の概要

◇日時：平成28年2月12日(金)10時～16時

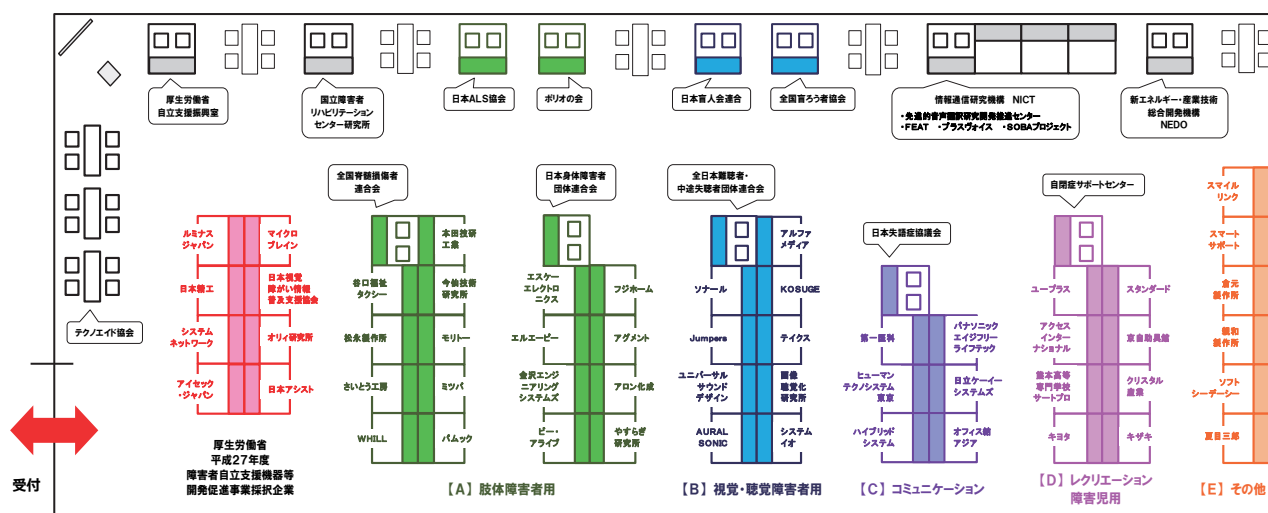
◇場所：TOC有明コンベンションホール4F W1～5

(りんかい線国際展示場駅 徒歩3分)

◇参加：出展者 72団体・企業

来場者 394名 (シース側219名(56%)、ニーズ側175名(44%))

会場レイアウト



交流会場の様子

④ 参加した障害当事者団体（9団体）

本交流会への参加を要請した障害当事者の団体の概要は以下のとおりである。

団体名称	概要
社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会	1958年創設。全国の障害者団体の組織活動の推進、障害者の保健・福祉の増進、社会活動への完全参加と平等の実現を目的とし、全国62都道府県・指定都市の障害者を中心とする当事者団体と社団法人日本オストミー協会、社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会の計64団体をもって構成している。
公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会	1959年創設。「重い障害があっても普通に暮らせる社会」を目標に全国各県・支部と共に、障害者のための社会環境を変える活動を行っている。
一般社団法人 日本ALS協会	1986年創設。「ALSと共に闘い、歩む会」として、患者と家族を中心に、遺族・専門医・医療関係者や一般有志が集まり設立されたALS患者の療養生活の向上と治療法の確立を目的とした活動を行っている。
ポリオの会	1995年創設。ポリオとPPS（ポリオ後症候群、ポストポリオ症候群）についての医療情報を求めるとともに、ポリオ体験者が手をつないで自分達の体験や症状をまとめて伝えていくことなどを目的に結成東日本を中心として、沖縄から北海道、アメリカ、イギリスまで広がり、お互いに有益な情報を求め、医療機関に働きかけ、励ましあって、会員一人一人ができることで会運営を支える体制で、緊密に協力し合って活動を行っている。
社会福祉法人 全国盲ろう者協会	1991年創設。全国の盲ろう者の福祉を目的とする唯一の社会福祉法人として、一人でも多くの盲ろう者が自立できるように、また、自立の難しい盲ろう者も、働く喜び、仲間と語らう喜び、その他種々の喜びを味わうことができるように援助することを目的として活動している。
社会福祉法人 日本盲人会連合	1948年創設。都道府県・政令指定都市における61の視覚障害者団体の連合体で、国や地方自治体の視覚障害者政策一人権、福祉、教育、職業、環境問題等一の立案・決定に際し、視覚障害者のニーズを反映させるため、陳情や要求運動を行っている。
一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会	1991年創設。全国の難聴者・中途失聴者（以下「難聴者等」という）に対する施策の充実普及のための諸事業を行い、難聴者等に対する社会の理解を促進させるとともに、難聴者等のコミュニケーション手段等に関する調査研究等を行うことにより、障害者の社会的地位の向上と福祉の増進及び社会参加の促進に寄与することを目的として活動している。
NPO法人 自閉症サポートセンター	千葉県柏市を中心に、自閉症をはじめとした発達障害のある人を対象に、様々な活動を行う平成26年4月から社会福祉法人青葉会に統合され、更に力強く活動を行っている。
NPO法人	1983年創設。話す・書く・聞く・読む・計算する等、コミュニ

団体名称	概要
日本失語症協議会	ケーション全般にかかわることが困難になる失語症は、日常生活に多くの困難を抱えるにもかかわらず見えない障害なので、社会全般に正しく理解されていない。他の障害者団体と手を取り合い失語症に関する社会啓発と障害者施策の整備などの活動を行い、失語症があっても人として当然の生活を送ることができる社会の設立を目指している。

⑤ 参加した企業（71企業）

本交流会では、「障害者向けの支援機器を開発中の企業で、試作器を出展できる企業等」を対象とし出展者を募り、以下の条件で出展企業及び出展機器を選考した。

【出展製品及び企業に関する条件】

- 開発、改良を目的とした製品であること（既に販売している製品は対象外）
- 障害当事者等と交流を深め、良質な支援機器の開発・改良を目指している企業等

◇選定にあたっての基準

当初の予定を大幅に上回る出展希望があった為、あらかじめ確保していた会場を拡張するとともに、展示レイアウトも再考することとした。

出展企業の選定にあたっては、予算及び会場規模等を勘案し、できるだけ多くの企業に出展いただけるよう配慮するものの、以下に掲げる事項に該当する案件については、選定しないこととした。

- ・既に商品化、販売しており、交流会を踏まえて製品改良を行う意思がないもの（本交流会を製品のPRの場として期待している企業）
- ・主に高齢者向けに開発され機器であり、障害者向けの機器ではないもの
- ・試作品がなく、アイデア段階のもの

⑥ 参加企業及び出展機器

交流会へ参加した企業及びそれぞれの出展機器に関しては、資料編4.「シーズ・ニーズマッチング交流会出展機器一覧」を参照されたい。

⑦ マッチングコーディネーターの活動

検討会議から選出した5名のコーディネーターが会場内を巡回しながら交流を促すとともに各種の相談に応じアドバイスを行った。

また、障害当事者団体選出のコーディネーターは自団体ブースの主担当として日常生活の課題等のニーズを開発者等へ伝えることを主とし、交流の活性化を促した。

以下、検討委員選出コーディネーターからの主な報告

○全般に係るアドバイス（検討委員）

- ・ 出展者に対しては、福祉用具・支援機器の利活用を促進するという観点から、我が国の福祉用具・支援機器の開発助成のあり方が見直されつつあることの説明と、当該シーズ・ニーズマッチング交流会の開催意義についての解説を試みた。
- ・ 利活用促進の観点から、実証試験による客観的な評価データを提供することにチャレンジすることをアドバイスした。
- ・ 実証試験を実施する上で想定される困難点などを聴取するとともに、公的機関の開発費等の助成に関する要望を聴取し、出展者が機器開発／普及販売促進で感じている困難点の聴取並びに、困り事に関してはまずテクノエイド協会に相談してみるとのアドバイスを行った。

○出展企業へのアドバイス（検討委員）

【足操作マウス】株式会社ビー・アライブ

- ・ 難病患者リュウマチの人が喜ばれるとアドバイスした。
- ・ 後日、担当者より連絡があり、東京会場に来られた難病リュウマチ患者に商品説明したところ、その患者様から生きる希望が湧いたと喜ばれたとの話であった。

○来場者へのアドバイス（検討委員）

精工技研株式会社

- ・ 移乗機器開発のためのニーズ調査で来場。例として車いす使用者の脱衣所での介助（衣類を脱ぐ際、壁面に取り付けた手すりのバーを持って介助するなど）の様子を紹介。
- ・ 立ち上り機器としてのニーズの可能性を伝え、全国脊髄損傷者連合会へつなげた。

○出展者と来場者のマッチング（検討委員）

【洗濯物仕分けサポートシステム】親和製作所

- ・ 「センサ部分をもう少し工夫すれば、新商品の開発が出来そうだ」「展示しているシステムをそのまま使用するのは極めて使用範囲が狭いので、この技術をどのように応用するかが課題だ」といった開発企業の来場者との意見交換を実施。
- ・ このセンサを使いたいメーカー探しが課題だとアドバイスした。

○海外展開へのアドバイス（検討委員）

- ・ 海外展開に繋がりそうな製品やサービスを開発している15社と個別協議を行った。
①海外展開する場合の一般的な課題、展開方法など ②デンマークを欧州やアジアへのゲートウェイとして活用出来ることを説明 ③製品開発プロセスについて：未完成品の段階で福祉先進国である北欧デンマークなどの評価を得ることが効率的であることなどを説明した。
- ・ オリィ研究所、ミツバ、WHILL、エスケーエレクトロニクス、モリトー、ルミナスジャパン、日本精工、FEATが興味を示した。

⑧ 主な交流の内容

会場では参加者の属性や障害の種別を問わず、様々な交流が活発に行われた。

出展企業においては、今後の開発に活かせる意見を逃さないよう、広い範囲による意見交換がなされ、当該機器に必要な機能や構造、対象となる範囲や目的の絞り込みの検討に役立てるとともに、今後開発を進めるにあたっての協力関係を構築することができた。

また、シーズ同士の交流も積極的に行われ、技術や業務の提携に関する協議がなされるとともに、新規参入を検討する企業や地域の経済振興組織の方々からは、シーズやニーズと出会うことができる極めて貴重な機会であり、地域に戻り支援機器開発を行っていきたいとする声が多く寄せられた。

さらに当事者団体のコーナーに企業が列をなす場面もあり、障害当事者の置かれている課題等を把握するとともに、自社の製品開発の企画についてご意見等を伺うことができた。

とりわけ東京会場では参加者が切れ目無く来場され、マッチングコーディネーターが掛け振り回るシーンが多くあった。

(大阪会場による交流の様子)



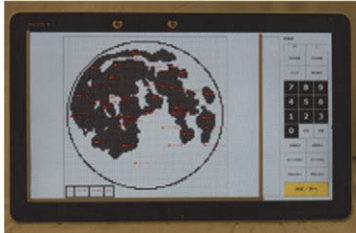
(東京会場による交流の様子)

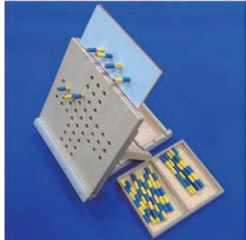




主な交流の内容

交流	出展者名／出展機器	来場者属性	主な交流の内容
シーズ × ニーズ	(株)今仙技術研究所 歩行支援機 「ACTIVE」 	障害者	<来場者の感想や意見> 歩行アシストに興味があった。初めて試したが、動かしやすく使いやすかった。この程度の力でずいぶん違うのが分かった。装着した状態で座ることはできるのか。 <出展者の感想や意見> 装着状態でも座ることは可能。あぐらもかける。
シーズ × ニーズ	本田技研工業(株) Honda 歩行アシスト 	障害者	<来場者の感想や意見> 初めて試着した。押される感じはなく何か動いているのがわかる程度。稼働時間が想定よりだいぶ長く驚いた。腰骨に器具が乗るため軽くなるとなお良い。
シーズ × ニーズ	(株)モリトー 片麻痺者用歩行配膳車 (3点支持式) 	行政	<来場者の感想や意見> 障害者だけではなく、オフィス等一般向けに活用できるのではないかと。確かに動かしやすい。配膳器具の構成など新しい発見があり、大変参考になった。
シーズ × ニーズ	(株)ソナール ヒアリンググループ 	障害者	<来場者の感想や意見> 重度の聴覚障害があるため、自分には聞き取るのが難しかったが、良い機器なので、様々な環境で採用や導入につながって広まってほしい。 <出展者の感想や意見> 重度の障害への対応も含め、今後も改善を加えて、バスや様々な施設に導入されるよう努力したい。

交流	出展者名／出展機器	来場者 属性	主な交流の内容
シーズ × ニーズ	ユニバーサル・サウンドデザイン(株) comuoon iListening 	障害者	<来場者の感想や意見> 音が聞こえるだけでなく、重度の聴覚障害者でも内容を理解できるレベルのツールを探している。重度の人でも使えるように聞こえの度合いに合わせて設定できるような改良を考えているのであれば、是非協力したい。 <出展者の感想や意見> 指向性マイクで子音をきれいに拾って出力する音の質を上げている。個別の設定については現在研究開発中である。
シーズ × ニーズ	株) KOSUGE MyCane®II SPOT 	障害者	<来場者の感想や意見> 便利だが少し重さが気になる。軽量化等の改良で当事者の意見が必要であれば、協力したい。耐久性に関してはどのような工夫をされているのか？ <出展者の感想や意見> 改良して軽量化を図りたいと考えている。耐久性に関しては防弾チョッキの構造を応用し、障害物に強くぶつかっても衝撃を吸収する構造となっている。
シーズ × ニーズ	(株) レイトロン 自立支援向け コミュニケーション ロボット 	障害者 家族	<来場者の感想や意見> 言語障害があり、自分の声の大きさや発音でも反応するか試したい。 <出展者の感想や意見> 静かな室内であれば問題なく使用できる。マイク使用も可能である。個々の発音の癖への対応については今後の課題としていきたい。
シーズ × ニーズ	(株) 画像聴覚化研究所 画像聴覚化装置 	障害者	<来場者の感想や意見> 盲ろう者でも使いそうな機器を探している。視覚障害者向けということだが、試しに使わせてほしい。 <出展者の感想や意見> 現在は視覚障害者用として開発しているが、今後は盲ろう者の方にも使っていただけるような改良も検討していきたい。

交流	出展者名／出展機器	来場者 属性	主な交流の内容
シーズ × ニーズ	(株) システムイオ (旧：テックアイオーサービス) お財布型ポータブル 紙幣識別機 W a l l e t 	障害者	<来場者の感想や意見> 盲ろう者なので、音だけでなく振動でお札の種類が分かるのはうれしい。これは便利だと思う。汚れているお札への反応はどうか？ <出展者の感想や意見> 多少のシワは読み取り可能だが、ひどく汚れていると識別できない。今後は識別の精度向上も課題にして製品開発に取り組んでいきたい。
シーズ × ニーズ	京 自助具館 フリーポジション・ペグ 	福祉 関係者	<来場者の感想や意見> 視覚障害者を支援する立場であり、既存のゲーム以外に新しいものがないかを探している。丁寧な作りであり、パズルゲーム盤が磁石になっていることから、管理しやすいと感じた。 <出展者の感想や意見> すべて手作りであることから、要望に対応できる。
ニーズ × ニーズ	全国盲ろう者協会 (コーディネーター 庵氏) 	障害者	<来場者の感想や意見> 盲ろう者でも使えるような製品を探している。視覚障害者向け、聴覚障害者向けでは、自分は使えない。 <出展者のアドバイス> 盲ろう者自体人数も少ないし、一人一人ニーズが違う。数が少ないとメーカー側も開発しようという風にはならないのかもしれない。ただ、高齢になると、視覚障害者は耳が遠くなるし、聴覚障がい者は目が弱くなって、盲ろう者に近い状態になるのだから、盲ろう者向けの製品開発をすることのメリットはあるのではないかと思う。

交流	出展者名／出展機器	来場者属性	主な交流の内容
シーズ × シーズ	(株)スタンダード heart bridge smock 	障害者 家族	<来場者の感想や意見> 自分の子供が自閉症で、手順を示したカードをデザイナーに委託して作成し、近日ネットショップを開店する予定。今ちょうど、ちょうちょ結びの手順カードを作っているところだが、実物で練習できるエプロンとして最適。セットで仕入販売してもよいか？ <出展者の感想や意見> 是非前向きに検討したい。
シーズ × シーズ	(株)プロアシスト 脳波センサZ A 	研究 支援 団体	<来場者の感想や意見> 他のバイタルと組み合わせられないか。サプリメントの効果と脳波を照らし合わせて検証することも可能かもしれない。 <出展者の感想や意見> 脈拍、呼吸、血圧など多様な組み合わせることは可能性としてありうる。脳波測定はできるので、組み合わせ方法はお任せしたい。

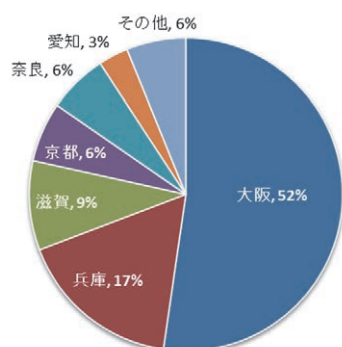
⑨ アンケート結果

種別	大阪開催		
	参加者数	回答数	回答率
来場者	138 名	65 名	47%
出展団体	10 団体	5 団体	50%
出展企業	38 社	24 社	63%

	東京開催		
	参加者数	回答数	回答率
	394 名	206 名	52%
	12 団体	5 団体	42%
	58 社	48 社	83%

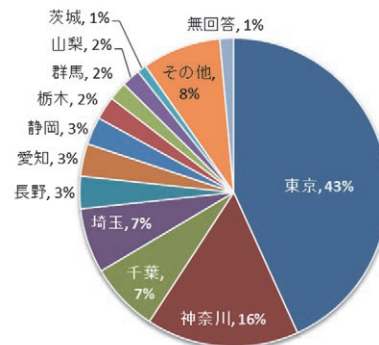
◇来場者の居住地域

＜大阪開催＞ n=65



※その他内訳：埼玉、福岡、沖縄

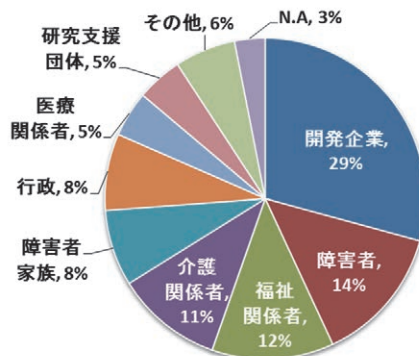
＜東京開催＞ n=206



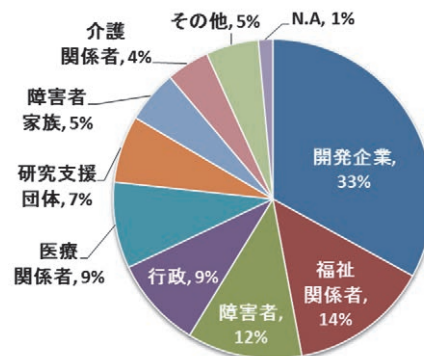
※その他内訳：北海道、青森、山形、福島、岐阜、富山、滋賀、京都、大阪、兵庫、広島、山口、熊本

◇来場者の属性

＜大阪開催＞ n=65



＜東京開催＞ n=206

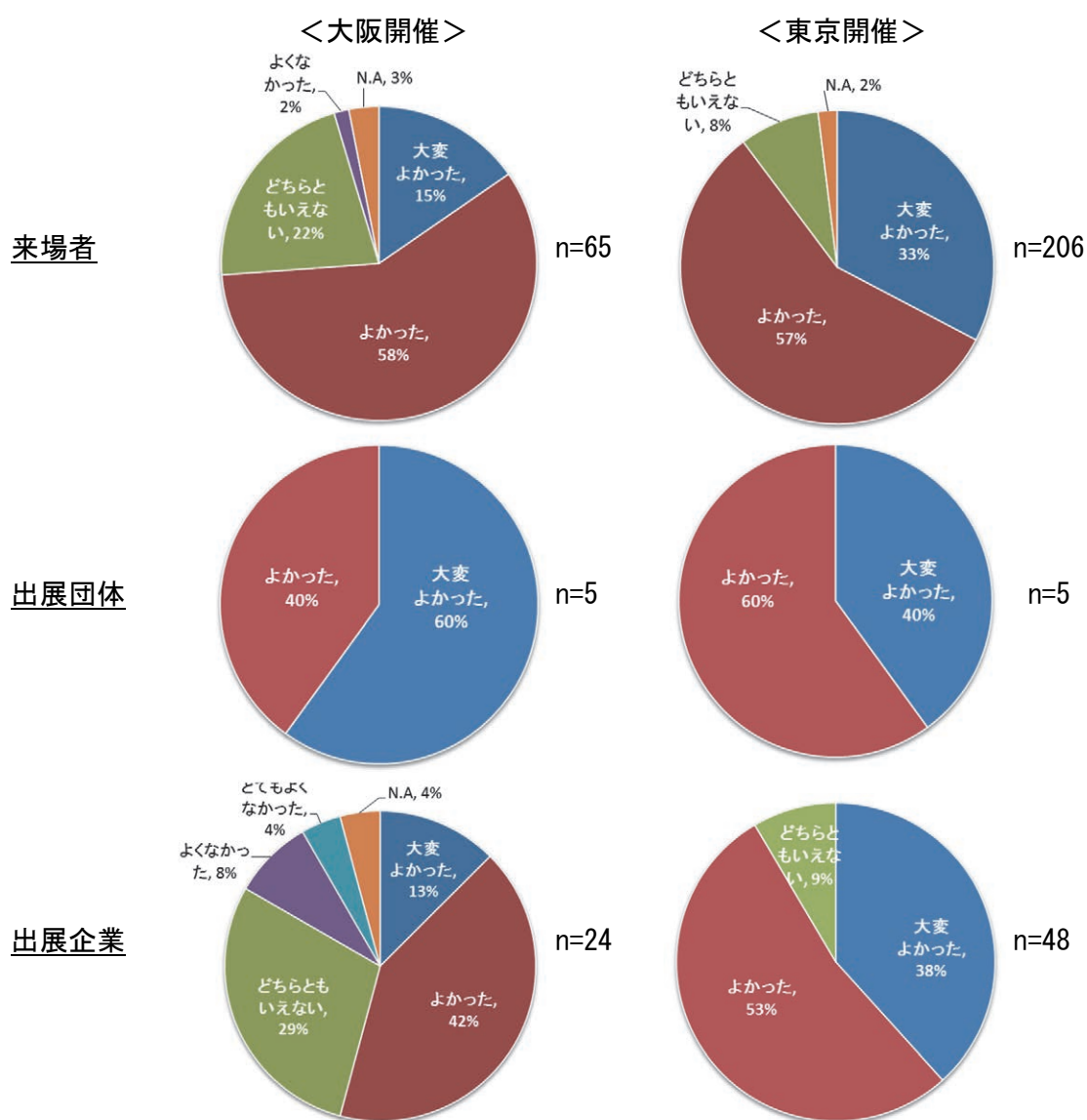


○来場者の感想・意見

- ・あまり混んでいなかったので手話通訳付きでじっくり話を聞いた。(障害者)
- ・説明がよく分かった。リハビリの参考になり今後に向けての希望が持てた。(障害者)
- ・自分は聴覚障害なので視覚障害関係には興味はなかったが、今回ゆっくり視覚用の機器を見てまわった。いろいろ工夫されていてびっくりであった。(障害者)
- ・インターネットでは得ることができない、生の話を聞くことができた。(障害者家族)
- ・本人が興味を持つ機器に出会えた。(障害者家族)
- ・使う人、作る人、若い人、年配の熱い人、障害当事者、介助者、さまざまな層で、いろんな知恵の出どころでおもしろかった。(介護関係者)

- ・企業側に意見・ニーズを伝えることができた。(医療関係者)
- ・職能団体の代表として障がい団体とのコミュニケーションがとれた。(医療関係者)
- ・さまざまな業種の人と交流ができた(開発企業)
- ・マッチングの可能性ができた。(開発企業)
- ・医療に従事する人間同士、具体的な悩みを解決できる話ができ、その方向性を見つけられた。(開発企業)
- ・出展者同士の活発な交流の場でもあり、課題の共有や補完ができていて良かった。ヒントもたくさんあり、エピソードを次に活用できそうである。(研究支援団体)
- ・妙にステージを設けるのではなく、Face to Faceを大事にした設営が良かった。打合せコーナー、イスも臨機応変で機能的だった。(研究支援団体)

◇満足度

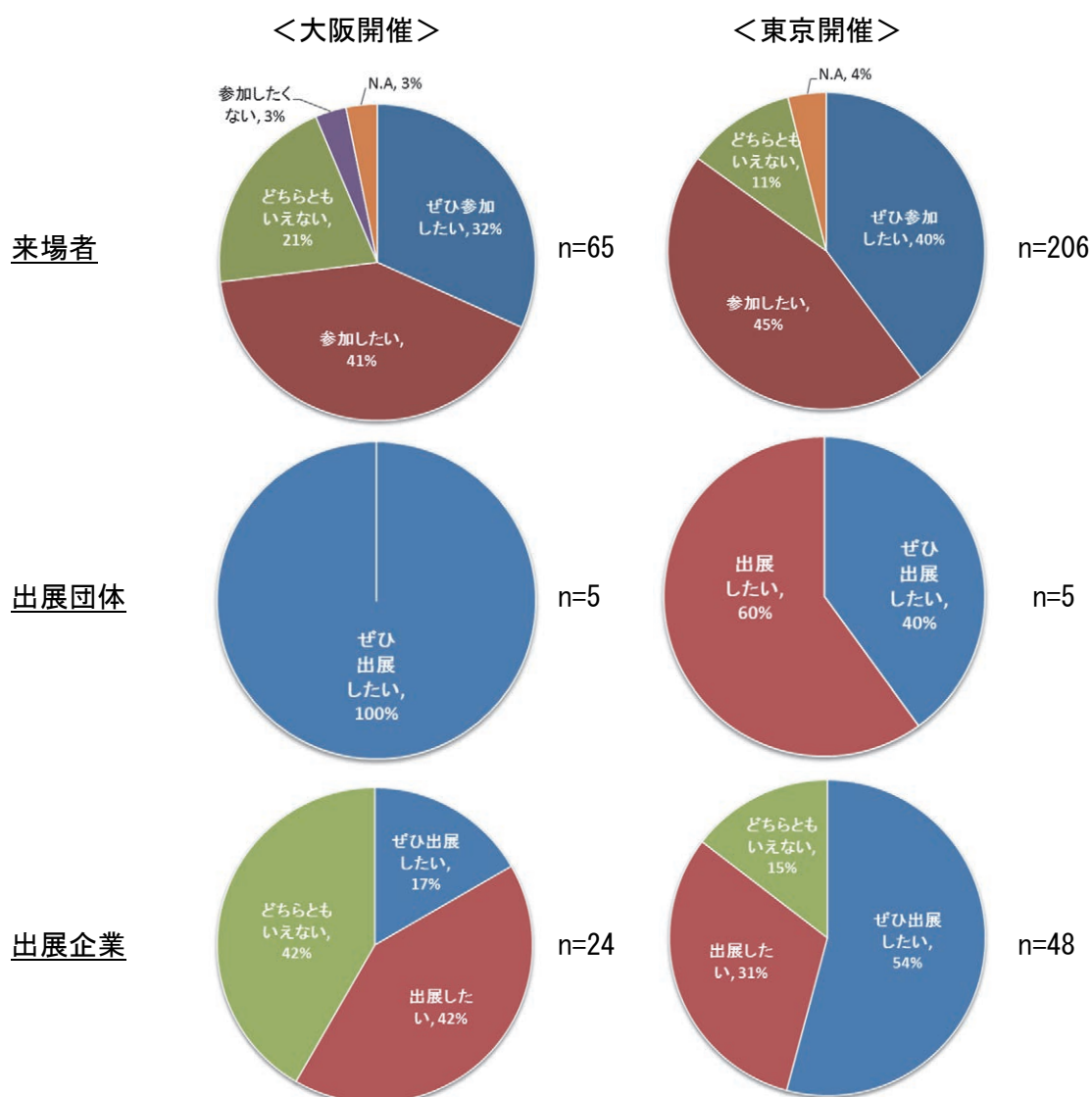


○来場者の感想・意見

- ・自分が求めていた道具が形になって使えるということにとっても救われた思いだった。自分に役立つ機器が見つかった。(障害者)

- ・開発途中の機械に触れることができた。(障害者)
- ・実際に使用できそうな器具がありそうなのがわかり、参考になった。(障害者家族)
- ・機器の進歩、最新の情報を知った。今後役立つ。(福祉関係者)
- ・時代の進化を感じ、創意工夫がされていることから、年々機器が進化していることが分かった。努力がうかがえる。(福祉関係者)
- ・自分の知らない補助ツールが多々あり視点が広げられた。(医療関係者)
- ・日本の障がい者を取り巻く環境の一部を確認できた。(医療関係者)
- ・医療機関で使用するには、対象者が限定されているものが多く、導入が難しい。様々な企業が参加しているため、沢山の情報が一度に得られるのはとても充実した時間となった。(医療関係者)
- ・ひとつの障害に限らず、様々な障害に対する製品が同時に見ることができるのも魅力的であった。(開発企業)
- ・知らない製品やニーズを知ることができた。(開発企業)
- ・福祉用具について理解を深められた。(開発企業)

◇次回の参加意向



○参加者の感想及び主な意見

- ・ 色々な集会、団体、個人の方々と交流ができた。(アイセック・ジャパン)
 - ・ 普段は同じ製作グループくらいしか交流がないが、企業や団体と交流したりPRする機会ができたのがよかった。(京自助具館)
 - ・ 開発品について新たな用途開発の可能性が見つけられた。新規商品として適用できるものがみつかった。(KOSUGE)
 - ・ 一般的な展示会と違いピンポイントの方と交流ができた。(金沢エンジニアリングシステムズ)
 - ・ 製品に対する意見を多方面の方々から聞くことが出来た。(親和製作所)
 - ・ 様々な団体から開発などへの良いフィードバックを頂けた。(WHILL)
 - ・ 具体的な改善点などを聞くことができ、今後も交流していきたい相手がみつかった。(京自助具館)
 - ・ 来場対象が絞られていて密度の濃いコミュがとれると思う。(ソフトシーデシー)
 - ・ 想定外の要望があった。(画像聴覚化研究所)
 - ・ 開発中の製品を試すことができ参考になった。(今仙技術研究所)
 - ・ 当社製品のニーズをあらためて確認できた。(マイクロブレイン)
 - ・ 製品を必要としている人たちと話が出来た。(エルエーピー)
 - ・ メーカー側との連携についても模索できた。(アルファメディア)
 - ・ 大阪は予想よりも参加人数(特に当事者)が少なく残念だった。(多くの出展者)
 - ・ もう少し施設関係者にも参加してほしかった。(ダイヤ工業)
 - ・ 特別支援学校の先生、教育機関の方々、リハビリ関係の方々にも来ていただきたい。(スタンダード)
-
- ・ 参加者や出展企業をもっと増やしてほしい。(様々な属性から)
 - ・ 会期が良いと当事者の方も多く参加できると思う。(研究支援団体)
 - ・ バリアフリー展などと同時開催をすれば更なる集客効果があると思う。(開発企業)
 - ・ 重度障がい者にあてはまるものがあればなお良かった。(障害者家族)
 - ・ 国際福祉機器展ともっと違う特色を出せるといいのではないかと思った。(医療関係)
 - ・ 各当事者団体からの発信はもっと強くて良いと思う。個々のマッチングでは一定の成果があると思うが、「我々が必要としているものは」という普遍的なニーズの発信があれば、単にモノをマッチングさせるのではなく、より深いマッチングになると思う。(福祉関係者)
 - ・ ニーズ集はそれぞれ個別のニーズがどれ位あるのかどうやって上がったかなど、もっと多くの情報があればさらに良くなると思う。(医療関係者)
 - ・ 各出展ブースにもっとポスターや掲示物があれば何の機器なのか分かりやすいと思う。(障害者)
 - ・ 会場及び出展者数のバランスは良かったので、障害者支援の面からさらに幅広く展示して欲しいと感じた。(開発企業)

(4) 障害者自立支援機器に係るシーズ・ニーズマッチングの推進

① 障害当事者団体に対するニーズ調査

効果的な交流会の開催とシーズとニーズのマッチングを推進のため、障害当事者団体にご協力をいただき、障害者の日常生活上のお困り事（解決したい課題）や現在使用している支援機器に関する改良点等に関するニーズ調査を行った。

（ヒアリング結果の詳細については、資料編を参照のこと。）

◇主なニーズ調査の内容

- 質問 1. 日常生活上のお困り事（解決したい課題）
- 質問 2. 就労・就学上のお困り事（解決したい課題）
- 質問 3. 趣味やスポーツを行う上でのお困り事（解決したい課題）
- 質問 4. 現在使用している機器について（優れている点／改良してほしい点）
- 質問 5. 交流会に対する要望

◇実施状況

調査日時	調査対象
平成27年8月12日（水） 13:30~15:00	全日本難聴者・中途失聴者団体連合会 川井様（理事）、板倉様（事務局）
平成27年8月17日（月） 10:00~11:45	自閉症サポートセンター 松井様（理事長）、富永様（相談員）
平成27年8月17日（月） 14:30~16:30	全国盲ろう者協会 山下様（事務局長）、橋間様（事務局次長）、小林様（事務局）、大河内様（東京大学先端科学技術研究センターバリアフリー分野特任研究員）
平成27年9月1日（火） 14:00~15:30	日本身体障害者団体連合会 森様（常務理事兼事務局長）、佐藤様（企画調整係長）
平成27年9月5日（土） 17:00~19:00	ポリオの会 小山様（責任者）、橋本様（線維筋痛症友の会理事長）
平成27年9月7日（月） 13:00~13:40	日本盲人会連合 中村様（用具購買所主任）、 小川様（用具購買所）、有泉様（総務部総務課長）
平成27年9月25日（金） 14:00~16:00	日本ALS協会 平岡様、岡部様、小河原様
平成27年9月27日（日） 10:00~12:00	日本失語症協議会 園田様（副理事長）他
平成27年10月14日（水） 13:00~	全国脊髄損傷者連合会 妻屋様（理事長）

② 障害者自立支援機器に関するニーズ集の作成

ニーズ調査の結果を整理体系化し、障害当事者における障害者自立支援機器に関するニーズ集を作成することとし、シーズとニーズのマッチングの活性化に役立てることとした。（ニーズ集については、資料編を参照のこと。）

③ シーズ・ニーズマッチング交流会専用サイトの構築

シーズ・ニーズマッチング交流会の周知及び出展機器の情報提供を行うため、協会ホームページ内に専用サイトを構築した。

(<http://www.techno-aids.or.jp/needsmatch/index.shtml>)

◇出展機器一覧データベース

交流会開催後、出展企業から機器情報及び、今後の機器開発の進め方や抱負等について情報収集を行い、交流会へ参加できなかった全国の関係者へ専用サイトを通じ、情報提供を行うこととした。

収集した情報は「出展機器一覧」の項目からデータベース化し、検索及び閲覧できる仕組みとした。

> 障害者自立支援機器 シーズ・ニーズマッチング強化事業

フリーワード:

年 度: ☐ 平成26年度

☒ 平成27年度

障 害 分 野: ☐ 肢体障害者の日常生活支援機器
☐ 視覚障害者の日常生活支援機器
☐ 聴覚障害者の日常生活支援機器
☐ 盲ろう者の日常生活支援機器
☐ 脳科学の成果を応用した支援機器
☐ その他

☐ 障害者のコミュニケーションを支援する機器
☐ 障害者スポーツ用機器
☐ 障害児の生活を豊かにする支援機器
☐ 難病患者等の日常生活支援機器
☐ 障害者のレクリエーション活動を支援する機器

検 索

ク リ ア

※掲載されている情報は、シーズ・ニーズマッチング交流会後（平成28年3月）時点の情報です。

管理番号 ▲	名称 -	製品画像	障害分野 -	出展者 -	主な特徴 -	備考 -
27-A01-01	WHILL Model A		肢体障害者の日常生活機器	ウィルカブシキガイシャ	① デザイン性 WHILL Model Aは単なる移動手段ではなく、お使いになる…	NEDO （新エネルギー・産業技術総合開発機構）
27-A02-01	多機能6輪電動車椅子シリーズ『レル・リフト』		肢体障害者の日常生活機器 難病患者等の日常生活支援機器	サイトウコウボウ	日本の住環境や生活様式から考えた日本人のための革新的な6輪電動車椅子です。日常生…	NEDO （新エネルギー・産業技術総合開発機構）
27-A04-01	ネクストコアくるり/NEXT-71B		肢体障害者の日常生活機器	カブシキカイシャ マツナガセイサクジョ	安新設計のフレーム。小回り性能。足台の位置。段差乗り越えモード。	なし

5. 本事業を終えて

交流会を終えて、検討委員会でのご意見やアンケート調査等の結果から今回の課題を抽出し、今後の交流会及び交流会後のフォローアップ等の在り方について検討することとする。

(1) シーズ・ニーズマッチング交流会について

- 参加来場者について、東京会場では昨年以上に多かったものの、大阪会場では予想に反して少人数となった、その主な原因は、
 - ・ 土曜開催
 - ・ 会場アクセスの不便さ 等が想定されるところであり、次期開催にあたっては再考する必要がある。
- 昨年の反省点として挙げた、障害当事者への対応について、不備がないように心がけ安全・安心な交流会を開催することができた。
一方、充実したスタッフを配置するためには費用もかかるため、適宜適切な人員配置について引き続き検討する必要がある。
- イベント会社に業務の一部を委託したところであるが、業務範囲についても再考する必要がある。
(運営上の配慮)
 - ・ 規則的なブースレイアウト（視覚障害者等に対する配慮）
 - ・ 会場までの誘導スタッフの充実（視覚障害者等に対する配慮）
 - ・ 通訳スタッフやプラカードでの巡回案内等の情報保障の充実（聴覚障害者等に対する配慮）
 - ・ タッチパネル式音声ガイダンスの設置（東京会場のみ）
 - ・ サポートスタッフの充実や貸出用車いすの設置
 - ・ 交流用、休憩用のテーブルやいすの充実 など
- 今年度は2会場とも、企業ブースをテーブルと椅子のみのシンプルな仕様に変更し圧迫感を無く解放的な雰囲気とした。
全体を見渡せる解放感のある会場となり、参加者はリラックスして充実した交流ができた。
一方、東京会場では、切れ目無く来場者が訪れ、意見交換の順番待ちをするシーンもあった。

(2) アンケート調査結果から

<企業出展者>

- 開発中の機器に関する改善点や新たな開発の可能性など、今後の開発に活かせるニーズ側との交流ができただけでなく、企業間交流によりシーズ&シーズでの情報交換や共同開発の可能性などの交流もできており、出展者側の目的は概ね達成できた。
- 一方、出展した障害者団体やマッチングコーディネーターともう少しじっくりと交流したかったとの意見もあった。
本交流会では、来場者との交流がメインとなるため、今後のマッチング推進にあたっては、交流会前後においても自由な意見交換等が維持・継続できる環境の構築が求められる。
- 行政や教育関係者等の来場を希望する声もあった。自立支援機器に係るより多くの

関係者に参加していただけるように周知の範囲を再考する必要がある。

<来場者>

- 来場者の属性を問わず、様々な交流ができた、機器の体験ができて良かったという声が多く上がっていた。
- 障害当事者をはじめとするニーズ側からは、最新の役立つ機器情報が得られただけでなく、改善要望や開発依頼など直接ニーズを伝えることができたとの声も上がった。
- 開発企業をはじめとするシーズ側からは、様々なニーズ情報を得ることができたとの声が多く、新規参入に意欲的な企業も見られた。
障害者の現状・課題等について把握することができ、また、助成金や事業の仕組みを知ることができたなど、より多くの情報収集ができたとする声が多く寄せられた。
- 全体的に来場者の満足度は高いものの、障害当事者からの意見には、目当てのものや期待するものがなかったとする意見もあった。
出展内容や機器情報などを早い段階で、分かりやすく提供できるよう、開催までの全体スケジュールを再検討する必要がある。

<その他>

- 開催規模や出展企業数にはちょうど良い・少ないなど賛否両論さまざまな意見があった。
- 開催期間の延長や昨年行ったセミナーやプレゼンを希望する声も上がっていた。
- 開発企業などのシーズ側からは、ニーズ発表会など障害当事者団体からの情報発信をもう少し力強く行ってほしいとする意見もあった。

(3) シーズ・ニーズマッチングの推進について

- コーディネーターにはマッチングの推進役として、積極的に関わって頂きたいところであるが、所属団体や個人の取り組み姿勢に差が見られた。
- 本年度よりコーディネーター会議を開催したところであるが、コーディネーターの役割やあり方の共通認識レベルを高めるまで至らなかった。
- 実際に交流会場で様々なコーディネートを行った検討委員選出コーディネーターからの意見を今後の課題として検討する必要がある。

<検討委員選出コーディネーターからの主な意見>

(役割の更なる明確化について)

- ・ マッチングコーディネーターとしての役割、ミッションを明確にし、行動を起こしやすいよう工夫すること。
- ・ マッチングコーディネーターの役割に関して、関係者間でイメージが必ずしも一致しているわけではなく、交通整理が必要である。
- ・ まずはマッチングコーディネーターへの多様な期待を体系化し、開発者が必要とするコーディネーションのデザインを可能とする整理を並行して進める必要がある。
その第一歩として今回のシーズ・ニーズマッチング交流会に協力して貰ったコーディネーター役の方々に取材し、役割分担等、業務を明確化することが必要である。

(コーディネーターの専門性について)

- ・ 展示機器に関する事前学習や十分な情報を得たうえで、コーディネートの仕事に取り組むべきである。

- ・ 機器をいかにして障害をお持ちの方々に紹介できるか？コーディネーターが専門知識を養う必要がある。
- ・ 機器と利用者のコーディネートは事前によく勉強した機器でないと困難であり、本来来訪者と企業の交流を深める前、当該機器の現状について、しっかりと理解しておく必要がある。
- ・ マッチングコーディネーターの多様性に関して、何か良いモデルが出来ない。
 - ア) 製品を開発した。どこかで試しに使ってみて貰って、感想を聞きたい。改良点を聞きたい。
 - イ) 特許を保有している。これを活かした支援機器の開発を実現したいが、どんなニーズがあるのか。
 - ウ) ニーズに合わせてより一層使い勝手の良い、完成度の高い機器に仕上げたいが、誰に相談したらよいか。
 - エ) 障害者のニーズについて候補となる福祉用具を紹介して欲しいという要望に適切に応えられるコーディネーター。
 - オ) 制度に関するアドバイスができるコーディネーター。
 - カ) 福祉機器開発助成のあり方についてアドバイスできるコーディネーター。
- ・ 現場の要望と技術を“翻訳するスペシャリスト”が不足している。

特に、現場の個別ニーズをそのまま技術や製品で置き換えるのではなく、障害当事者の要望を咀嚼（そしゃく）した上で、開発企業では個別の要望を事業化出来るレベルに組立て直す事業開発能力、そして、技術を深いレベルで理解し、要素技術を横断的に見通しながら統合出来るサービス構想力を有する人材の育成が必須である。

(その他)

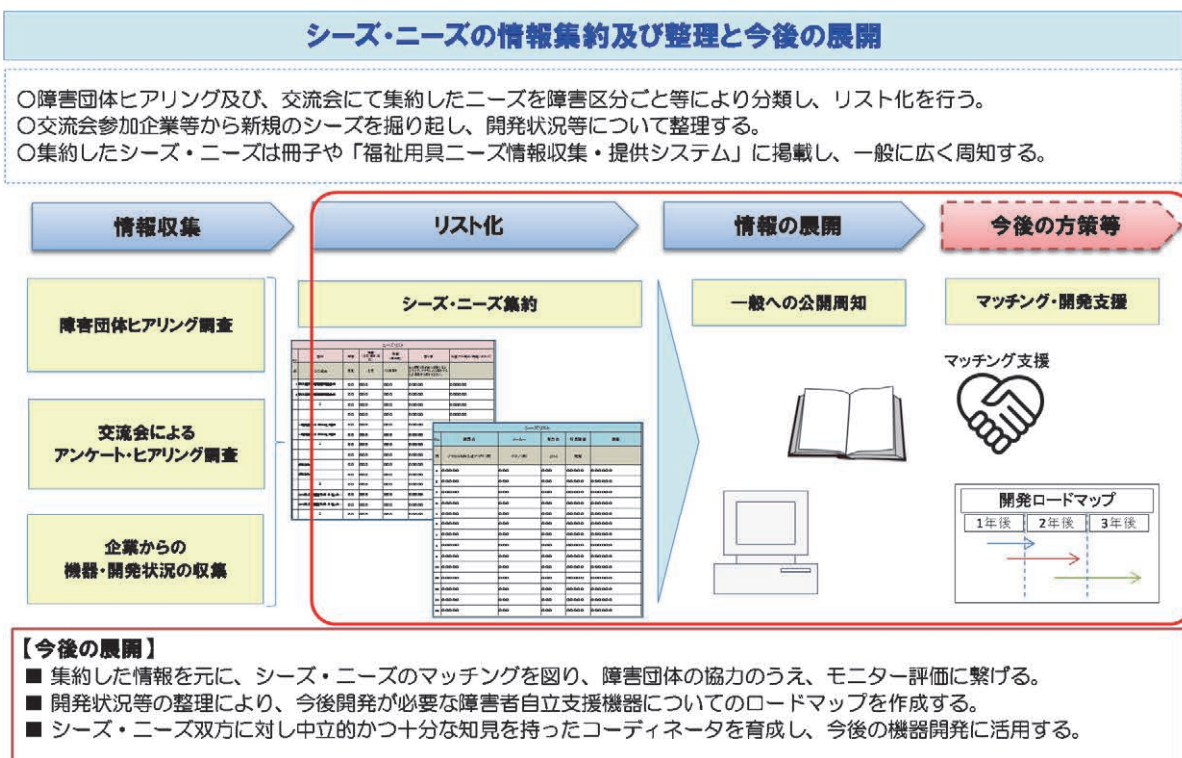
- ・ 利用者からどこまで聞き出していいのか、不安があった。
- ・ 完成度の高い展示機器に対して、メーカーにどこまで改善希望をだしていいのか、不安であった。
- ・ 禁止事項も決めておいた方が良い。「使う人」の話を深く聞くと「そのまま作る人へ伝え難いこと」もあった。また、「作る人」の話を聞くと、メーカーの得手不得手や取引先の情報など他言できない内容もあった。
- 今回、新たな試みとして、障害当事者団体に事前ヒアリングして作成したニーズ集を交流会で配布したところである。

まずは交流のきっかけ作りのためのツールとして参加者に使用して頂いたが、今後はこのニーズ集がシーズの掘り起こしや新規企業参入促進の一助となるよう、更なる内容の充実を図る必要がある。
- 加えて、ニーズ集に限らず、有効な機器開発につなげるために障害当事者のニーズをどのようにして発信するかについて、今後も障害当事者団体と共に継続して取り組む必要があると考える。
- 今回のコーディネーターには、医師や理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、義肢装具士等の専門職が入っておらず、シーズとニーズのマッチングをより適切かつ効果的に実施するためには、こうした専門職の関与も必要不可欠である。

(4) シーズ・ニーズの情報集約および整理について

今後継続的に、個別具体的なニーズに対応可能な製品や技術とのマッチングを行うとともに、対応されていないニーズについては、関係機関・企業等と情報共有するとともに、現在当協会にて改良している福祉用具ニーズ情報収集提供システムへ掲載し、引き続き、開発を促すこととする。

また本交流会の場等を通じて、開発の状況を確認・共有しあうとともに、交流会に参加することのできない障害当事者と開発者が如何にして交流するか、今後継続した検討課題である。



(5) 検討委員からの主なご意見

- より専門的な内容で交流を行わないと前に進めないと思う。障害者団体の機器開発においては、まだまだこの交流会は必要だと感じる。
- 点字機器が作れる企業に要望を出したら、作ってくれるという話に結びついた事例もあるので、技術を持っている企業に対してニーズを呼びかけていくことが大切である。また、企業が開発で困っていることに対して、アドバイスできるような支援ができると思った。
- シーズ・ニーズのマッチングによって解決できる領域とそうでない領域がある。ユーザーのニーズと量産化できる技術及び市場化できるレベルが同期していないと難しい。また、他の国が行っている活動もうまく応用できると良い。
- 本当は開発の途中のプロセスの段階でPTやOTが入ったほうが良い。一番大事なのは開発の途中の段階で、どこでモニターを行うか、誰にアドバイスをもらうかが重要である。
- マッチングは交流会当日だけでは難しい。日々マッチングのための積み重ねが大切。

ニーズ・シーズの場では専門家は必ずしも必要ではなく、どのような暮らしが重要か話し合える人が重要だと思っている。

- 今回のような試作品あるいは完成品直前の機器よりも、その前段階にあたる開発アイデア段階の機器について交流会が必要だと思った。そこから開発が進められたものを交流会で展示等してはどうか。
- ニーズ収集を行った翌年度に「障害者自立支援機器等開発促進事業の開発テーマ」への応募をするような流れができると良いと思った。

(6) 今後のシーズ・ニーズマッチング交流会の在り方

① 参加いただく障害当事者団体の裾野拡大について

今年度は9つの障害当事者団体に参加協力をいただいたところであるが、カバーしきれていない障害当事者のお困り事はまだ多くあると思われる。

より広い範囲の障害ならびにそれに伴うニーズを引き出し、多岐にわたる機器開発へつなげるため、参加団体数を増やしていくことを検討する必要がある。

また、それぞれのニーズに対し、どれだけのシーズがあるかを確認していくことも重要である。

② マッチングコーディネーターの位置付けの明確化（交流会時とそれ以外）

コーディネーターにはマッチングの更なる推進役となっただけのように、専門職が加わることも含めて、その役割と業務範囲をより具体的に示しておくことが重要である。

とりわけ交流会以外でのマッチング及び、フォローの仕方など、開発から普及の各場面事の実例を示す必要がある。

③ 交流会後のフォローアップの在り方

交流会はあくまでマッチングのきっかけ作りの一つであり、そこで生まれた芽を如何にして育て製品化に結び付けるかが重要となる。一旦企業での開発が進み始めると、ヒアリング等により開発進捗を確認するのが現実的なフォローアップとなるであろう。その際マッチングコーディネーターが介在して意見交換やアドバイスを継続することができれば、ニーズを確実に反映した機器開発に繋がる。

マッチングできた案件を確実に次の開発テーマにつなげるには、このような取り組みを繰り返して蓄積し、そのプロセスや手法をガイドラインとして取りまとめることも必要となる。

④ 市町村職員等に対する既存製品に関する情報提供

機器の給付に関わる市町村職員等に自立支援機器をもっと知って頂くことも、障害当事者にとっては有益であると思われる。当該職員等が情報収集する場として交流会を積極的に活用していただけるようなプログラム（自立支援機器開発のロードマップ的な見せ方で既存機器を紹介するなど）作りも今後の課題である。

今回は試作中の機器のみを展示出展いただいたところであるが、既に実用化した製品であっても、新たなイノベーションの創出等により、障害者の日常生活の便宜を図り活動や参加を促す支援機器等については、積極的な情報発信を行うべきである。

⑤ その他

より内容の深い交流会にするためには、参加者は目的意識をはっきりもって参加する必要があり、そのためには “何をするための会なのか”、“どのようなメリットがあるのか”などをより具体的な内容を事前に周知をする必要がある。

II. 資料編

1. シーズ・ニーズマッチング強化事業の実施について
2. シーズ・ニーズマッチング交流会 出展要綱
3. シーズ・ニーズマッチング交流会 開催プログラム
4. シーズ・ニーズマッチング交流会 出展機器一覧
5. 障害者自立支援機器に関するニーズ集
6. 関係団体ニーズ調査の結果

障発 0930 第 1 号
平成 26 年 9 月 30 日
最終改正障発 0327 第 18 号
平成 27 年 3 月 27 日

都道府県知事
各 指定都市市長 殿
中核市市長

厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長

障害者自立支援機器等開発促進事業（シーズ・ニーズ
マッチング強化事業）の実施について

標記について、障害者のニーズを的確に反映した障害者の自立を支援する機器の開発を促進する観点から、機器開発分野への新たな企業の参入促進を通じた適切な価格で障害者が使いやすい機器の製品化・普及を図るため、今般、別紙のとおり「障害者自立支援機器等開発促進事業（シーズ・ニーズマッチング強化事業）実施要綱」を定め、平成 26 年 4 月 1 日から適用することとしたので通知する。

貴職におかれては、産業振興関係部局、管内市区町村、関係団体及び福祉機器開発関連企業等に対して周知を図るとともに、本事業の適正かつ円滑な実施が図られるよう、特段の配慮をお願いする。

(別紙)

障害者自立支援機器等開発促進事業（シーズ・ニーズ マッチング強化事業）実施要綱

1. 目的

障害者の自立を支援する機器（以下「障害者自立支援機器」という。）の開発については、障害者自立支援機器等開発促進事業により開発を行う企業に対して、実用性評価の支援など適切な支援を進めてきたところであるが、開発された機器の中には、障害者のニーズを的確に捉えたものとなっていない実用性の低い機器も見受けられるところである。

このため、本事業は、民間企業等、学術団体等の研究機関及び障害当事者の知識・技術を結集し、個別具体的な障害者のニーズを的確に反映した機器開発をスタートさせる機会を設けるとともに、開発中の機器について、実証実験の場を紹介すること等により、機器開発分野への新たな企業の参入促進を通じた適切な価格で障害者が使いやすい機器の製品化・普及を図ることを目的とする。

2. 実施主体

実施主体は、障害者自立支援機器の実用的製品化開発、普及に知見を有している民間事業者等（国及び地方公共団体を除く企業又は団体）であって、3. に規定する事業を行う能力及び体制を有し、その経理が明確かつ経営の安定性が確保されている法人とする。

3. 事業内容

（1）企業や障害者等が参加する福祉機器に関する交流会等の開催

障害者のニーズに沿った機器開発を促進する観点から、開発事業者や研究者（以下、「開発側」という。）が持つ「シーズ」と障害当事者、福祉事業所の職員等（以下、「ユーザー側」という。）が持つ「ニーズ」のマッチングを目的とした以下の要件を満たす障害者自立支援機器に関する交流会（以下「交流会」という。）を企画し、開催する。

- ① 当該交流会を企画する職員を1名以上配置すること。
- ② 1日以上で開催期間の交流会を2か所以上で開催すること。
- ③ 交流会には、開発側とユーザー側の関係者に加え、リハビリテーション専門職団体、福祉機器関連学会等、行政機関の関係者も参加すること。
- ④ 交流会においては、開発側とユーザー側が出会い、意見交換を行う場の提供、開発された障害者自立支援機器・試作品等の説明及びデモンストレーションを行うこと。
- ⑤ 交流会のテーマは、特定の分野に特化することなく、予め障害者自立支援機器の開発ニーズを収集・分類した上で、複数のブースを設けたり、分野ごとに異なる会場で

実施するなど工夫すること。

- ⑥ 年度末に当該年度の障害者自立支援機器等開発促進事業で採択された機器（開発途中の機器を含む。）及びこれまでに当該事業で開発された機器の一般公開の場を設けること。その際、厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課自立支援振興室とも緊密に連携の上、実施すること。
- ⑦ 多くの企業、障害者等の参加が得られるよう、地方公共団体等とも連携しながら、交流会開催に関する広報活動を行うこと。
- ⑧ その他、交流会の参加者等に対して障害者自立支援機器に関するアンケート調査を実施し、その結果を広く周知する等、よりよい障害者自立支援機器の製品化・普及に有用な情報の発信に努められたいこと。

（２）交流会開催後のフォローアップ

（１）の交流会の成果を着実に障害者自立支援機器の開発につなげるため、以下の支援を行うコーディネーターを配置し、交流会開催後も開発事業者等の希望に応じて必要な支援を行う。なお、当該コーディネーターは（１）の①の職員が兼務することとして差し支えないものとする。

- ① 定期的・継続的な開発側とユーザー側等との意見交換の場のコーディネート
- ② 開発側やユーザー側からの相談対応
- ③ 開発側に対する実証実験の場やモニター評価を行う障害当事者等の紹介
- ④ その他障害者自立支援機器の開発につなげるために必要な支援

（３）成果の報告

本事業の実施団体は、（１）及び（２）の事業の成果をとりまとめ、国へ報告するとともに、その内容を公表するものとする。

４．国の補助

国は、本事業に要する経費について、別に定める交付要綱に基づき、予算の範囲内で補助するものとする。

５．事業採否の決定方法

本事業の実施団体は、別に定める評価委員会における事業の評価を踏まえ、予算の範囲内で決定するものとする。

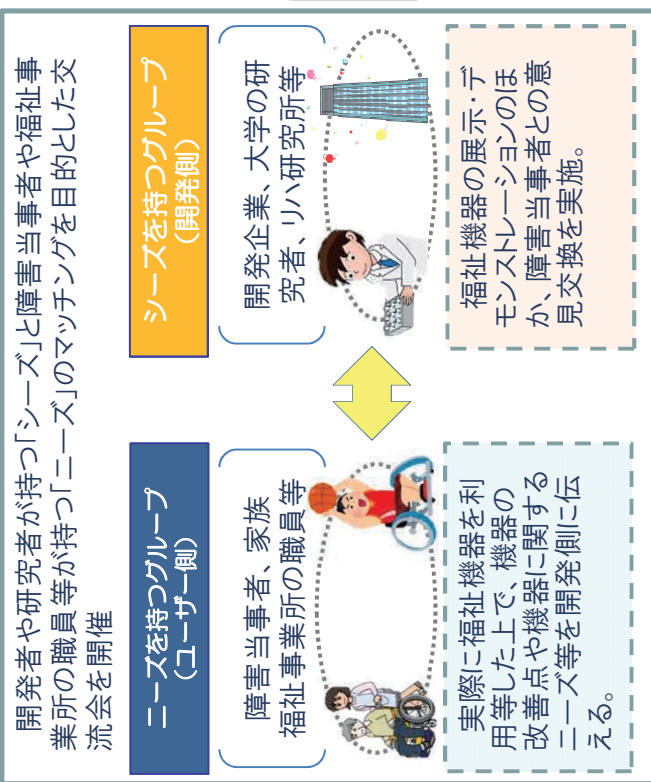
障害者自立支援機器等開発促進事業の概要

障害者の自立や社会参加を支援するためには、支援機器や技術開発の促進を図ることが必要不可欠であるが、障害者の自立を支援する機器の開発（実用的製品化）が進んでいない状況にある。こうしたことから、

- ア) 産・学・障害者の知識・技術を結集し、個別具体的な**障害者のニーズを的確に反映した機器開発をスタートさせる機会を設ける**、
- イ) 開発中の機器について、ニーズに合ったものとなっているか**実証実験する場所を紹介する**、
- ウ) 各開発機関が行う**実用的製品化開発に要する費用の一部を助成**する

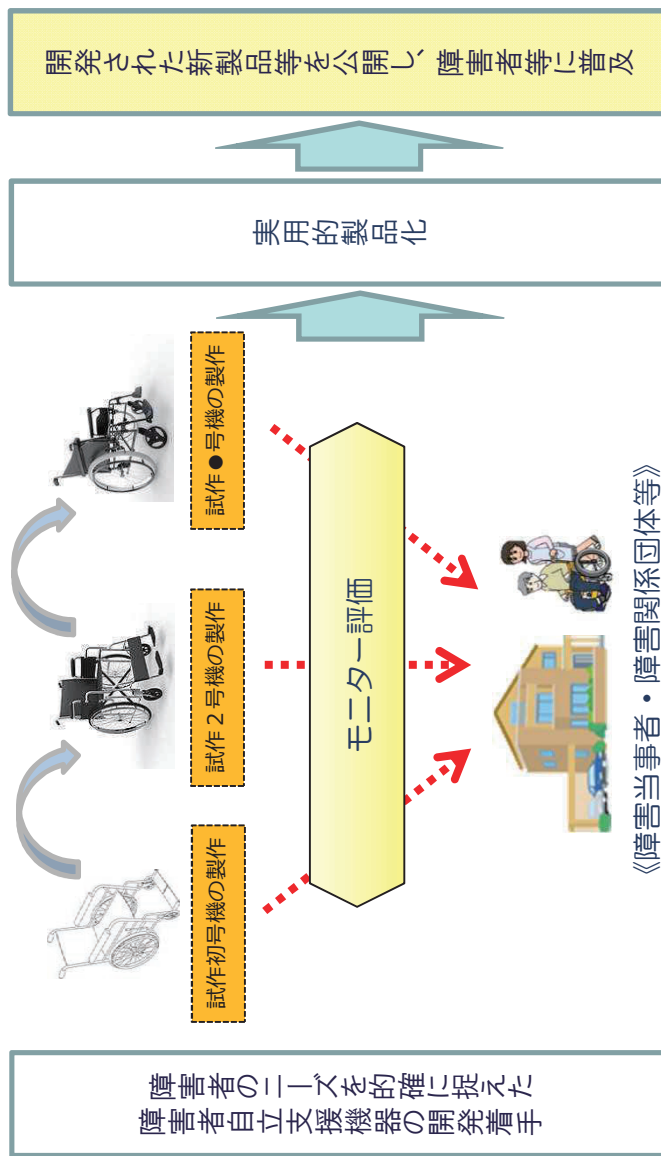
ことにより、機器開発分野への新たな参入促進を通じて適切な価格で障害者が使いやすい機器の製品化・普及を図る。

ニーズとニーズのマッチング



《 実用的製品化開発の流れ 》

開発着手 ～ 試作 ～ 実証実験 ～ 製品化



交流会開催に要する費用の助成（定額）

交流会開催後のフォローアップに要する費用の助成（定額）
※ 定期的・継続的な意見交換の場のコーディネート、相談対応、実証実験の場の紹介等

実用的製品化開発に要する費用の助成（補助率1/2）

※研究段階を終え基本設計はできているが、試作機の製作までには至っていないものが対象

…ニーズ・ニーズマッチング強化事業（H26～）

…障害者自立支援機器等開発促進事業（既存事業）（H21～）

《 助成対象 》

開発機器の一般公開に要する費用の助成（定額）

みんなで考えよう自立支援機器

障害者自立支援機器 「シーズ・ニーズマッチング交流会2015」

～ 作る人と使う人の交流会 ～

出展要項

障害当事者のニーズをよりの確に捉えた支援機器開発の機会を創出すべく、シーズ（作る人）・ニーズ（使う人）のマッチング交流会を開催いたします。

交流会では、開発や改良を行う機器の展示を行うとともに、障害当事者と企業・研究者、政府系の研究開発支援機関等が一堂に会し、体験や交流を通じて、良質な支援機器の開発、さらにはこの分野への新規参入の促進を図ります。

【大阪開催】

- 日時：平成27年11月28日（土）
- 時間：10:00～16:00
- 会場：大阪南港ATCホール Aホール
（会場までのアクセスは、P12をご確認ください）

【東京開催】

- 日時：平成28年2月12日（金）
- 時間：10:00～16:00
- 会場：TOC有明コンベンションホール4F W1～3
（会場までのアクセスは、P13をご確認ください）

※出展料金は「無料」（但し、基本設備以外は、有料となります。P4、6を参照）

主催

公益財団法人テクノエイド協会

1. 交流会の目的

障害者・高齢者福祉に係る事業の実施にあたりましては、日頃より、格別のご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

当協会では、昨年開催いたしました「**シーズ・ニーズマッチング交流会（以下、本交流会）**」を2015年度も開催する運びとなりました。

本交流会は、障害者自立支援機器の開発を促進することを目的に、障害当事者をはじめ、ご家族、福祉・医療従事者などの「機器を使う側（ニーズ）」の方々と開発企業、大学、研究機構、産学官交流振興組織などの「機器を作る側（シーズ）」の方々が、じっくり膝を交えて交流することができる場を提供するものです。

機器開発を取り進める皆様においては、「機器を使う側」の方々から日常生活上の課題や機器に対する要望を直接聞くことができる貴重な機会となりますので、是非、本交流会へのご出展をご検討いただきますようお願い申し上げます。（希望企業が多数の場合には、出展要件を満たしている申請者の中から全体のバランスを勘案し、最終的には主催者にて決定いたします。）

2. 開催概要

【イベント名】 障害者自立支援機器「シーズ・ニーズマッチング交流会2015」

【日時】

■大阪開催

日時：平成27年11月28日（土）

時間：10:00～16:00

場所：大阪港南ATCホール Aホール（大阪市住之江区南港北2-1-10）

■東京開催

日時：平成28年2月12日（金）

時間：10:00～16:00

場所：TOC有明コンベンションホール4F W1～W3（東京都江東区有明3-5-7）

【企画内容】 (1) 開発中の自立支援機器の「展示」・「交流」・「体験」

(2) 出展企業等による状況報告（リレー報告）

【出展料金】 「無料」（但し、基本設備以外は、有料となります。P4、6を参照）

【来場予定者】 障害当事者/障害者家族/障害施設職員/障害団体/開発企業/産業振興組織
大学関係者/研究者（研究機関）/行政/その他自立支援機器に興味のある方

※昨年度の実績

東京会場（1会場2日間開催） 延べ440名

出展機器（企業）及び成果 <http://www.techno-aids.or.jp/>

【主催】 公益財団法人テクノエイド協会

出展申込

1. 申し込み方法

出展を希望される方は、「出展申込書」を下記のURLからダウンロードし、必要事項を記入のうえ、下記の連絡先へ電子メールまたはFAXにてお申込みください。

※ただし、出展数には限りを設けておりますので、出展要件を満たしている申請者の中から全体のバランスを勘案し、最終的には主催者にて決定いたします。

【出展申込書ダウンロード先URL】

<http://www.techno-aids.or.jp/>

【申込み先】

シーズ・ニーズマッチング交流会2015 運営事務局
(株式会社 ICSコンベンションデザイン内)

メールアドレス: seeds-needs2015@ics-inc.co.jp

TEL: 03-3219-3556

FAX: 03-5283-6733

担当: 篠崎・吉井・板垣・田中

2. 申し込み受付期間

【大阪・東京共通】

平成27年9月10日(木)17:00まで

※締め切りを過ぎた後の申込みは受付できません。

出展要件

1. 出展対象者

障害者向けの支援機器を開発中の企業で、試作器を出展できる企業等

2. 出展製品及び企業に関する条件

開発、改良を目的とした製品であること（既に販売している製品は対象外とします）

障害当事者等と交流を深め、良質な支援機器の開発・改良を目指している企業等

※出展せず、一般来場者として当日試作機の持ち込みを希望される方は、必ず予め事務局にご相談ください。

※本交流会は販売促進を目的としたものではありません。そのため、会場で機器の販売を行うことはできません。

3. 公募出展（予定）数

大阪会場： 30社程度

東京会場： 30社程度

※上記出展数を超える場合等には、選考の結果出展をお断りする場合がございます。

※結果は事務局から電話又はメールにてお知らせいたします。

4. 出展料金

無料（但し、基本設備以外は有料オプションとなります）

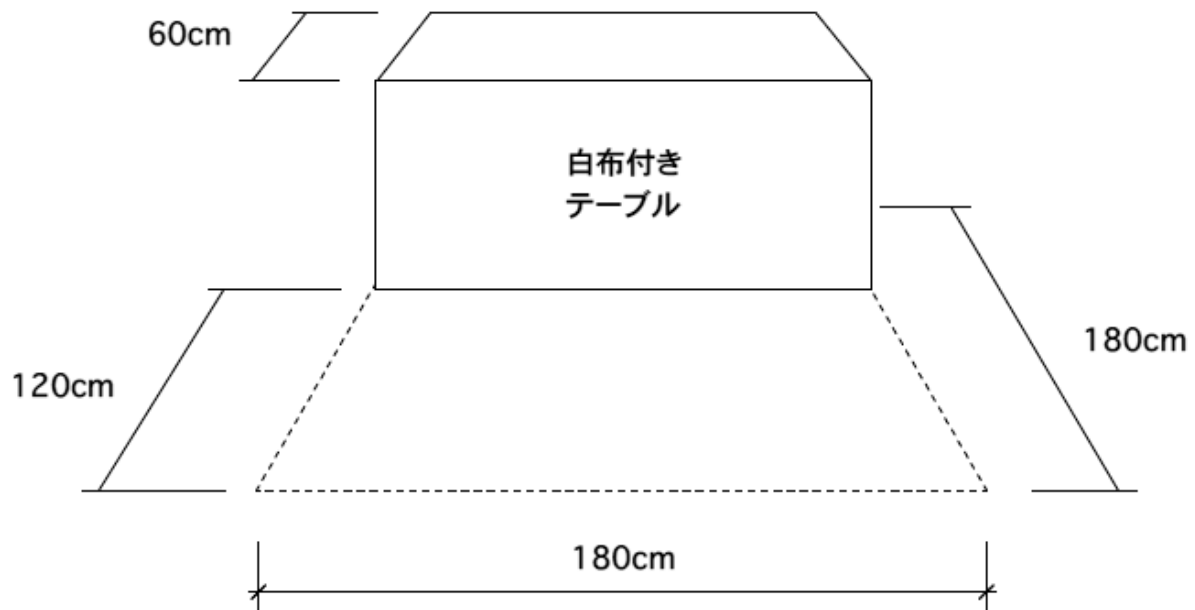
①無料（基本設備）	②有料 （出展者にてご負担をお願いいたします）
出展小間料（スペース代 180cm×180cm）	出展スペースにかかわる電気使用料、 付帯電源費等（コンセント等）
展示台（長さ180cm×幅60cm×高さ70cm）	レンタル備品（椅子・テーブル等）
社名プ三角プレート（紙製）	機器の搬出入費
	機器説明用のパネル・ポスター等

※レンタル備品の申し込みについては、6ページをご参照ください。

出展詳細

1. 小間仕様詳細

展示スペース: 180cm × 180cm



2. 基本設備

白布付きテーブル(長さ180cm × 幅60cm × 高さ70cm)

社名三角プレート(紙製)

※電源・電気使用料やレンタル備品等の基本設備以外は別途ご出展者様負担となります。

後日ヒアリングの上お見積りをご提示します。

※アンカーボルトはご利用いただけませんので、予めご了承ください。

備品レンタルについて

【備品リスト】

No	品 名	サイズ・仕様	単価(税別)
1	追加用テーブル	W1,800 × D600 × H700 	(大阪)300円 (東京)850円 ※
2	白布	テーブル用	2,000円
3	椅子	大阪会場  東京会場 	(大阪)200円 (東京)350円 ※
4	貴名受	アクリル製 	1,500円
5	説明用パネル	・A1サイズ(W:594 × H:841)、フレーム付 ・完全データ(PDFデータ)支給の場合	6,500円
6	説明用パネル	・A1サイズ(W:594 × H:841)、フレーム付 ・事務局にデータ作成を依頼する場合	11,500円
7	サインスタンド	250□ H:900～1,800mm マジックテープにてA1パネルを貼付可能 	1,500円

※印のついている備品は会場よりレンタルのため、大阪・東京にて金額が異なります。

【電気使用について】

・基本電源使用料 ￥7,000

電源タップ1本、コンセント2口、300Wまで(ノートPC2台接続程度)

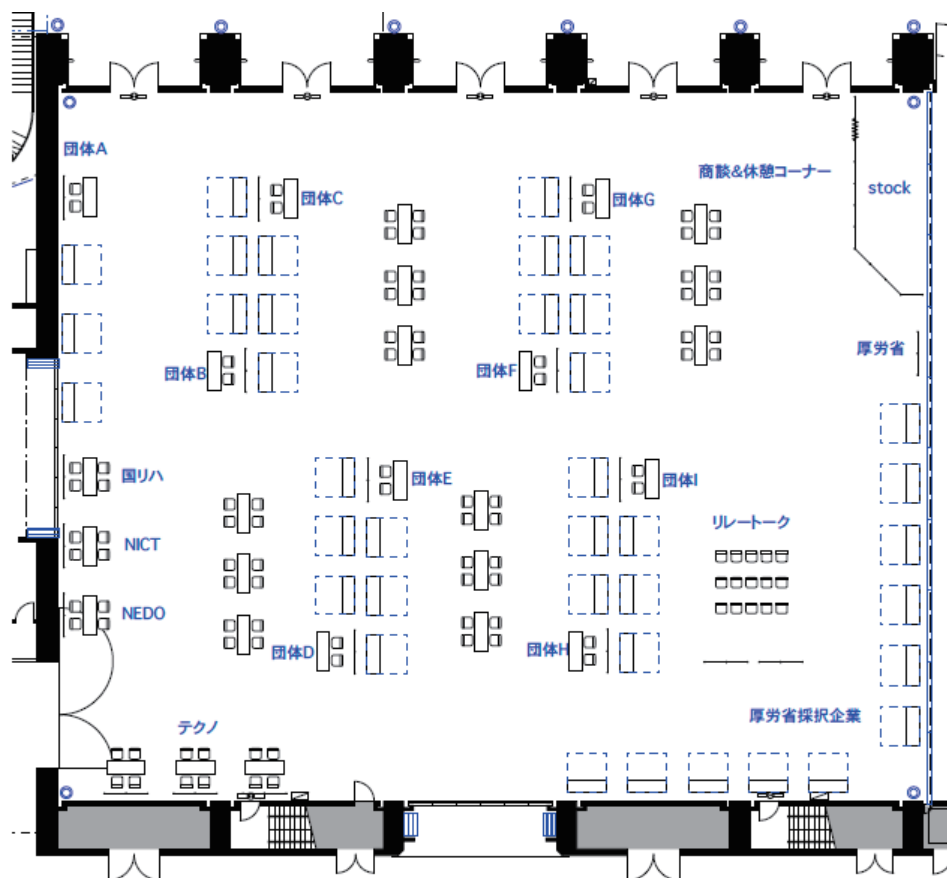
・追加電源 ￥2,000

電源タップ1本、コンセント2口、プラス300Wごと

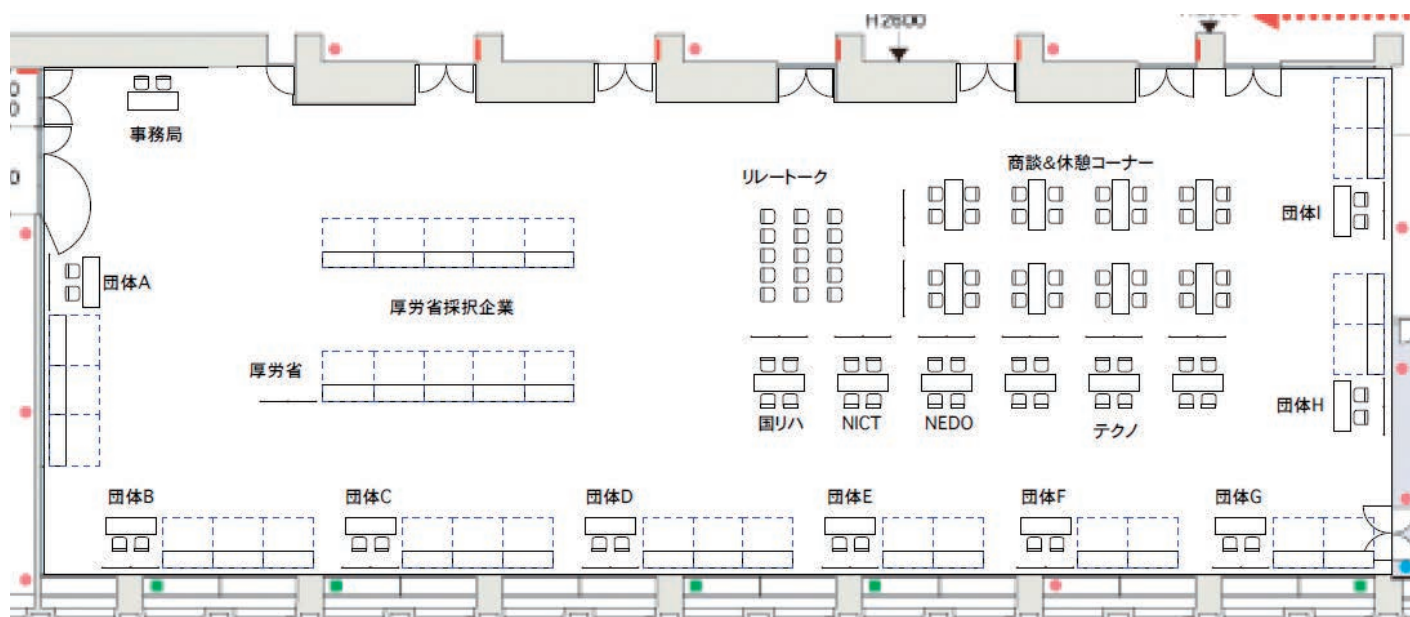
会場イメージ

※レイアウトは変更になる可能性があります

【大阪会場】 大阪港南ATCホール Aホール



【東京会場】 TOC有明コンベンションホール4F W1～3



開催までのスケジュール

1. お申込みスケジュール

【大阪・東京会場共通】

8月17日（月）一般募集開始

9月10日（木）一般募集枠の出展申込み受付終了

9月16日（水）出展企業決定

9月17日（木）出展可否の連絡

9月17日（木）展示内容等の調節開始

2. 開催のスケジュール

【大阪会場】

9月17日（木）備品レンタル申込み受付開始

10月28日（水）出展レイアウトの確定

10月28日（水）備品レンタル申込み受付終了

11月27日（金）準備日 設営時間 15:00～18:00

11月28日（土）

「シーズ・ニーズマッチング交流会2015（大阪）」開催

開催時間 10:00～16:00

搬出・撤去 16:00～18:00

【東京開催】

9月17日（木） 備品レンタル申込み受付開始

1月12日（火） 出展レイアウトの確定

1月12日（火） 備品レンタル申込み受付終了

2月11日（木） 準備日 設営時間 15:00～18:00

2月12日（金）

「シーズ・ニーズマッチング交流会2015（東京）」開催

開催時間 10:00～16:00

搬出・撤去 16:00～18:00

注意事項

1. 出展の申込み

出展申込書に必要事項をご記入のうえ、事務局にメールにてお送りください。なお、出展内容が本展示会の開催趣旨にそぐわないと主催者が判断した場合、主催者は出展受付のお断り、また出展受付の取り消しができます。これにより生ずる損害などに対し、主催者は一切の責任を負いません。

2. 出展の取り消し

出展の取り消しは、展示開催日の3週間前までに書面により事務局に通知しなければなりません。主催者の判断により正式な取り消しとなります。

3. 小間位置の決定

主催者は、出展者の業種、出品物の種別、会場の構成などを勘案のうえ、小間の割り当てを行い出展者に連絡いたします。また主催者は入場者整理の都合上、または展示効果向上のために小間の割り当てを変更する場合がございます。出展者は、小間の割り当ておよびその変更に対する異議申し立てならびに賠償責任等を問うことはできません。

4. 小間の転貸等の禁止

出展者は、自らの小間を主催者の承諾なしに転貸、売買、交換あるいは譲渡することはできません。

5. 会場内の行為の制限

出展者は主催者の承諾なしに、通路、休憩所など自らの出展スペース以外での展示・宣伝を行うことはできません。来場者や他の展示者に迷惑を与えるような音、光、熱、臭気を伴う行為や危険と認められる実演はできません。

6. 駐車場

搬出入等で車をご利用の場合は、会場の駐車場をご利用ください。

7. 管理保全

主催者は管理者としての注意を持って会場全般の管理にあたります。ただし、各出展物の管理は出展者が自己の責任と費用にて行ってください。また、主催者は出展物の損害に対しての一切の保証責任を負いません。

注意事項

8. 損害賠償

出展者およびその代理人が他社の小間、主催者の運営設備または展示会場の設備および人身等に損害を与えた場合、また搬出入時や交流会時に発生した出展物の損傷・紛失等について、その補償は出展者の責任において行うものとし、主催者は一切の責任を負いません。出展物の輸送および展示中の保護については、必要に応じて保険をかけるなど適切な対策をお願い致します。

9. 消防・安全

出展者は、会場に適用される消防および安全にかかわる全ての法規、規則を厳守しなければなりません。

10. 展示会の中止

主催者は天災などの不可抗力により、展示会開催が困難と判断した場合、展示会の開催を延期または中止することがあります。また、その際に生じた損害について主催者は責任を負わないものとします。

11. 法的保護等

本展示会におけるアイデアの模倣および交流時等に関するトラブルについては、主催者は一切の責任を負いません。特許など特別なノウハウ等についての知的財産権は出展者の責任において対応してください。

12. 法令、規約の厳守

出展者は、日本国内の各種法令を遵守するとともに、主催者が定める一連の規約（出展申込書、出展マニュアル等）を本契約の一部とし、これを遵守することに同意するものとします。万一、法令、規約に違反した場合、主催者は理由の如何にかかわらず出展を拒否もしくは取り消すことがあります。これによって生ずる損害などに対し、主催者は一切の責任を負わないものとします。

13. シーズ・ニーズ調査へのご協力をお願い

テクノエイド協会では、今後更なる課題解決に役立つ福祉機器開発を促進したく、皆様のシーズやニーズ情報を収集させて頂きたいと考えております。交流会会場等で、アンケートや調査を実施させて頂きますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

参加予定の団体一覧(予定)

(1)障害当事者団体

- ①社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会
- ②公益社会法人 全国脊髄損傷者連合会
- ③一般社団法人 日本ALS協会
- ④社会福祉法人 全国盲ろう者協会
- ⑤社会福祉法人 日本盲人会連合会
- ⑥NPO法人 ろう教育を考える全国協議会
- ⑦一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
- ⑧ポリオの会
- ⑨NPO法人 自閉症サポートセンター

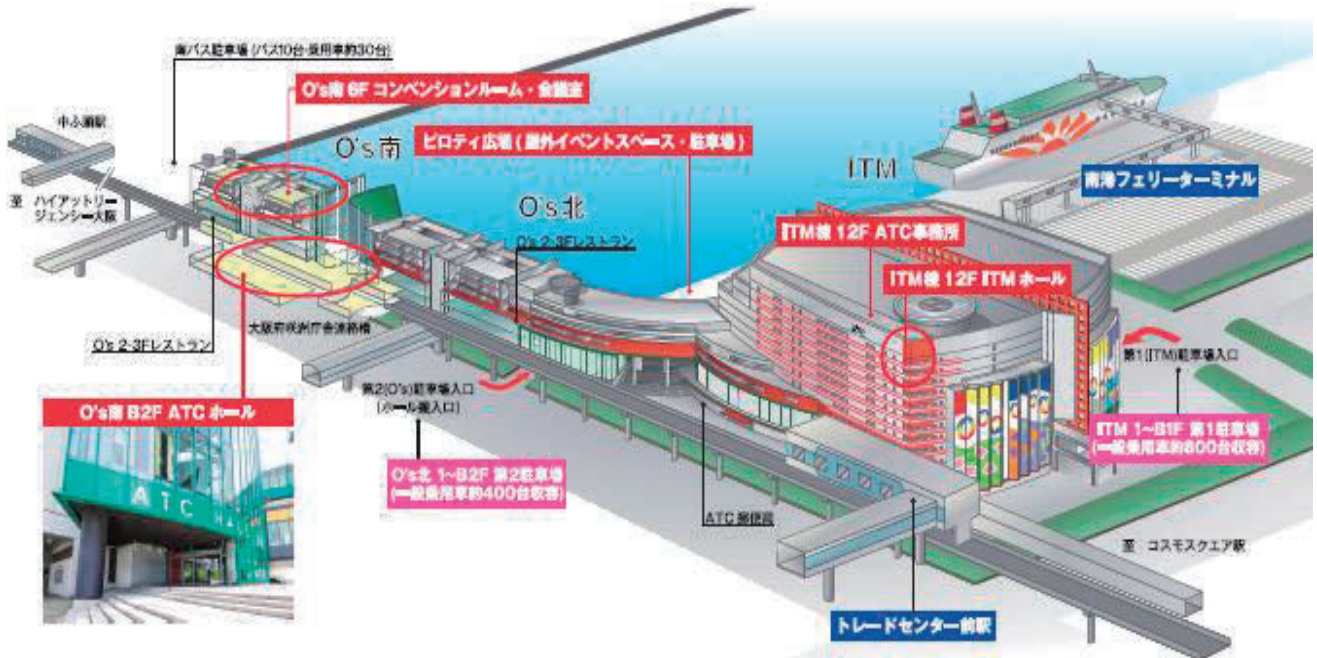
(2)開発支援機関

- ①国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)
- ②国立研究開発法人 情報通信研究機構(NICT)
- ③国立障害者リハビリテーションセンター研究所
- ④厚生労働省自立支援振興室
- ⑤公益財団法人 テクノエイド協会

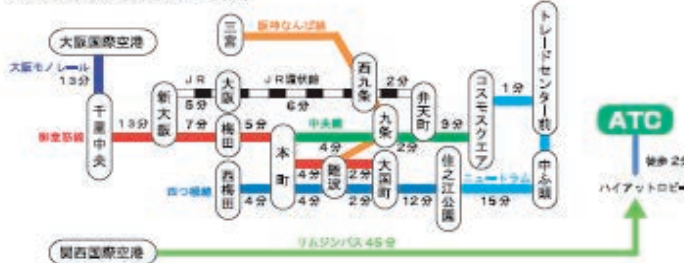
会場について

(1) 大阪会場

大阪港南ATCホール Aホール（大阪市住之江区南港北2-1-10）



●公共交通機関のご利用



●自動車(高速道)ご利用



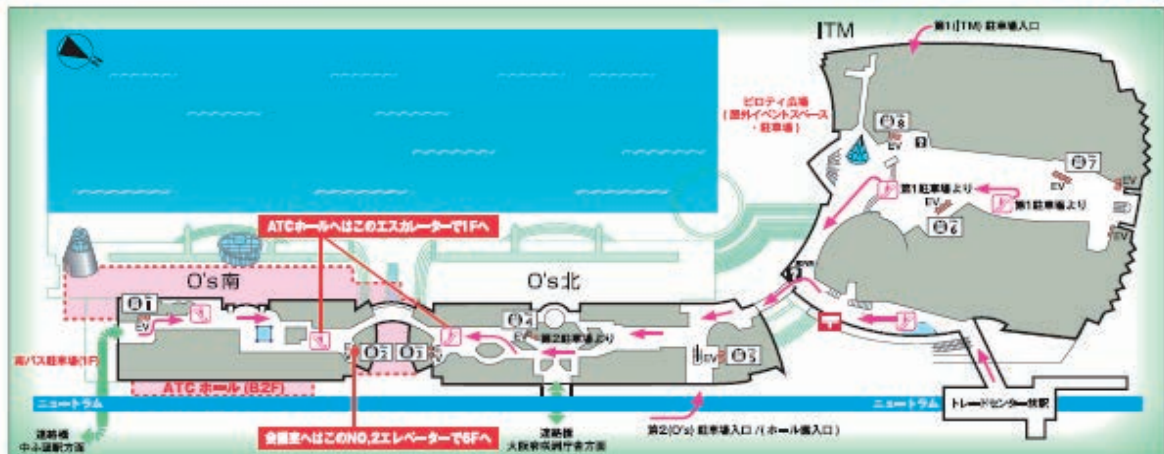
●自動車(一般道)ご利用



■駐車場のご案内
収容：約1200台
駐車料金：30分毎に200円(2時間以降は30分毎に150円)
営業時間：第1(ITM)駐車場 9:00~24:00 第2(O's)駐車場 9:00~深夜2:30

平日駐車料金最大 **800円** 土日祝駐車料金最大 **1000円**

■ホールへの導線(2F 平面図)



(2) 東京会場

TOC有明コンベンションセンター4F W1~3 (東京都江東区有明3-5-7)



お問い合わせ

◆ 交流会全般について

公益財団法人テクノエイド協会

162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ4階

企画部 谷田・渡辺・五島

TEL:03-3266-6883

◆ 出展詳細について

シーズ・ニーズマッチング交流会2015 運営事務局

(株式会社 ICSコンベンションデザイン内)

担当:篠崎・吉井・板垣・田中

TEL:03-3219-3556

FAX:03-5283-6733

メールアドレス:seeds-needs2015@ics-inc.co.jp

出展申込書(別紙)

申込締切:【大阪・東京会場共通】9月10日(木) 17:00

申込メールアドレス seeds-needs2015@ics-inc.co.jp

FAX 03-5283-6733

障害者自立支援機器「シーズ・ニーズマッチング交流会2015」 出展申込書

出展要項の内容を全て了承し、下記の通りシーズ・ニーズマッチング交流会事務局へ出展を申し込みいたします。

希望会場	☐ 大阪会場 11月28日(土)	☐ 東京会場 2月12日 (金)
------	---	---

※両日出展可能

1. 出展者情報

フリガナ			
企業名・団体名			
フリガナ			
ご住所	〒		
フリガナ		担当部署	役職
担当者名			
ご連絡先	TEL	FAX	
メールアドレス			
ホームページURL			

2. 出展製品情報

フリガナ	
製品名	
製品概要	
機能・特徴	
製品ジャンル	☐ 肢体障害者の日常生活支援機器 ☐ 視覚障害者の日常生活支援機器 ☐ 聴覚障害者の日常生活支援機器 ☐ 盲ろう者の日常生活支援機器 ☐ 難病患者等の日常生活支援機器 ☐ 障害者のコミュニケーションを支援する機器 ☐ 障害者のレクリエーション活動を支援する機器 ☐ 障害児の生活を豊かにする支援機器 ☐ 脳科学の成果を応用した支援機器 ☐ その他
対象者	
出展内容	☐ 展示 ☐ 体験 ☐ プレゼンテーション ☐ その他（ ）
製品サイズ	縦 _____ cm × 横 _____ cm × 高さ _____ cm
製品画像 (右記の画像を 数枚お送りください)	①解像度800万画素以上（A4サイズに拡大してもきれいに写る程度） *出展一覽に掲載いたします ②製品が大きく写っている ③人物が写っているもの、いないもの ご判断が難しい場合には、まずは、写真を複数枚お送りください。こちらで検討させていただきます。

3. その他

交流の主な狙い	
---------	--

みんなで考えよう自立支援機器

障害者自立支援機器 「シーズ・ニーズマッチング 交流会2015」～作る人と使う人の交流会～

障害当事者のニーズをよりの確に捉えた支援機器開発の機会を創出すべく、シーズ（作る人）・ニーズ（使う人）のマッチング交流会を開催いたします。交流会では、開発や改良を行う機器の展示を行うとともに、障害当事者と企業・研究者、政府系の研究開発支援機関等が一堂に会し、体験や交流を通じて、良質な支援機器の開発、さらにはこの分野への新規参入の促進を図ります。



入場無料

<参加対象>

障害当事者、家族、研究者、専門職、
障害団体、全ての支援機器開発企業 等

【大阪開催】

日時：平成27年11月28日（土）

時間：10:00～16:00

会場：大阪南港ATCホール Aホール

【東京開催】

日時：平成28年2月12日（金）

時間：10:00～16:00

会場：TOC有明コンベンションホール4F W1～5

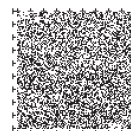
主催 公益財団法人テクノエイド協会

出展団体

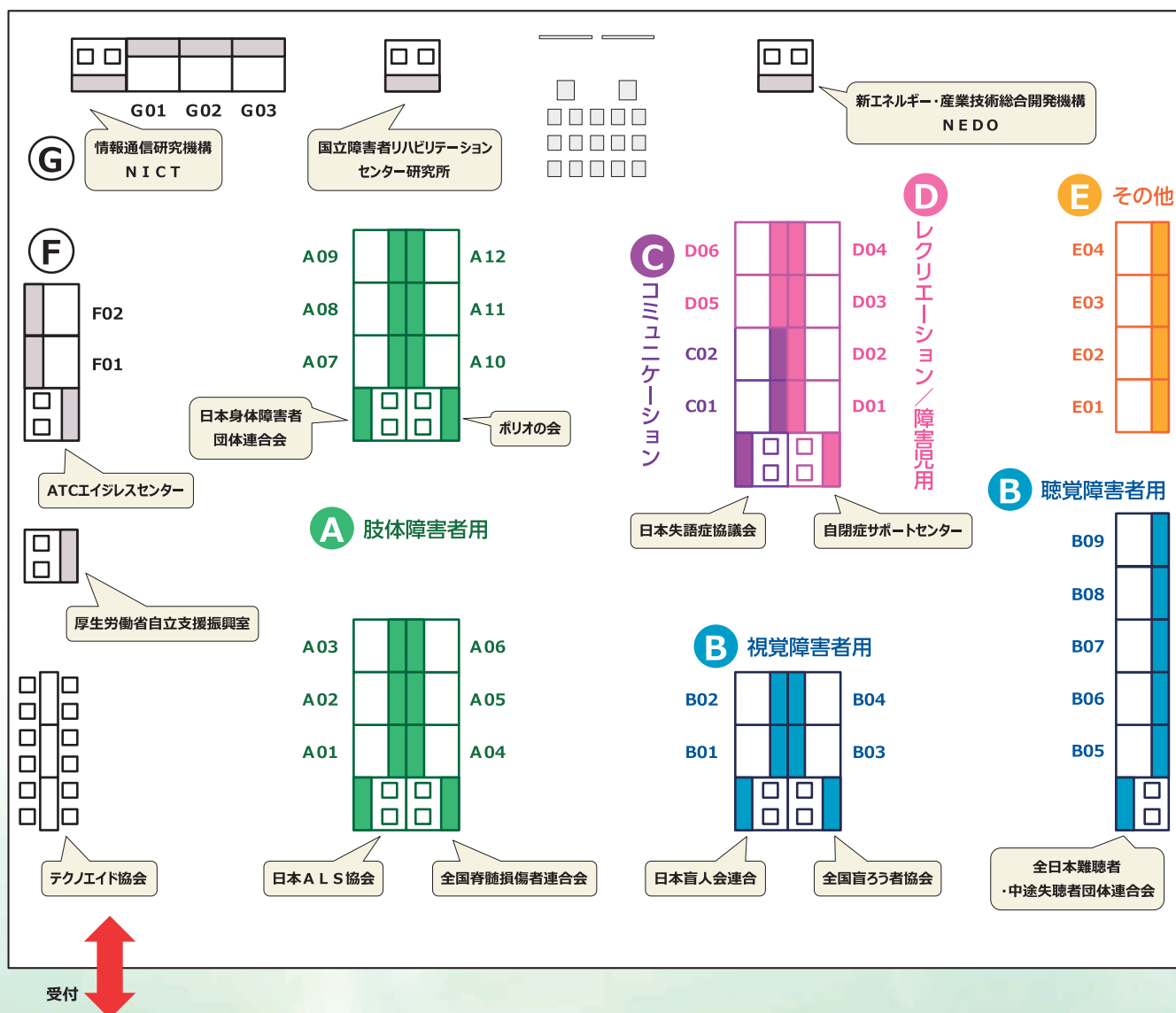
社会福祉法人日本身体障害者団体連合会／公益社団法人全国脊髄損傷者連合会／一般社団法人日本ALS協会／社会福祉法人全国盲ろう者協会／社会福祉法人日本盲人会連合／一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会／ボリオの会／NPO法人自閉症サポートセンター／NPO法人日本失語症協議会

開発支援機関

国立研究開発法人 新エネルギー・
産業技術総合開発機構 (NEDO)
国立研究開発法人 情報通信研究機構 (NICT)
国立障害者リハビリテーションセンター研究所
ATCエイジレスセンター実行委員会
(大阪市、アジア太平洋トレードセンター
株式会社)
厚生労働省障害保健福祉部自立支援振興室
公益財団法人 テクノエイド協会



【大阪会場】 大阪南港A T Cホール Aホール



出展機器 ※出展企業・出展機器は変更になる場合があります。

肢体障害者用

SEM Glove 自立支援用	EYE4106	入浴リフト 他	電動車いす Zinger (仮称) 介助用	NEXT-51B 他	介足君(車椅子 前脚懸架装置)
(株)エスケーエレクトロニクス	(株)金沢エンジニアリングシステムズ	西川リビング(株)	ノイエス(株)	(株)松永製作所	谷口福祉タクシー

肢体障害者用

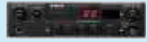
finch	Honda 歩行アシスト	ナノミスト ヘッド スパ	段差解消台 (踏み台等)
ダイヤ工業(株)	本田技研工業(株)	(株)アイン	東光機材(株)

※機器の詳細は協会ホームページ (<http://www.techno-aids.or.jp>) にてご確認ください。

肢体障害者用

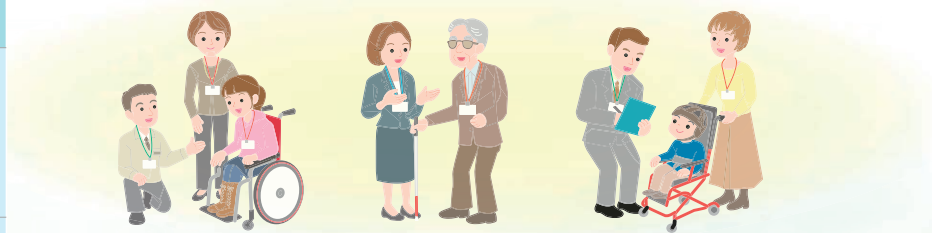
歩行支援機 [ACSIVE]	片麻痺者用歩行 配膳車(3点支持式)	お財布型ポータブル 紙幣識別機 Wallet	手すりつき踏み台 昇降運動器具	画像聴覚化装置	パームライン
					
(株)今仙技術研究所	(株)モリト	(株)テックアイサービス	(有)福源	(株)画像聴覚化研究所	(有)ティクス

視覚・聴覚障害者用

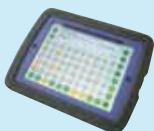
字幕電話 他	ヒアリングループ	FM無線式会話器	comuoon iListening	聴力補助BOX
				
(株)アイセック・ジャパン	(株)ソナール	Jumpers(株)	ユニバーサル・サウンドデザイン(株)	AURAL SONIC(株)

コミュニケーション

自分の声ソフトウェア 「ボイスター」	自立支援向けコミュニ ケーションロボット 他
	
(株)ヒューマンテクノシステム東京	(株)レイトロン



レクリエーション、障害児用

VOCA-PEN、 VOICE RULER	トーキングエイド for iPad 他	フリーポジション・ペグ	heart bridge smock	アンプティサッカー用 クラッチ	歩ミングポール
					
(株)コムフレンド	(株)ユープラス	京 自助具館	(株)スタンダード	クリスタル産業(株)	(株)キザキ

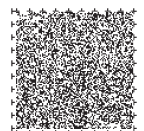
その他

A T Cエイジレスセンター

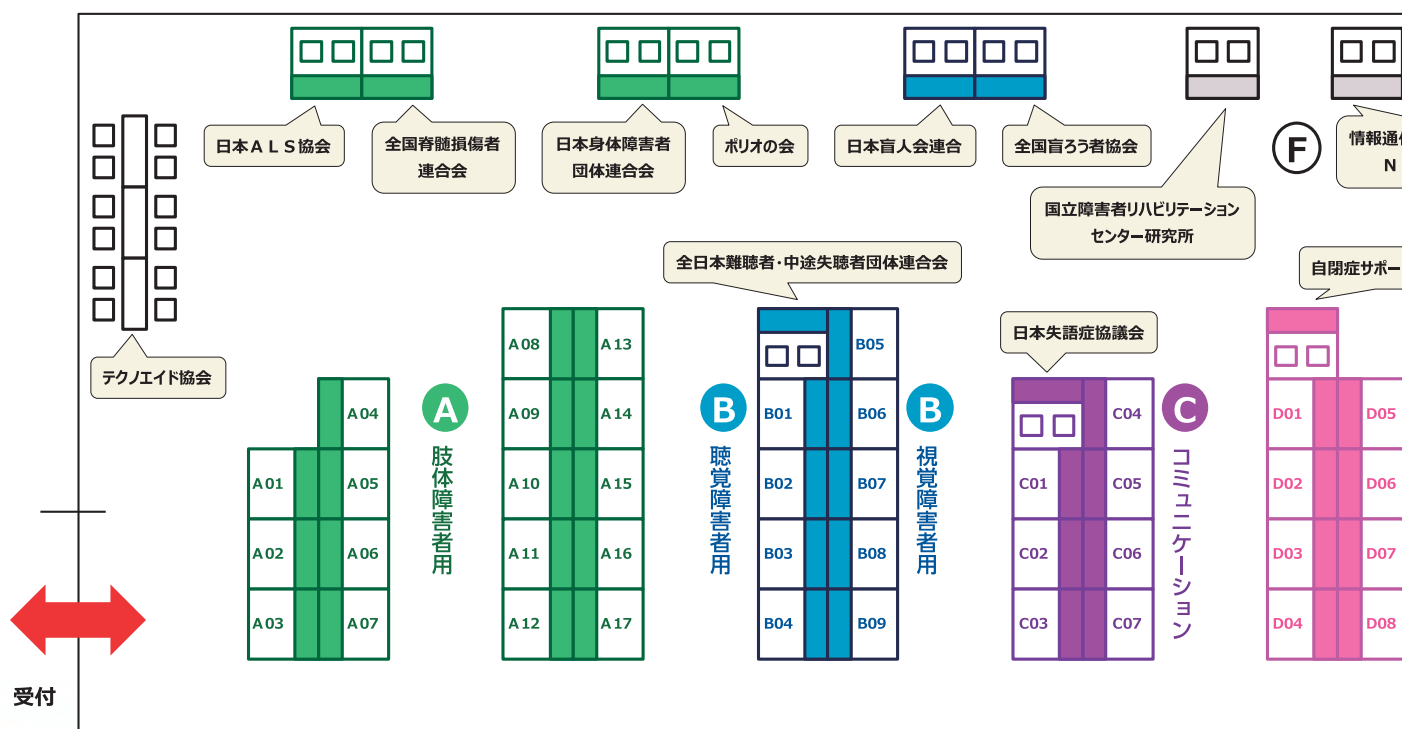
夢神楽II (仮称)	洗濯物仕分け サポートシステム	脳波センサZA	アッカスマート	救助担架フレスト UD-001	避難行動要支援者 名簿運用システム
					
(株)ウェルケアベッド	(株)親和製作所	(株)プロアシスト	シーホネンス(株)	(株)輝章	(株)武揚堂

情報通信研究機構 (NICT)

[SpeechCanvas]	「こえとら」	ユニバーサルな 電話リレーサービス
		
国立研究開発法人 情報通信研究機構 (先進的音声翻訳研究開発推進センター)	(株)FEAT	(株)SOBAプロジェクト



【東京会場】 TOC 有明コンベンションホール4 F W1～5



出展機器

※出展企業・出展機器は変更になる場合があります。

肢体障害者用

WHILL Model A	多機能選択型電動車椅子レール・シリーズ	NEXT-51B 他	介足君(車椅子前脚懸架装置)	ALS等重度障害者向け車いす型ストレッチャー	電動アシスト歩行器 他	片麻痺者用歩行配膳車(3点支持式)
WHILL(株)	衛さいとう工房	株松永製作所	谷口福祉タクシー	衛パムック	株ミツバ	株モリトー

肢体障害者用

歩行支援機「ACSIVE」	Honda 歩行アシスト	ステッキ	床走行移乗機	水洗ポータブルトイレ	SEM Glove 自立支援用	パワーアシストハンド
株今仙技術研究所	本田技研工業(株)	フジホーム(株)	株アグメント	アロン化成(株)	株エスケーエレクトロニクス	株エルエービー

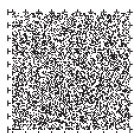
肢体障害者用

EYE4106	足操作マウス「フットルース」(仮称)	介護用ベッド模型	ヒアリングループ	FM無線式会話器	comuoon iListening	聴力補助BOX
株金沢エンジニアリングシステムズ	株ビー・アライブ	やすらぎ研究所	株ソナール	Jumpers(株)	ユニバーサル・サウンドデザイン(株)	AURAL SONIC(株)

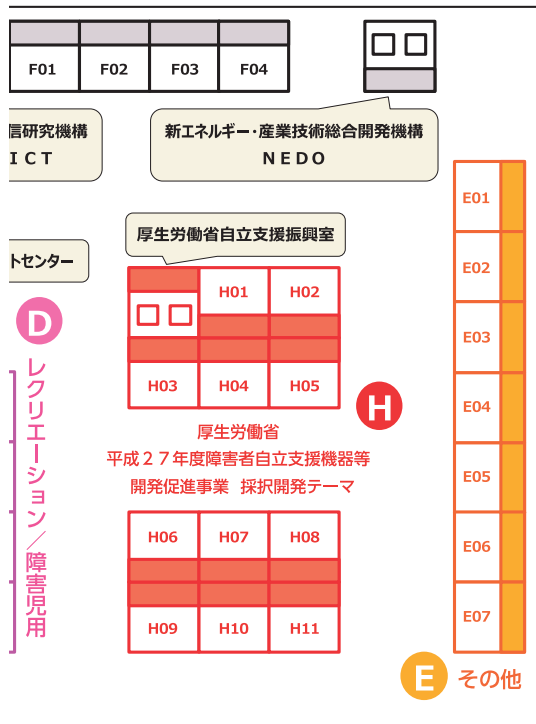
視覚・聴覚障害者用

視覚・聴覚障害者用

視覚障害者向け歩行支援システム	MyCane®ISPOT	パームライン	画像聴覚化装置	お財布型ポータブル紙幣識別機 Wallet
株アルファメディア	株KOSUGE	衛テイクス	株画像聴覚化研究所	株テックアイオーサービス



※機器の詳細は協会ホームページ (<http://www.techno-aids.or.jp>) にてご確認ください。



厚生労働省 平成27年度採択開発テーマ

アクティブギブス	視覚障がい者向け ガイダンスロボット	音声カレンダー	字幕電話 他
株式会社ミナスジャパン	日本精工株式会社	株式会社システムネットワーク	株式会社アイセック・ジャパン

厚生労働省 平成27年度採択開発テーマ

視覚障害者向け「音声 コードUni-Voiceアプリ」	分身ロボット OriHime	ロボット便座
特定非営利活動法人 日本視覚 障がい情報普及支援協会	株式会社オリイ研究所	株式会社日本アシスト

コミュニケーション

レクリエーション／
障害児用

ハンズフリー型ウェア ラブル電気式人工喉頭	自分の声ソフトウェア 「ボイスター」	みまもりシステム 「Smyline」	意思伝達装置 レッツ・チャット	意思伝達装置 「伝の心」	指伝話	トーキングエイド for iPad 他
第一医科株式会社	株式会社ヒューマンテック/システム東京	ハイブリッドシステム株式会社	パナソニックイメージ フリーライフデック株式会社	株式会社立ケーイーシステムズ	株式会社オフィス結アジア	株式会社ユープラス

レクリエーション／障害児用

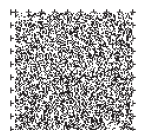
ボードメーカー、 あのねDS	クラウドを活用した 学習支援教材アプリ	ヘッドガードフィット シリーズ	heart bridge smock	フリーポジション・ペグ	アンプティサッカー用 クラッチ	歩ミングボール
株式会社セインターナショナル	熊本高等専門学校/ 株式会社サートプロ	キヨタ株式会社	株式会社スタンダード	京 自助具館	クリスタル産業株式会社	株式会社キザキ

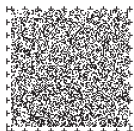
その他

3Dプリンタ出力の 障がい者用自助具 他	スマートスーツ	マトリックス センサー (板)	洗濯物仕分け サポートシステム	脳活動量計測装置	脳波センサZA	ベッドの上で入浴
スマイルリンク株式会社	株式会社スマートサポート	株式会社倉元製作所	株式会社親和製作所	株式会社ソフトシーデージー	株式会社プロアシスト	事業主代表 夏目三郎

情報通信研究機構 (NICT)

「SpeechCanvas」	「こえとら」	UDトーク、UD手書き、 手書き電話UD、遠隔手話通訳	ユニバーサルな 電話リレーサービス
国立研究開発法人 情報通信研究機構 (先進的音声翻訳研究開発推進センター)	株式会社FEAT	株式会社プラスヴォイス	株式会社SOBAプロジェクト





出展団体紹介

社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会

障害者の立場から、人権の保障、社会参加の促進、すべての人の社会「Society for All」の実現、障害の種別や有無にとらわれず、全国組織の当事者団体で連携し、国や政党に対し政策提言や要望など幅広い活動を行っています。

公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会

1959年の設立当初から一貫して、「重い障害があっても普通に暮らせる社会」を目標に全国各県・支部と共に、障害者のための社会環境を変える活動を行っている。

移動は、全て車いすを使用する生活になることから、そのためのバリアフリー化の充実を求める声が多い。また、障害者の高齢化も進み、若いときのしっかりした動作もやがて高齢化で体力や機能が衰え、車いすからトイレやベッド、風呂場、自動車などへの移乗が徐々に困難になり転倒などの家庭内事故が増えている。このため、脊髄損傷者は移乗による事故を無くするための自立支援機器や褥瘡のできない車いす、排泄に関する機器などを切望している。

一般社団法人 日本ALS協会

「ALS患者が人間としての尊厳を全うできる社会の実現を目指すと共に、ALSの原因究明と治療法の確立をはかること」を目的に、啓発広報・療養支援・研究助成などの活動。

病気の進行とともに、手足の障害、嚥下の障害、コミュニケーションの障害、呼吸の障害が進行して、それぞれの進行状況に合わせた福祉用具や医療機器などを利用しています。コミュニケーションと呼吸の障害は、社会で生きる人としての尊厳を失う、生命を失う危険性を孕んでいますので、特に、コミュニケーション支援と医療的ケアの拡充に向けた活動に力を注いでいます。障害の進行段階にあわせて、臨機応変にパーツを入れ変えながら使える、自分仕様の福祉用具や、対応が難しいといわれる、コミュニケーション支援のための、さまざまな手段を用いた意思伝達装置の開発を望んでいます。

ポリオの会

ポリオとポストポリオ症候群の患者会です。ポリオとPPS（ポストポリオ症候群、ポリオ後症候群）の医療を求め、情報を知り、伝え合い、広く知ってもらうために活動しています。

ポリオは足の麻痺だけでなく、上下肢や体幹麻痺、呼吸や嚥下、排泄など多岐にわたり、日々の生活全般の困り事への細やかな対処が必要としています。装具の蒸れや汗、冷え、転倒（浴室他）、支持装置、上肢装具、快適な車いすなど。一人ひとり違う障害への対応が必要です。福祉情報も必要としています。

社会福祉法人 全国盲ろう者協会

当協会は、視覚と聴覚の両方に何らかの障害を併せ持つ「盲ろう者」の福祉を目的とする唯一の社会福祉法人として、盲ろう者や、盲ろう者を支援する通訳・介助員らを対象とした様々な事業を行っています。

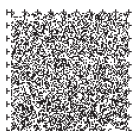
現在、日本に約1万4千人いるとされる盲ろう者の多くは、65歳以上の高齢者です。盲ろう者は、障害の特性上、主に3つの困難（他者とのコミュニケーション、移動、情報入手）を抱えていると言われます。外出して買い物をすることもできなければ、テレビやラジオを楽しむこともできず、点字を知らない人は本を読むことさえできません。また、家にいても、家族がコミュニケーション方法を身につけていなければ、会話を楽しむこともできないのです。

社会福祉法人 日本盲人会連合

視覚障害者自身の手で、“自立と社会参加”を実現しようと1948年に組織された全国組織で、都道府県・政令指定都市における61の視覚障害者団体の連合体です。

全く見えない人や視力が弱い人周囲が見えにくい人真ん中が見えにくい人大きな文字なら読める人明るいとかぶしい人などいろいろな見えにくさの人がいます。そのような人たちに対して「使いやすくする工夫」として、音声を用いたり、触覚に訴えたり、色の配色を考慮したりさまざまな工夫を日常の用品に適用する工夫が求められています。そのような工夫ができる業者の皆さんの提案を求めています。

一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会



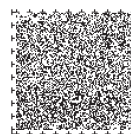
全国の難聴者・中途失聴者への福祉施策の充実と社会の理解を求め、必要なコミュニケーション手段の調査研究等を行い、障害者の社会的地位向上と社会参加を促進しています。

社会生活を営む上での必要な情報が提供されることが、難聴者の社会参加を促進します。そのための補聴器や人工内耳、それにつながる磁気ループの敷設充実、聴覚補償に関する支援です。また要約筆記事業を進めることによる文字による通訳活動や、インターネットを使った代理電話サービスなどが現在進められています。これらに加えて、新しいテクノロジーによる文字情報の伝達手段の進歩が進んでいます。音声認識技術の向上、携帯端末への表示などの最新の研究成果をご確認ください。

NPO法人 自閉症サポートセンター

自閉症など発達障害のある方の育成及び地域生活の支援を行うとともに、その家族及び関係者への支援並びに地域住民に対する啓発活動を行うことを目的として活動しています。

1. 「時間やことばの理解を助ける支援機器」、「気持ちなどを伝えるコミュニケーションを助ける支援機器」、「かっこういい間仕切り」、「不快音の遮断機器」の開発
2. こどもの療育を対象とした機器の開発、形状は、「携帯タイプ」
3. 何らかの財政措置を伴った「お試し期間」の設定
4. 最初のアセスメントから使用中のアドバイスまで、専門家の介入が必要



特定非営利活動法人 日本失語症協議会

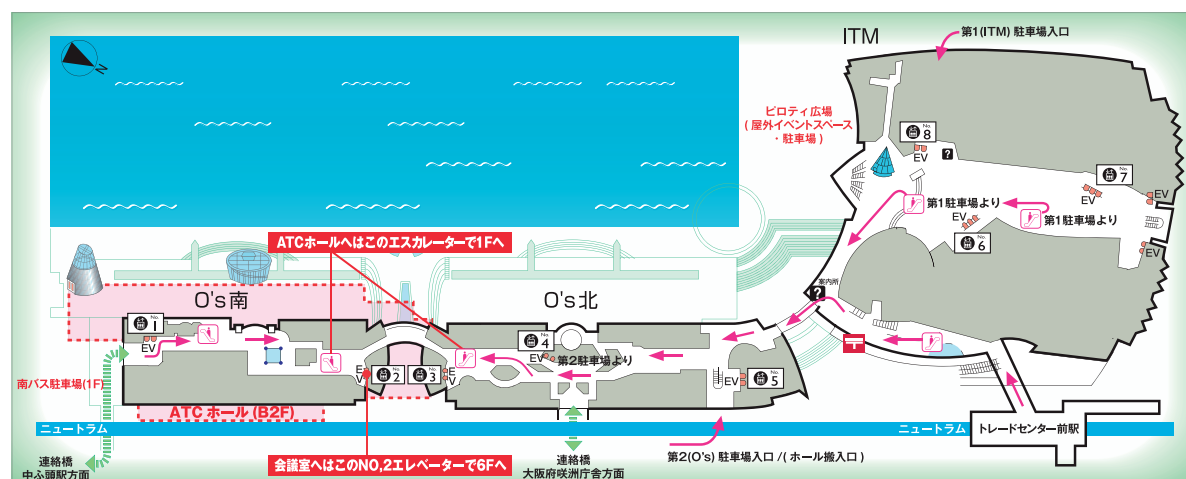
私たちは、1983年に設立した失語症患者会で、失語症者と家族、支援者である医師、言語聴覚士、その他セラピスト、支援企業等々で構成されています。全国各地にはピアサークルである「失語症友の会」が100以上あり、これらの会の多くが当協議会に加盟しています。

失語症は脳卒中・脳外傷・脳炎等の後遺症の言語障害で、全国に推定60万人もいると言われています。話す・書く・聞く・読む・計算する等、コミュニケーション全般にかかわることが困難になります。

失語症は日常生活に多くの困難を抱えるにもかかわらず、見えない障害なので社会全般に正しく理解されていません。他の障害者団体と手を取り合い失語症に関する社会啓発と障害者施策の整備などの活動を行い、失語症があっても人として当然の生活を送ることができる社会の設立を目指しています。ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

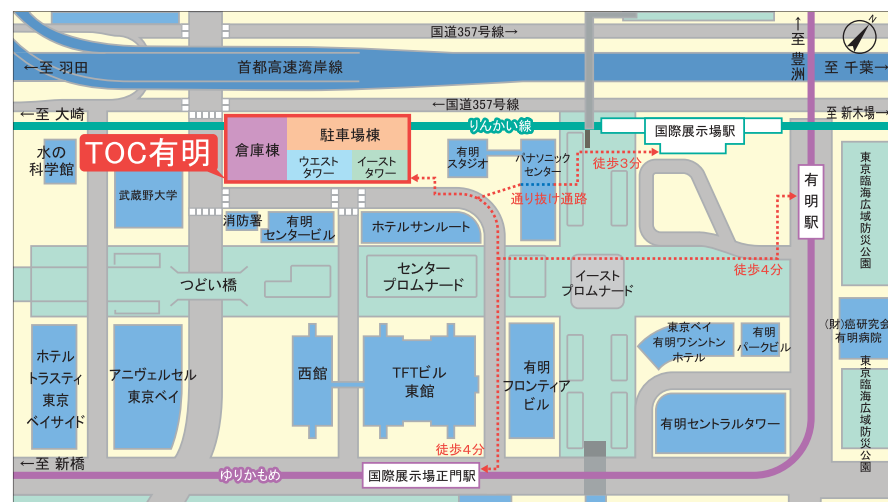
会場までのアクセス

【大阪会場】 大阪南港ATCホール Aホール 大阪市住之江区南港北2-1-10



〈交通機関のご案内〉 ●南港ポートタウン線（ニュートラム） トレードセンター前駅下車 徒歩約5分

【東京会場】 TOC有明コンベンションホール4F W1～5 東京都江東区有明3-5-7



〈交通機関のご案内〉

2路線3駅の利用が可能です。

●りんかい線

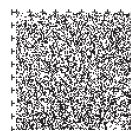
国際展示場駅から徒歩3分

●ゆりかもめ

国際展示場正門駅・有明駅から徒歩4分

..... 徒歩ルート

..... りんかい線の初電車から終電車の間は、通行することができません。
[※土日は7:00～22:00まで]



※事前に参加登録票にてご登録いただくと入場の際スムーズです。

事前にご登録がない場合は当日入場時にご記載いただきます。

「シーズ・ニーズマッチング交流会2015」事務局 へて 【お申込み方法】 下記のいずれかの方法にて本参加登録票をご送付ください。

電子メール tanida@techno-aids.or.jp FAX送信 03-3266-6885

※上記によるお申込みが困難な方はお電話番号にてお問い合わせください。

みんなで考えよう自立支援機器									
障害者自立支援機器「シーズ・ニーズ マッチング交流会2015」～作る人と使う人の交流会～									
参加登録票									
参加希望会場 (両日参加可)		☐	大阪開催:2015年11月28日(土)				☐	東京開催:2016年2月12日(金)	
代 表 者	(フリガナ) お名前							参加者 属性	
	所 属 (個人の場合は不要)								
	ご連絡先	〒							
		TEL				FAX			
	メール				@				
同 行 者	(フリガナ) お名前	①					参加者 属性		
	所 属 (個人の場合は不要)						②		
	ご連絡先 (住所)		〒						
参加者属性		a:障害当事者 b:当事者家族 c:開発企業 d:研究機関 e:障害団体 f:行政 g:その他							
備 考									

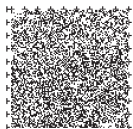
※同行者は2名まで記入可能です。(住所及び、所属は代表者と異なる場合にご記入ください)

※当日、点字プログラムや手話通訳、要約筆記などのサポートが必要な方は、受付にてお申し付けください。

※この「参加登録票」は、当協会のHP (<http://www.techno-aids.or.jp/>) からダウンロードすることも可能です。

※ご記載いただいた個人情報は、交流会に関する問合せや協会からのご案内以外には使用いたしません。

※その他、事務局に対して要望等ございましたら備考欄にご記入ください。



お問い合わせ先

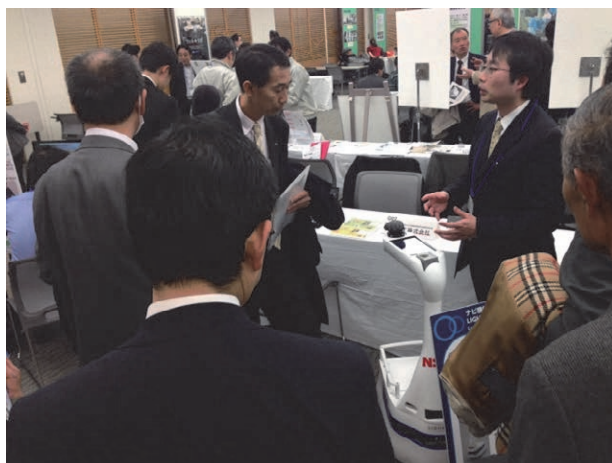
公益財団法人テクノエイド協会 企画部 谷田・渡辺・五島
〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ4階
TEL: 03-3266-6883/FAX: 03-3266-6885

資料4. シーズ・ニーズマッチング交流会 出展機器一覧

厚生労働省:平成27年度採択開発テーマ(8社)

出展	出展者名／機器名称	機器の概要／特長／対象者
東京	(株)ルミナスジャパン アクティブギプス 	<概要／特長> 上肢に障害を持つ方を対象とした自立支援用装着型ロボット。腕を伸ばす力が無くても、肩の力を手先に伝達し、不整地や傾斜地での車椅子操作、プッシュアップ動作などを可能とする。リハビリ効果により、残存機能の維持向上が期待できる。 <対象者> 頸椎損傷C5-C6相当の方で、力を伝達する為の基となる筋力を有する、若しくは訓練により有する可能性のある方。
東京	日本精工(株) 視覚障がい者向け ガイダンスロボット 	<概要／特長> 病院などの施設内において、対象ユーザーを案内する。(ナビゲーション)目的地を入力すると、そこまでの経路を生成し誘導する。(障害物回避)ユーザー前方の障害物回避、段差での転落防止を行う。 <対象者> 視覚障がい者、高齢者
東京	(株)システムネットワーク 音声カレンダー 	<概要／特長> 視覚障害者向け音声カレンダー。視覚障害者における、スケジュール管理／インターネットを介して情報を聞き出したいといったニーズに応える。 <対象者> 視覚障害者
大阪 東京	(株)アイセック・ジャパン 字幕電話 他 	<概要／特長> 高齢者・聴覚障がい者など「聞え」に不自由を感じている方の日常生活支援サービス。「聞え」に不自由を感じている方でも電話が使えるように、相手の音声を文字字幕として入力し配信する。「eーミミ」は、講演会やセミナー会議などでの音声を文字字幕として入力配信する。 <対象者> 電話の声が聞こえづらいが話することができる聴覚障害者、または高齢者

出展	出展者名／機器名称	機器の概要／特長／対象者
東京	(株)マイクロブレイン 「だれでもワークプロ」 	<概要／特長> 働く意欲がある知的障害者に対し、生産工程や作業内容を少しでも見える化することで、より質の高い製品を生産したり、販売時のソーシャルスキルを学び、付加価値の高い製品を生産段階での見える化を行う。カードをデジタル化し画像データやカメラ機能を活用することで、より具体的な解説のできるデジタル絵カードを作ることが可能。また作業内容によって、条件判断が必要とされる場合、複数の絵カードの組み合わせも可能。他にタイマー機能を保持したカードを作成・使用することで作業時間の目安も分かる。 <対象者> 知的障害者の就労の場所となる就労継続支援A型事業所、同じくB型事業所、また特例子会社などで働く知的障害者
東京	特定非営利活動法人 日本視覚障がい情報普及支援協会 視覚障害者向け「音声コード Uni-Voiceアプリ」 	<概要／特長> 音声コードを読取るスマホ用（iOS）無料アプリ「Uni-Voiceアプリ」のデモ。視覚障害者がスマホで操作できるUni-Voiceアプリのデモ版。平成27年度厚生労働省自立支援機器等開発促進事業に採択された製品デモを予定。 <対象者> 視覚障害者及び支援者、行政窓口の担当者
東京	(株)オリィ研究所 分身ロボットOriHime 	<概要／特長> マイク、スピーカー、カメラを内蔵し、ビデオ通話と同時に感情表現が可能な分身ロボット。通常のビデオ通話にくわえ、内蔵されたカメラを自由に動かし、見たいところを見ることが出来るほか、モーションボタンを使って「手を挙げる」「拍手をする」といった感情表現が可能。 <対象者> 肢体不自由者及び特定の難病疾患（神経疾患等）。子どもからおとなまで年齢は問わない。
東京	(株)日本アシスト ロボット便座 	<概要／特長> 排便排尿後の温水洗浄後の臀部の水滴拭き取りを、トイレトペーパーにて、自動でおこなう装置。臀部を温水洗浄後、自動でトイレ紙にて拭き取る。室内タイプでは汚物は強制排出装置によって汚水桝まで強制排出する。 <対象者> 臀部の拭き取りに困難を伴う障害者・要介護者



出展ブースでの交流の様子（厚労省採択開発企業）東京

A: 肢体障害者用(22社)

出展	出展者名／機器名称	機器の概要／特長／対象者
東京	WHILL (株) WHILL Model A 	<概要／特長> 次世代電動車いす。・今までにない美しいデザイン・全方位タイヤによる小回り、四輪駆動による走破性・Bluetooth連携アプリによる遠隔操作。 <対象者> 下肢の不自由な方/歩行が難しい方（健常者の方が使用しても楽しめます。）
東京	(有)さいとう工房 多機能選択型電動車椅子 レル・シリーズ 	<概要／特長> レル・ライト：多機能型電動車椅子。レル・リフト：多機能昇降式電動車椅子。軽量・コンパクト、中輪駆動で小回りが利き、狭い室内も、段差の屋外も自由自在に使える。また、ティルト・リクライニング・座角変換・昇降機能を使い変形し、姿勢を変えたり、様々な状況に対応することができる。 <対象者> 肢体障害者（筋ジストロフィー、脳性麻痺、頸椎損傷等）
大阪	ノイエス (株) 電動車いす Zinger 仮称) 介助用 	<概要／特長> アシスト機能付き介助用電動車いす。弊社取り扱いの電動車いす Zinger の新規開発商品。 <対象者> 電動アシストが必要な介助者
大阪 東京	(株)松永製作所 NEXT-51B 他 	<概要／特長> 3D立体シートの乗り心地の良い車いす。 <対象者> 障害者・児、高齢者

出展	出展者名／機器名称	機器の概要／特長／対象者
大阪 東京	谷口福祉タクシー 介足君(車椅子前脚懸架装置) 	<概要／特長> アルミフレームからなる構成で懸架装置のフックを車椅子側にか け、フットレストを受け板で支持し懸架装置とする。車椅子のフ ットレストに装着(着脱)することで、階段や悪路の非難移動を可 能にする。ワンタッチ(数秒)で装着できる小型軽量で装着したま ま車椅子として走行できる。 <対象者> 車椅子を使用する全ての人。特に、災害などで非難を求める人。
東京	(有)パムック ALS等重度障害者向け 車いす型ストレッチャー 	<概要／特長> チルト+リクライニング機能を持つ呼吸器搭載の車いす型ストレ ッチャー。ホイールベースをコンパクトにした走行しやすい車い す型ストレッチャー。 <対象者> 重度肢体不自由者や難病でベッド上の生活を強いられている方
東京	(株)ミツバ 電動アシスト歩行器 他 	<概要／特長> 電動で歩行をアシスト。①乗用タイプの電動歩行器。②椅子やベ ッドからの立ち上がりを電動で補助する。 <対象者> 肢体障害者及び障害児、自立歩行可能であるが長時間の歩行が困 難な人
大阪 東京	(株)モリトー 片麻痺者用歩行配膳車 (3点支持式) 	<概要／特長> 片麻痺の方が使いやすい、配膳車。片手で操作し、配膳や小物の 持ち運びに便利。高さ：ハンドル上端まで 1080～1330mm、アーム サポートまで 950～1200mm、全幅 460mm／全長 665mm、重量 本体 6.4 kg。 <対象者> 脳血管障害などに起因する片麻痺の高齢者で「杖歩行が自立して いる方」※認知症の方は対象外

出展	出展者名／機器名称	機器の概要／特長／対象者
大阪 東京	(株)今仙技術研究所 歩行支援機「ACTIVE」 	<概要／特長> 『受動歩行』理論に基づいて作られた無動力の歩行支援機。バッテリーやモーターを使わず、バネと振り子の動きが作用し、脚の振り出しをアシスト。非常に軽量（片脚用 約 550 g 両脚用 約 1,050 g）。2種類のベルトを締めるだけの簡単装着。 <対象者> 歩行がしにくい方で、安全に自立歩行ができる方
大阪 東京	本田技研工業(株) Honda 歩行アシスト 	<概要／特長> 「倒立振り子モデル」に基づく効率的な歩行をサポートする歩行訓練機器。股関節の屈曲による下肢の振り出しの誘導と伸展による下肢の蹴り出しの誘導を行う。 <対象者> けがや病気などで歩行が不自由になった方で、目安としてご自分の足で自立ができる方
大阪 東京	(株)エスケーエレクトロニクス SEM Glove 自立支援用 	<概要／特長> 日常生活の「にぎる」をサポートするスウェーデン製握力補助機器。直感的な動作で「にぎる」力をサポートし、日常生活に寄り添うことができるウェアラブルロボット。コンパクトでシンプルな機能により日常のあらゆる「にぎる」をお手伝いする。 <対象者> 筋肉疾患/神経疾患、リウマチ、反復運動障害、事故の後遺症などにより握力が弱い方全般
東京	(株)エルエーピー パワーアシストハンド 	<概要／特長> 脳血管疾患などでマヒした手指のリハビリ補助器。低圧ポンプからの吸気・排気の空気を使ってグローブに取り付けられた蛇腹を伸ばしたり縮めたりすることにより手指を開閉させる。 <対象者> 脳血管疾患で手指・足のなどの片麻痺の方

出展	出展者名／機器名称	機器の概要／特長／対象者
大阪	ダイヤ工業(株) f i n c h 	<概要／特長> 機能性とデザイン性を両立した電動ハンド f i n c h。現在の義手が抱える高コスト、使いにくさ等のデメリットを解決し、思わず使いたくなるようなデザインを追求した全く新しい電動ハンド「f i n c h」。 <対象者> 義手の必要な方、前腕切断者
大阪 東京	(株)金沢エンジニアリング システムズ E Y E 4 1 0 6 	<概要／特長> 制御系ソフトウェアのノウハウを駆使して肢体障害者向けの就労支援機器として視線入力機を開発。 <対象者> 上肢不自由者・筋ジストロフィー・ALS
東京	(株)ビー・アライブ 足操作マウス 『フットルース』(仮称) 	<概要／特長> 片足で市販のマウスと同じ機能操作ができるマウス。①汎用PCへの装着が可能である。②上肢での操作は必要ない。③無線USBの使用を可能にした。④通常のマウスの操作はすべて可能。 <対象者> 上肢障がい者、脳性麻痺、ALS等の上肢の筋力低下障がい者、関節リウマチ患者
東京	フジホーム(株) ステッキ 	<概要／特長> (棒状杖) かるがもシリーズ。(多点杖) 可動式及び立上り補助。握りやすさにこだわったグリップ形状と立上り及び歩行補助用杖。 <対象者> 片麻痺の方。ポリオの方。その他歩行に不安のある方。

出展	出展者名／機器名称	機器の概要／特長／対象者
東京	(株)アグメント 床走行移乗機 	<概要／特長> ベッド・車いす・トイレ間の移乗をサポート。介助者1名だけでも扱うことができる床走行移乗機。 <対象者> 車いすを使用されている方
大阪	西川リビング(株) 入浴リフト 他 	<概要／特長> ①浴槽内で利用する入浴リフト：煩わしい取付けはなく、浴槽内におくだけの簡単設置。椅子の昇降は9.5cm～68cm。安心して入浴できる。②座位保持装置搭載用屋外フレーム：お子様から体格のしっかりした方まで1台のフレームであわせることができる。 <対象者> 入浴に際し洗い場から浴槽内への移動や入浴動作に支障がある方。
東京	アロン化成(株) 水洗ポータブルトイレ 	<概要／特長> ポータブルトイレの移動簡易性をそのままに、さらに座面昇降機能と水洗機能を付与したトイレ。座面昇降機能・座面前後傾機能・水洗機能・温水シャワー機能(前後左右可動)・暖房便座機能・脱臭機能・温風乾燥機能・トイレ誤移動防止機能など。 <対象者> 肢体障害など、トイレへの移動に障害をお持ちの方で、日常的にポータブルトイレを利用されている方
大阪	(株)アイン ナノミストヘッドスパ 	<概要／特長> 超節水で、通常のお湯の量(30～40L)の1/10～1/20の量で洗髪が可能になりました。新開発の混合ミストの力でシャンプー液も不要です。整髪料を含め、頭皮や毛穴の汚れも綺麗になります。ベッドサイドまで移動して使用できるため、介助者も要介護者も負担になりません。 <対象者> 頸椎損傷などで障害をもたれた方など一般浴が困難な方

出展	出展者名／機器名称	機器の概要／特長／対象者
東京	やすらぎ研究所 介護用ベッド模型 	<概要／特長> 中央部開閉ベッド。 <対象者> 寝たきりの方、肢体不自由者
大阪	東光機材(株) 取っ手付き車用踏み台 	<概要／特長> 軽くて持ち運びが楽。取っ手がついているので、腰をかがまなくても持ち運びがしやすい。上がり降りの際に取っ手が付いているので、動作のサポートをしてくれる。 <対象者> 自立歩行ができる人。階段を一人で上がり降りができる人。足腰が弱って、車やバスなどの乗り降りがしづらい人。



出展ブースでの交流の様子（肢体障害者用機器）大阪・東京

B:聴覚障害者用(4社)

出展	出展者名／機器名称	機器の概要／特長／対象者
大阪 東京	(株)ソナール ヒアリングループ 	<概要／特長> 施設内でのループ支援機能を移動体（バス・自動車等）に展開。 <対象者> 聴覚障害者（補聴器、人工内耳装用者）、難聴者全般
大阪 東京	Jumpers(株) FM無線式会話器 	<概要／特長> FM無線を使って声を双方向に送って会話ができる。難聴者・健聴者が混じって複数人で会話ができる。 <対象者> 学校、職場、社会活動でグループによる会話を必要としている難聴者、及び その対応者、支援者
大阪 東京	AURAL SONIC(株) 聴力補助BOX 	<概要／特長> 難聴者の耳の周りを囲うことで、声が聴きやすくなるBOX。難聴者の周辺のノイズを吸音して軽減し、聴きたい声だけを反射させて残すことで、補聴器無しでも言語の聴き取りが改善される。頭の周りにすっぽり被せる。 <対象者> 難聴者、盲ろう者
大阪 東京	ユニバーサル・サウンドデザイン(株) comuoon iListening 	<概要／特長> 難聴者支援スピーカーcomuoon設定ツール。comuoonの周波数特性をタブレット経由で変更可能にするツール。難聴者の方のオーディオグラムの保有が可能となる。 <対象者> 聴こえの問題を抱える軽・中度難聴者、高齢者



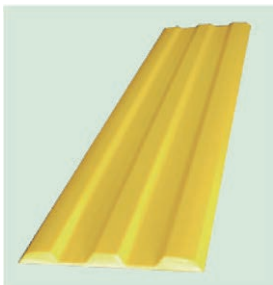
出展ブースでの交流の様子（聴覚障害者用機器）東京



出展ブースでの交流の様子
（視覚障害者用機器）
大阪

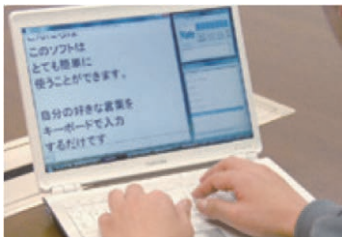
会場受付に設置した音声ガイド機器
東京

B:視覚障害者用(6社)

出展	出展者名／機器名称	機器の概要／特長／対象者
東京	(株)アルファメディア 視覚障害者向け歩行支援システム 	<概要／特長> 視覚障害者の方が障害物や下り段差、駅のホーム端等を安心・安全に歩行出来る事を支援するシステム。ステレオカメラを活用し、障害物や下り段差、駅のホーム端等を捉えて、音声や振動で視覚障害者の方に知らせる事で、安心・安全に歩行出来る事を支援。 <対象者> 視覚障がい者（全盲・弱視）の方々ならびに何らかの視覚異常により通常歩行が困難な方
東京	(株)KOSUGE MyCane®II SPOT 	<概要／特長> 視認性を向上させた点滅点灯させるLED付き白杖。全盲の人に対しては、電池不要な振動発電方式、ロービジョンの人に対しては、電池交換タイプ。 <対象者> 全盲の視覚障害者。
大阪 東京	(有)テイクス パームライン 	<概要／特長> 視覚障害者誘導用の溝つき線状突起タイル。足や白杖で分かる誘導機能。従来（誘導ブロック）と同じ高さでも、歩きやすい突起形状（なで肩の幅広）が特徴で、従来は敷設できなかった、狭い道路や室内などに使える。 <対象者> 視覚障害者および（利益が相反している）肢体障害者や高齢者などの歩行弱者
大阪 東京	(株)画像聴覚化研究所 画像聴覚化装置 	<概要／特長> 静止画像をスキャンし、個々のドットに割当てた音を順次発音させ、全体形状をイメージする感覚代行装置。画像そのものに加え、タッチパネルを用いて音声ガイドを聞くことができる。既存の点図に比べ格段に多い情報量をストックし提供することができる。 <対象者> 視覚障害者

出展	出展者名／機器名称	機器の概要／特長／対象者
大阪 東京	(株)システムイオ(旧: テック アイオーサービス) お財布型ポータブル 紙幣識別機 W a l l e t 	<概要／特長> 日本銀行券4種を音声・ブザー・振動でお知らせ。その他、I C カードの音声読上げ機能もある。財布の様に使える紙幣識別機。 滑りづらく手触りのよいソフト素材を採用。 <対象者> 視覚障害者、盲ろう者の方々全般
大阪	(有)福源 手すりつき踏み台昇降 運動器具 	<概要／特長> 手すり付きの高さ変更可能な桧製の踏み台昇降運動器具。足腰の 強化、転倒予防、バランス改善を図り、オプション部品を使って アキレス腱とふくらはぎのストレッチができる。 <対象者> 視覚障害者

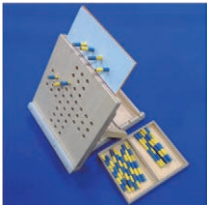
C:コミュニケーション(7社)

出展	出展者名／機器名称	機器の概要／特長／対象者
東京	第一医科(株) ハンズフリー型ウェアラブル 電気式人工喉頭 	<概要／特長> 既存の電気式人工喉頭の「片手が束縛される」デメリットを克服したハンズフリー型の電気式人工喉頭。機能：抑揚機能、音声増幅機能。特徴：ハンズフリー型、ウェアラブル。 <対象者> 発話障がい者
大阪 東京	(株)ヒューマンテクノシステム東京 自分の声ソフトウェア 「ボイスター」 	<概要／特長> キーボードなどから入力したテキスト文章を、「自分の声」で再現する音声合成ソフトウェア。特定個人の声で、任意のテキストを音声とし出力する音声合成システム。声を失われる方へ失声後の代用音声などに利用できるように提供している。「自分の声」という重要なアイデンティティを維持することで、失声後のQOL確保に貢献している。現在は、会話利用に加え、多様な利用ニーズへの対応に取り組んでいる。 <対象者> 手術や病気の進行で自分本来の声を失われる方
東京	ハイブリッドシステム(株) みまもりシステム 「Smyline」 	<概要／特長> 高齢者、障害者のみまもり用端末及びシステム。現在発売中のみまもりシステムに、①徘徊検出にも活用出来るワイヤレスドアセンサ、ワイヤレス人感センサ、ワイヤレスボタン、ワイヤレスネットワークカメラをオプションとして追加（交流会までに発売の可能性有り） ②地域連携でみまもりが行いやすい様に、複数の方を一括みまもりが出来る機能を追加（計画中）。 <対象者> 高齢者、障害者等

出展	出展者名／機器名称	機器の概要／特長／対象者
東京	パナソニックエイジフリー ライフテック(株) 意思伝達装置 レッツ・チャット 	<概要／特長> スイッチ一つで操作できる、最も簡単な意思伝達装置。身体の可動部位に合わせた入力スイッチ一つだけで、簡単に会話が可能。専用機器のためフリーズ等のトラブルも無く、安心してお使い頂くことが可能。 <対象者> 言語および上肢の両方に障害を持つ方
東京	(株)日立ケーイーシステムズ 意思伝達装置「伝の心」 	<概要／特長> 筆談、発話が困難な重度の肢体不自由者のコミュニケーションを支援する機器。文章作成、身の回りの機器（赤外線リモコンで操作できる機器が対象）の操作、離れた人とのコミュニケーション（電子メールの利用）が基本機能。 <対象者> 両上下肢及び言語機能を失い、会話や筆談ができない重度障害者
東京	(有)オフィス結アジア 指伝話 	<概要／特長> i O S、A n d r o i d 用 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ア プ リ 及 ビ タ ブ レ ッ ト 入 力 補 助 ア ダ プ タ。タブレット・スマートフォンを使った会話補助と、スイッチなどで入力するためのアダプタ。 <対象者> リハビリテーション関係者・病気や障害で言語コミュニケーションが困難な方
大阪	(株)レイトロン 自立支援向けコミュニケーションロボット 他 	<概要／特長> 『Chapit』は、生活雑音環境下で離れたところからの音声認識が可能で、ボタンを押したり、名前を呼んでから音声認識する必要のない、世界初の”Always listening機能”を搭載した、対話型のコミュニケーションロボット。製品としては、大きく4つの機能を有しており、コミュニケーション機能・家電コントロール機能・ブレイントレーニング機能・タイムサポート機能がある。使用環境を限定しておらず、各種公共施設、居宅など幅広い環境での使用が可能。 <対象者> 高齢者、肢体障害者、視覚障害者。音声によりロボットとのコミュニケーションが図れる方

D:レクリエーション／障害児用(9社)

出展	出展者名／機器名称	機器の概要／特長／対象者
大阪 東京	(株)ユープラス トーキングエイド for iPad 他 	<概要／特長> iPadを利用した障害者用コミュニケーション機器、重度障害児用訓練ゲーム。専用機トーキングエイドをベースにし、iPadを使うことで幅広いニーズに対応した機器。利用者のレベルに応じて難易度等が設定可能で、さらに外部スイッチでの操作も可能なゲーム。 <対象者> ・トーキングエイド for iPad：脳性麻痺者（児）、脳卒中患者、発達障害児（者）、ALS、SCD ・ぽんぽんわーど：知的障害児、重度重複障害児、発達障害児
東京	(株)アクセスインターナショナル ①ボードメーカー ②あのね♪DS 	<概要／特長> ①シンボルや文字でコミュニケーションを支援。シンボルの語彙検索やカテゴリー検索、ページレイアウト。②ニンテンドーDSを使用したコミュニケーションツール。 <対象者> 自閉症、知的障害
大阪	(株)コムフレンド ①VOCA-PEN ②VOICE RULER 	<概要／特長>①自由に録音・再生ができる夢のペン。ペンとシールのセットになっており、音声を録音したシールをペンでタッチするとその内容を再生する。録音操作も簡単で、学習や日常生活などさまざまな場面で活用できる。②光る声のものさし。声の大きさをわかりやすい光の色とイラストで表示する。人の声をマイクで感知し、その大きさを5段階のLED表示によって可視化。LEDの光の色（青、緑、赤）と人の顔のイラストによって誰にでもわかりやすく表示する。 <対象者> 自閉症児、知的障がい児など
東京	熊本高等専門学校 ／(株)サートプロ クラウドを活用した学習支援 教材アプリ 	<概要／特長> 主にiPad上で利用する障害児向けの学習支援アプリ群（現在8アプリ）。クラウド構築することで、いつでもどこでも、保護者・教員との情報共有が可能。また障害をもつ児童・生徒本人にとっても、学習効果が見える化されることで学習意欲の向上をはかる。 <対象者> 障害をもつ児童・生徒（知的、視覚障害、肢体不自由、学習障害等）

出展	出展者名／機器名称	機器の概要／特長／対象者
東京	キヨタ(株) ヘッドガードフィット シリーズ 	<概要／特長> オーダーメイド感覚でカスタマイズできる保護帽。オプションパーツの組み合わせとかぶりの深さまで調整できる機構によりサイズはもちろん、保護範囲まで目的に合わせてオーダーメイド感覚でカスタマイズが可能。 <対象者> 足腰の弱い方、肢体不自由で歩行に難を持たれている方、もしもの転倒に対してのリスクのある方
大阪 東京	(株)スタンダード heart bridge smock 	<概要／特長> 知的障がい児（者）及び肢体不自由児（者）向けの療育・自立支援用衣類（スモック）。知的障がい児（者）の自立・療育支援の促進や肢体不自由児（者）の生活利便性の向上の為に有効な留め具（ボタン、ユニバーサルボタン、ファスナーなど）を使用の知的障がい児の親としての実体験を基に、作業療法や療育・教育機関からの意見を取り入れている。 <対象者> 知的障がい児（者）、肢体不自由児（者）等
大阪 東京	京 自助具館 フリーポジション・ペグ 	<概要／特長> マグネット付ペグ。ペグにマグネットをつけることにより、あらゆる姿勢での使用が可能。仰臥位の使用でもペグが落ちない。 <対象者> 外傷疾病などにより上肢・手指機能に障害を持った方
大阪 東京	クリスタル産業(株) アンブティサッカー用 クラッチ 	<概要／特長> 足および腕切断者によるサッカー、アンブティサッカーに使用されるクラッチの改良、提案。身長や体重に合わせた素材選びや使用者の目的に合わせたパーツの選択が可能。 <対象者> 下肢切断者
大阪 東京	(株)キザキ 歩ミングポール 	<概要／特長> ノルディック・ウォーク用ポール、靴下。リハビリ用、安定歩行が可能なノルディック・ウォーク用のポール。 <対象者> 歩行可能（自立歩行困難な方も可）なすべての方



出展ブースでの交流の様子（レクリエーション／障害児用機器）大阪

E:その他(9社)

出展	出展者名／機器名称	機器の概要／特長／対象者
東京	スマイルリンク(株) 3Dプリンタ出力の 障がい者用自助具 他 	<概要／特長> 熱溶解方式の小型3Dプリンタの展示と3Dプリンタを利用した自助具など。自社開発の日本製3Dプリンタ。ナイロン、PETなど様々な材料を使用できる。 <対象者> 自助具を必要とされている方 頸椎損傷の方 障害者スポーツの選手の補助具など
東京	(株)スマートサポート スマートスーツ 	<概要／特長> 腰痛リスクを伴う作業で、疾病予防・作業持続性に寄与する“軽労化”を目的とした製品。機械的な動力を必要としないため、安価で優れた着心地が特長。また、姿勢評価システムにより対象作業のリスクを評価することで、作業内容・環境に合わせたカスタマイズも可能。 <対象者> 障害者を介護している人
東京	(株)倉元製作所 マトリックスセンサ（仮） 	<概要／特長> 荷重バランスを簡易的に可視化し、リハビリでの補助機器として使用する。利用者が力を加えた際に荷重バランスを簡易的に可視化し、歩行訓練などリハビリでの補助機器として使用することができる。また、センサ部に有機圧電フィルムを用いているので、柔軟性や耐衝撃性が担保でき、様々な場所での利用が可能である。 <対象者> 肢体障害者など、リハビリを必要としている方々全般

出展	出展者名／機器名称	機器の概要／特長／対象者
大阪 東京	(株)親和製作所 洗濯物仕分けサポートシステム 	<概要／特長> 要介護者の洗濯物の仕分け作業を障害者の方ができるよう就労支援システム。特養に入所されている方の洗濯物にＩＣタグを埋め込み登録し、洗い終わった後障害者の方がシステムのサポートでたまたみながら棚に収納することで就労支援ツールとして開発した。 <対象者> 特別養護老人ホーム等で洗い終わった洗濯物を仕分けする仕事に従事する人。大量の洗濯物の仕分けに困っている業者。
東京	(株)ソフトシーデージー 脳活動量計測装置 	<概要／特長> 宇都宮大学の研究結果をベースに、装置の共同開発を進めている（特許出願済）。本装置は、簡易な手指動作を調べることにより、軽度の脳機能障害の程度を数値で示す。このため、軽度の脳梗塞後のリハビリでの回復度合いの測定、日々の体調管理、子供の発育状況の把握、高齢者向け脳虚血検出、ドライバーの就労前検査など、使用者の体調を客観的に知る必要がある様々な用途に応用することができる。測定は、装置の前で画面に表示される手本動作を真似て手を動かすだけです。測定から判定までの時間は３０秒もかからない。血圧計を使う程度の手軽さで、脳機能障害の程度が測定できる装置を目指している。日々のリハビリでの回復度合いを測定することができる。 <対象者> 脳機能の問題により運動機能のリハビリを行っている方。また、年齢的に脳卒中などリスクが高まる高齢者の方。
東京	事業主代表 夏目三郎 ベッドの上で入浴 	<概要／特長> 上半身をベッド背もたれに乗せて、楽な姿勢で安全に早く、入浴できる。①接続部で体型調整（身長、横幅）できるので、身体は安定し、安全に入浴できる。②浴槽板は事前組立して、使用時はベッドの上に置くだけ（楽、早い、１分）。③浴槽シートは一枚シートで、硬化部がないので肌を傷めない。④湯量は６０リットルと少なく、給排水はポンプ３台（３０リットル／３台分）で２分。 <対象者> 在宅介護の入浴者、車椅子の方、ALS、全盲の方、風呂に移動できない方

出展	出展者名／機器名称	機器の概要／特長／対象者
大阪	(株)ウェルケアベッド 夢神楽Ⅱ（仮称） 	<概要／特長> リフトと浴槽を備え、入浴や車いすへの移動が簡単にでき、ぬくもりのある介護ベッド。すでに販売している浴槽付介護ベッド「夢神楽」のリフト機能に水平移動を新たに追加し、入浴のみならず車いすへの移動も可能にし、インテリアとしても質の高い、世界初のベッド。 <対象者> 脊椎損傷などの肢体障害者。入浴や移動が一人ではできない全ての方。
大阪	(株)プロアシスト 脳波センサZ A 	<概要／特長> ポータブル型小型脳波計。睡眠脳波を簡単に計測でき、計測データの解析により、睡眠深度などの睡眠リズムを把握できる。 <対象者> 睡眠状態を把握したい方
大阪	シーホネンス(株) アッカスマート 	<概要／特長> 車いす用電動移動装置。重度の障害者でも自分の意思で移動できる。リハビリに役立つ。 <対象者> 神経疾患や重度の障害をお持ちのお子様から大人まで

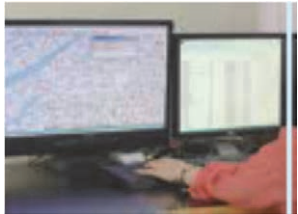


出展ブースでの交流の様子（その他の機器）
東京

情報通信研究機構 NICT(4社)

出展	出展者名／機器名称	機器の概要／特長／対象者
大阪 東京	先進的音声翻訳研究開発推進センター 「SpeechCanvas」 	＜概要／特長＞ 聴障者と健聴者との円滑なコミュニケーションを支援するアプリ。聴障者への窓口や店頭での接客サービスを音声認識や手書き機能、定型登録で円滑にすすめられるようサポート。 ＜対象者＞ 窓口や接客カウンターなどで聴覚障害者とコミュニケーションをとる健聴者
大阪 東京	(株)FEAT 「こえとら」 	＜概要／特長＞ 聴障者と健聴者との円滑なコミュニケーションを支援するアプリ。聴障者の街中での困り事を、豊富な定型文、地図表示、音声認識や合成で円滑に解決できるようにサポート。 ＜対象者＞ 聴覚障害者および健聴者
東京	(株)プラスヴォイス UDトーク、UD手書き、 手書き電話UD、遠隔手話通訳 	＜概要／特長＞ 聴覚障がい者とのコミュニケーション支援アプリ並びにサービス。スマートフォン・タブレット端末のアプリ、ビデオ通話機能によってコミュニケーションバリアを解消。 ＜対象者＞ 聴覚・言語障がい者
大阪 東京	(株)SOBAプロジェクト ユニバーサルな電話リレーサービス 	＜概要／特長＞ eラーニングにも使える複数情報伝達モードを備えたリレーサービス。パソコンやタブレット、スマートフォンなどで、ろう者と聴者がお互いに相手の表情やジェスチャを直接確認したり、手話や手話通訳者を介したり、または複数の情報伝達モードを用いて、意思疎通を図ることが可能な、気軽に利用できるサービス。 ＜対象者＞ ろう者・難聴者・中途失聴者と手話通訳者とろう者との通話が必要な例えば市役所の担当者等

ATCエイジレスセンター(2社)

出展	出展者名／機器名称	機器の概要／特長／対象者
大阪	(株)輝章 救助担架フレスト UD-001 	<概要／特長> ユニバーサルデザインに基づき安全に階段昇降ができる布製担架。3人で搬送出来るショルダーベルト付布製担架。特に階段昇降に適しており、支援者、要援護者双方に配慮した設計で日常搬送から災害時の避難誘導にも使える搬送器具。 <対象者> 全ての生活者
大阪	(株)武揚堂 避難行動要支援者名簿運用システム 	<概要／特長> 要援護者名簿を取り込み地図に展開、要援護者の情報を地域ぐるみで共有するためのソフトウェア。災害時、避難に配慮を有する高齢者、障害者の方の名簿住所から地図に位置を展開、地図上に画像や図形を配置できる。作成されたデータファイルを災対本部、自治会等やりとりして情報共有をおこなうツール。 <対象者> 災害時の高齢者、障害者の名簿を運用する自治会、行政の災害対策担当

障害者自立支援機器 「シーズ・ニーズマッチング交流会 2015」

障害者自立支援機器に関するニーズ集

～ 2016. 02. 12 ～
ver 2.0

この「障害者自立支援機器に関するニーズ集」は、シーズ・ニーズマッチング交流会2015の開催に先立ち、9ヶ所の障害者当事者団体にご協力いただき、「自立や社会参加にあたっての課題（お困りごと）」と「解決のための方策やニーズ」を取りまとめ、整理した資料です。

本交流会に来場された皆様方の参考になれば幸いです。

なお、本ニーズ集をご覧いただき、ニーズに対して対応する（或いは「解決できそうな」）技術や製品がございましたら、別紙の連絡シートにてご提出下さい。

また、障害のある方やご家族、介護職員等の方々に置かれましては、別の観点から、本ニーズ集に付け加えたいお困りごとやニーズ等がございましたら、別紙の連絡シートにてお知らせください。

収集した支援機器に関わるニーズは、現在、当協会が開発・改良している「福祉用具ニーズ情報収集提供システム」等において活用するとともに、障害者の真のニーズを踏まえた良質な支援機器開発に役立てて参ります。（<http://www.techno-aids.or.jp/>）

公益財団法人テクノエイド協会

目 次

1. 日常生活編	- 1 -
1-1 物の出し入れや移乗が困難（脊髄損傷、ALS）	- 1 -
1-2 外出時の移動支援が少ない（脊髄損傷、ALS）	- 1 -
1-3 スマートフォン・PC の操作が困難（脊髄損傷）	- 1 -
1-4 機器の操作が困難（脊髄損傷）	- 2 -
1-5 症状の進行に応じた支援が必要（ALS）	- 2 -
1-6 姿勢を自力で変えたい（ALS）	- 2 -
1-7 外出時に困る（視覚・聴覚）	- 2 -
1-8 プライバシー情報の管理と守秘（視覚・聴覚）	- 3 -
1-9 盲ろう者対応の機器（視覚+聴覚）	- 3 -
1-10 機器の起動と終了（視覚+身体）	- 3 -
1-11 色、手書き文字などが分からない（視覚）	- 3 -
1-12 緊急時のアラームや来客に気づけない（聴覚）	- 4 -
1-13 公共交通機関の表示を分かりやすくしてほしい（聴覚）	- 4 -
1-14 家族や親しい人との会話が難しい（聴覚）	- 4 -
1-15 近隣の人とのコミュニケーションに困る（聴覚）	- 5 -
1-16 買い物の際のコミュニケーション（聴覚）	- 5 -
1-17 病院・医院におけるコミュニケーション（聴覚）	- 5 -
1-18 電話対応が困難（聴覚）	- 6 -
1-19 テレビの字幕（聴覚）	- 6 -
1-20 起立、歩行が困難（ポリオの会）	- 6 -
1-21 腕の上げ下げが困難（ポリオの会）	- 7 -
1-22 自己管理が困難である、感覚が過敏である（自閉症）	- 7 -
1-23 対人的コミュニケーション（自閉症）	- 7 -
1-24 言葉の理解が難しい（失語症）	- 8 -
1-25 緊急時対応（失語症）	- 8 -
2. 就労・就学編	- 9 -
2-1 通勤・通学路、施設内のバリアフリー（脊髄損傷、ALS）	- 9 -
2-2 定年後の再就職（脊髄損傷）	- 9 -
2-3 コミュニケーションに介助者が必要（ALS）	- 9 -
2-4 通勤・通学時に自力で移動できない（視覚・聴覚）	- 9 -
2-5 書類対応（視覚）	- 10 -
2-6 会議や講義が聞こえない（聴覚）	- 10 -
2-7 上司、同僚、教員、同級生との会話や接客（聴覚）	- 10 -
2-8 障害のために役職に就けない（聴覚）	- 11 -

2-9	立ち仕事・歩き仕事が困難（ポリオの会）	- 11 -
2-10	集団行動ができない・学習障害（自閉症）	- 11 -
2-11	書類対応とコミュニケーション（失語症）	- 11 -
3.	趣味・スポーツ編	- 12 -
3-1	移動手段がない（脊髄損傷）	- 12 -
3-2	新幹線や高速バスが利用できない（脊髄損傷）	- 12 -
3-3	マラソン（視覚・聴覚）	- 12 -
3-4	カラオケ（視覚・聴覚）	- 12 -
3-5	ドライブ（視覚）	- 12 -
3-6	外歩き（視覚）	- 13 -
3-7	旅行を楽しみたい（聴覚）	- 13 -
3-8	趣味の会やスポーツを楽しみたい（聴覚）	- 13 -
3-9	飲み会（聴覚）	- 14 -
3-10	パソコン（聴覚）	- 14 -
3-11	自由な移動ができない（自閉症）	- 14 -
3-12	やってみたいこと（失語症）	- 14 -

障害者自立支援機器に関する連絡シート 別紙

1. 日常生活編

1-1 物の出し入れや移乗が困難（脊髄損傷、ALS）

〈困りごと〉

- ・加齢に伴い、日常生活における様々な行動について悩んでいる。
- ・入浴時の洗い場と風呂淵の高さが40cmあり入浴不可能であった。
- ・高いところのものの出し入れが困難。
- ・排便時の介護者が不足している。介護保険サービスの単価が高く、入浴介助等が必要分受けられない。
- ・階段昇降機はALS患者は症状の一過程でしか利用できない。
- ・階段昇降機は大きすぎて日本の住宅では設置できないことが多い。
- ・エレベーターは建蔽率の問題で設営できないことが多い。

〈解決のための方策（ニーズ）〉

- ・ベッドから車いすへ移乗できる器具が欲しい。
- ・人に頼んで高いところのものを取ってもらうか、そもそも高い場所の収納を使用しない。
- ・現在の車椅子は座面が低いため、高さを調整して、立位になれるものがほしい。
- ・車椅子に固定するリチウムバッテリーの改善を望む。
- ・ベッドや風呂への移乗リフトは、大掛かりな改修が必要な点と、設定の面倒さを改善してほしい。

1-2 外出時の移動支援が少ない（脊髄損傷、ALS）

〈困りごと〉

- ・ヘルパー全般が不足している。
- ・冬季は積雪のため車椅子での外出が困難である。
- ・バスのステップが高くて乗車できない。

〈解決のための方策（ニーズ）等〉

- ・除雪が自治会頼りの現状をなんとかしたい。
- ・バスのステップからスライドして出てくるプレートは海外で実用化されている。

1-3 スマートフォン・PCの操作が困難（脊髄損傷）

〈困りごと〉

- ・スマートフォンは静電気に反応するため両手が使えないと操作ができない。
- ・タッチパネル用とキーボード用のマウススティックを使い分けられない。

〈解決のための方策（ニーズ）〉

- ・スマートフォンやタブレットは感圧式でも操作できるようにしてほしい。
- ・メールを音声だけで送受信したい。

- ・指や手に装着して文字入力を可能にするセンサー付きの機器を探している。

1-4 機器の操作が困難（脊髄損傷）

〈困りごと〉

- ・紙幣検算機は複数枚数えられるようにしないと経済的自立につながらない。
- ・緊急時の通報機器には、大きなボタンで操作できるものがない。

1-5 症状の進行に応じた支援が必要（ALS）

〈困りごと〉

- ・ALSでは症状の進行によって困りごとの内容が変わり、非常に幅広い。行政の機器認定を待っている間に進行してしまうことや、機器を使用する介助者の中にも専門知識を持つ者が少ないという問題がある。
- ・症状の変化の間隔がどんどん短くなること、無理をすると筋肉が落ちることから、変化への対応が難しい。

1-6 姿勢を自力で変えたい（ALS）

〈困りごと〉

- ・多少姿勢をずらしたいときに困る。

〈解決のための方策（ニーズ）〉

- ・現在は介助者が本人の意思を確認しながら姿勢をずらしている。マッサージ機のように人に併せて動いたり、姿勢パターンを記憶させられるベッドが欲しい。

1-7 外出時に困る（視覚・聴覚）

〈困りごと〉

- ・歩行者用の信号機の色や音響信号の音がわからないため、自力で渡れない。（視覚）
- ・画面の情報が見えず、音声ガイドが聞こえないため銀行のATMや駅の券売機等のタッチパネルによる操作ができない。（盲ろう）
- ・白杖が外出時に折られたり曲げられたりする。（視覚）

〈解決のための方策（ニーズ）〉

- ・シグナルエイドを活用して、信号の色が振動でわかるようにする。（盲ろう）
- ・横断歩道自体が信号を知らせてくれるとよい。
- ・ATMの音声ガイドの情報を点字ディスプレイで読みながら、ボタンで操作できるようにしてほしい。（盲ろう） ※参考：ゆうちょ銀行のATMの中には点字で操作できるものがある。

- ・形状記憶の杖がほしい。（視覚）
- ・横移動のできる安価で軽量の車椅子がほしい。既存品はあるが、重量が重いことと、高価なことがネックになっている。
- ・地下でも使用できる（位置情報を取得できる）案内用機器やアプリが欲しい。もしくは地下通路をGPS 対応に改良してほしい。

1－8 プライバシー情報の管理と守秘（視覚・聴覚）

〈困りごと〉

- ・体温計・体重計・血圧計等の器具を使って自力で健康管理ができない。家族や他人に見てもらう必要があるのでプライバシーが守れない。

〈解決のための方策（ニーズ）〉

- ・点字で読める携帯端末（ブレイルセンス等）に体温・体重・血圧のデータを送れるようにすることで自力で健康管理ができる。

1－9 盲ろう者対応の機器（視覚+聴覚）

〈解決のための方策（ニーズ）〉

- ・盲ろう者向けに振動等で時間を知らせる目覚まし時計が欲しい。自分で時間をセットできるとなおよい。
- ・文字情報だけではなく、音声や画像など全ての情報を変換するピンディスプレイ PC が欲しい。

1－10 機器の起動と終了（視覚+身体）

〈困りごと〉

- ・細かい機器の操作ができないため、音声認識機器の起動と終了も音声でコントロールしたい。

〈解決のための方策（ニーズ）〉

- ・ウェアラブルの大きな起動・終了ボタンが欲しい。機器の操作に慣れない中途失明者にもニーズがあるはず。
- ・電話がかかってきたときに、「はい」と応答するだけで通話が開始する電話がほしい。

1－11 色、手書き文字などが分からない（視覚）

〈困りごと〉

- ・色がわからない。
- ・手書きの文字が読めない。手紙、液晶画面、商品名が読めない。

〈解決のための方策（ニーズ）〉

- ・対象物にかざしたら、色がわかる機器があったらよい。
- ・手書き文字等を簡単に読める機器が欲しい。

1-12 緊急時のアラームや来客に気づけない（聴覚）

〈困りごと〉

- ・玄関チャイムや火災報知器の起動が、お風呂やお手洗い等では分からない。
- ・夜睡眠時は人工内耳の外部器械をはずすので、夜、何かあったらという不安がある。
- ・両耳補聴器を使用しており、昼間の日常生活は何とか過ごせるが、寝るときは音がするので外して休む。近所の人が前日の夜の出来事を知らせてくれて後から驚くことがよくある。
- ・道路を歩行中、後部から接近してくる自転車、自動車の声が聞こえない。
- ・自動車運転中、緊急車両接近の警報の音が聞こえない。
- ・水道や換気扇から少し離れると音が聞こえないので、止め忘れることがある。

〈解決のための方策（ニーズ）〉

- ・同じ周波数でフラッシュする小さな機器があるといい。
- ・振動でチャイムがわかる機器があると良い。

1-13 公共交通機関の表示を分かりやすくしてほしい（聴覚）

〈困りごと〉

- ・電車の次停車駅の放送が聞こえない。混雑しているとドア上部の文字も見ることが不可能。
- ・駅構内の行き先案内が聞こえない。

〈解決のための方策（ニーズ）〉

- ・両電車・バスの方向標識は止まっているときも表示してほしい。
- ・電車、バスの車内やホームの電光表示で、緊急時の情報（事故、運行状況、遅延、信号待ちなど）を流してほしい。
- ・車載型ヒアリングループシステムを普及して欲しい。
- ・音声を自動認識し、電光掲示板に表示する装置を開発して欲しい。

1-14 家族や親しい人との会話が難しい（聴覚）

〈困りごと〉

- ・文字で意思の疎通を図っているが十分ではない。

〈解決のための方策（ニーズ）〉

- ・音声文字や絵・図に変換する機能を中心にもった携帯機器が欲しい。
- ・手書き認識機器（音声認識込）の認識率を向上させて、操作も簡略にしたい。

1-15 近隣の人とのコミュニケーションに困る（聴覚）

〈困りごと〉

- ・人のいない時間帯にごみ出ししている。
- ・地域の会合や集会、役員会、学校行事、冠婚葬祭などの場で会話が聞こえず、コミュニケーションがとれない。
- ・町内会の当番が回ってくると聞き取れない。

〈解決のための方策（ニーズ）〉

- ・音声認識機器や感度の良い磁気誘導ループを使いたい。
- ・難聴者の社会参加を促すように、情報保障の制限をなくしてほしい。
- ・公的機関が主催する会議や研修回答へは、必ず要約筆記を付ける法的措置が欲しい。
- ・会合開催については、聴覚障害者への連絡体制を整備してほしい。

1-16 買い物の際のコミュニケーション（聴覚）

〈困りごと〉

- ・セールストークへの対応
- ・スーパーのレジ店員からの呼びかけへの対応
- ・役所、病院、銀行、郵便局の窓口との会話
- ・駅、デパート、ショッピングセンターで案内が聞こえない。

〈解決のための方策（ニーズ）〉

- ・日常の買い物では、確認事項をボードなどで示して欲しい。
- ・高価な買い物の販売員や窓口対応では、タブレット等で音声認識や手書き認識アプリを活用してほしい。
- ・各所に電光掲示板やお知らせランプが普及すると良い。

1-17 病院・医院におけるコミュニケーション（聴覚）

〈困りごと〉

- ・病院内の呼出が聞こえず、自分の順番が分からなくなる。
- ・医師の説明が聞き取れず、不安が増大する。
- ・マスクをかけている医療従事者の声が聞き取れない。
- ・診察室は暗騒音が大きく、補聴器があっても医師の説明が聞き取りづらい。

〈解決のための方策（ニーズ）〉

- ・受付に難聴者であることを申告し、大きい声で呼んでもらう。
- ・公共施設には会話支援機器を常備してほしい。
- ・番号などを表示する呼出システムに改善してほしい。
- ・音声認識ソフト・手書き認識ソフトの認識率の改善を望む。
- ・医師の話した内容を文字化した上にプリンターで打ち出して患者が持ち帰れるようにしてほしい。

1-18 電話対応が困難（聴覚）

〈困りごと〉

- ・企業などの電話案内で、用件ごとに異なる数字を押すようにアナウンスが流れる場合があるが、聞き取れないことが多い。
- ・商品等の申込みや問い合わせ先が電話のみのことがある。カード紛失時の本人確認が電話対応のみで苦労した。
- ・人工内耳を使っても、電話だと聞き取れる声と聞き取れない声がある。
- ・ファックスか電話か受信音で分からないので、健聴の家族が電話と間違えて受話器を取ってしまい、相手がファックスを再送信しなければならないことがある。

〈解決のための方策（ニーズ）〉

- ・録音アナウンスはゆっくり、聞き取りやすくしてほしい。もしくは受話器側で「ゆっくり」調整できるようにしてほしい。
- ・電話リレーサービスの普及を望む。
- ・音声認識ソフトを活用したい。
- ・本人確認が必要な場合はテレビ電話を使えないか。
- ・先方の声が文字表示され、こちら側からはキーボードで打った文字が音声変換されるような機器があるとよい。
- ・相手の名前だけでも表示されると助かる。
- ・聴覚障害者のための電話代行または取次がメールなどで依頼できるサービスがほしい。
- ・ファックスに音声認識機能を持たせてほしい。
- ・携帯電話で自動的に相手の音声を文字化する機能を付けてほしい。

1-19 テレビの字幕（聴覚）

〈困りごと〉

- ・収録番組の字幕がリアルタイム字幕の場合、映像とのズレが生じて楽しめない。
- ・政見放送、ニュース、天気予報で字幕のない番組がある。
- ・音声告知放送が聞こえない。

〈解決のための方策（ニーズ）〉

- ・収録番組はすべて事前に字幕を付けてほしい。
- ・完全字幕化を目指してほしい。

1-20 起立、歩行が困難（ポリオの会）

〈困りごと〉

- ・起立、歩行、階段の昇降が困難。
- ・障害のある足をかばって無理をするため、良い方の足が痛くなる。

- ・点字ブロックの上が歩けない。
- ・装具が合わず湾曲したり、皮膚が弱いために擦れたりする。
- ・素足になる必要があり、装具を外すときに困る。室内用の装具を持っていたても、外出先まで持って行きづらい。

＜解決のための方策（ニーズ）＞

- ・装具や杖は、軽量化と地方におけるメンテナンスの充実を望む。
- ・杖の先端ゴムの摩耗・消耗に困るので対応して欲しい。

1-21 腕の上げ下げが困難（ポリオの会）

＜困りごと＞

- ・洗濯ものを干すときに腕を伸ばしづらく、痛みがある。
- ・和服の着付けで帯が結べない。
- ・手が震えるので化粧がしづらい。パウダータイプの化粧品は誤って吸い込んでむせたりする。

＜解決のための方策（ニーズ）＞

- ・上肢用の装具がほしい。
- ・手が震えても使える口紅やアイメイクの道具がほしい

1-22 自己管理が困難である、感覚が過敏である（自閉症）

＜困りごと＞

- ・限局された反復する行動や興味（こだわり）。無目的と思えるような行動を繰り返すこと等。たとえば、道順が決まっていたり、手をひらひらさせたり、服を着る順番が決まっている。
- ・スケジュール、手順へのこだわり、パニック
- ・機能的な（身体的な）問題はないが、身辺自立ができない、整理整頓・片付けができない（家事ができない）

＜解決のための方策（ニーズ）＞

- ・スケジュール支援や時間を自己管理するための用具やアプリが欲しい。
- ・感覚過敏に関わる用具およびアプリが欲しい。
- ・空間を構造化（区切る、仕切る、動線の工夫など）する用具が欲しい。

1-23 対人的コミュニケーション（自閉症）

＜困りごと＞

- ・（社会性の障害）年齢に応じた社会集団の構成・人間関係の構成・コミュニケーションがとれない。
- ・他者への迷惑行為（ぴょんぴょん跳ねる物音、奇声、大声、自傷・他害）

＜解決のための方策（ニーズ）＞

- ・様々な VOCA（Voice Output Communication Aid）やカード類、スマホアプリ等にて対応している。

1－24 言葉の理解が難しい（失語症）

＜困りごと＞

- ・言葉が最大の難点。
- ・細かい理解が難しい。
- ・大量の情報を一度には処理できない。
- ・ら～わ行が言いづらい。筆記でも母音に変換してしまう。
- ・表音文字や数字が苦手なので、ATM 操作が困難。
- ・言語聴覚士の絶対数が少ないので、訓練の場が少ない。

＜解決のための方策（ニーズ）＞

- ・（支援者が）ゆっくり、何回でも話しかける。自宅内ではノートで伝えることで対応している。
- ・携帯電話で漢字の読み方などを都度記録している。
- ・電子辞書で漢字の読み方などを都度確認している。
- ・音声認識する PC を支援機器に活用する。
- ・情報を一つ一つ提示するように整理してくれる人がいると助かる。
- ・言語訓練機能を持つアプリやソフトの充実に期待する。
- ・新聞記事などの長文を分節化して示すアプリがあるとよい。
- ・機器の開発だけではなく、緊急時も通常時も、修理や使い方の問い合わせなどに対応する場所が日常生活に密着している状況が必要。携帯ショップなどで対応してくれるとよい。

1－25 緊急時対応（失語症）

＜困りごと＞

- ・車の運転については、事故の際に警察に連絡するなどの救護ができないので実は難しい。
- ・緊急時の発信が難しい。

＜解決のための方策（ニーズ）＞

- ・指電話などで「今事故」「状況」などを選択できるようにして欲しい。
- ・ドライブレコーダーなど、自動車本体のモニター機能を高めてはどうか。
- ・SOS カードや東京都作成のヘルプカードを活用したい。

2. 就労・就学編

2-1 通勤・通学路、施設内のバリアフリー（脊髄損傷、ALS）

〈困りごと〉

- ・ 地方では通勤・通学のための公共交通機関のバリアフリー化が進んでいない。
- ・ バリアフリー化を促進する活動をして、状況は後退している。
- ・ 通勤・通学時にヘルパーを利用できない。

2-2 定年後の再就職（脊髄損傷）

〈困りごと〉

- ・ アルバイトですら就職が難しい。

〈解決のための方策（ニーズ）〉

- ・ NPO による就業支援活動を拡充したい。

2-3 コミュニケーションに介助者が必要（ALS）

〈困りごと〉

- ・ 2 人体制で文字盤を書きとる支援が必要。

〈解決のための方策（ニーズ）〉

- ・ アイドラッグリングは患者にとっても技能の習得の必要があるため、レンタルか、試用できる仕組みがほしい。また、設定者や操作法を教える人が必要。

2-4 通勤・通学時に自力で移動できない（視覚・聴覚）

〈困りごと〉

- ・ 通勤・通学において自力で移動できない。

〈解決のための方策（ニーズ）〉

- ・ 支援機器に目的地を入力すれば、職場や学校まで自動的に安全に誘導できるようにしてほしい。（盲ろう、視覚、聴覚）

2-5 書類対応（視覚）

〈困りごと〉

- ・書類が読めない。
- ・簡単なメモが書けない。
- ・点字プリンターの印刷速度が遅く、大量印刷できない。

〈解決のための方策（ニーズ）〉

- ・読上げ機械の精度を向上させて欲しい。
- ・すみ字の簡単なメモが印刷できる機械があるとよい。
- ・海外のように早くて正確な点字プリンターがあればよい

2-6 会議や講義が聞こえない（聴覚）

〈困りごと〉

- ・職員研修、会議、講義、朝礼などの内容が判らない。
- ・通訳不在でも会議ができる音声認識装置が欲しい。

〈解決のための方策（ニーズ）〉

- ・いつでも使える補聴支援機器があると良い。
- ・筆談ボードを常備する。
- ・会議支援システムがもっと手軽に使えるとよい。現行機器は誤変換が多い。
- ・磁気ループを職場に敷設してほしい。
- ・音源を小型の外付けマイクで拾うことは可能か。
- ・教育現場には電光掲示板の設置と情報保障を義務付けてほしい。
- ・会議等の場に公費で要約筆記派遣ができるように法整備してほしい。

2-7 上司、同僚、教員、同級生との会話や接客（聴覚）

〈困りごと〉

- ・コミュニケーションに困る。
- ・会社の産業カウンセラーと筆談だとスムーズにコミュニケーションできない。

〈解決のための方策（ニーズ）〉

- ・感度の良い音声認識装置が欲しい。
- ・気軽に筆談する。
- ・相手に負担を感じさせず、会話の雰囲気壊さない情報保障機器が欲しい。
- ・遠隔の手話通訳が頼めると良い。

2-8 障害のために役職に就けない（聴覚）

〈困りごと〉

- ・聞こえないという理由で役職に就けない。

〈解決のための方策（ニーズ）〉

- ・企業を対象に行政指導及び研修を実施してほしい。

2-9 立ち仕事・歩き仕事が困難（ポリオの会）

〈困りごと〉

- ・立って仕事をするのが苦痛。長時間歩くと痛みがでる。荷物を持って歩くのが大変。

2-10 集団行動ができない・学習障害（自閉症）

〈困りごと〉

- ・指示が通りにくい。（特に言葉のみの指示）。ルーティンワークが得意だが、想定外のこと、予定外のことへの対応には弱い。
- ・学業では全体的な遅れはないが、読み書きなどの特定の活動に苦手がある場合（LD）、普通の学び方では習得できず、学力不振になる。
- ・姿勢（体勢）の保持が苦手。

〈解決のための方策（ニーズ）〉

- ・適切な環境調整が必要で、一人一人に合った机、椅子、授業や作業に関係ないものの目隠しなどが必要。

2-11 書類対応とコミュニケーション（失語症）

〈困りごと〉

- ・相手の要望に100%応えられない。
- ・書類手続きが苦手。
- ・青色申告が難しい。

〈解決のための方策（ニーズ）〉

- ・PCは触っているうちに覚えられる人もいる。ルビの有無が大きい、予測変換が助かる。
- ・PCは片手専用のキーボードで入力している。調べ物は可能だが、メールは難しい。

3. 趣味・スポーツ編

3-1 移動手段がない（脊髄損傷）

〈困りごと〉

- ・介護タクシーを依頼しても自腹になってしまう。

3-2 新幹線や高速バスが利用できない（脊髄損傷）

〈困りごと〉

- ・新幹線の駅まで徒歩では行けないし、車椅子では高速バスに乗れない。

3-3 マラソン（視覚・聴覚）

〈困りごと〉

- ・盲ろう者のマラソン人口は増えているがコミュニケーションがとれる伴走者の確保が困難。

〈解決のための方策（ニーズ）〉

- ・触手話や指点字の技術がない人でマラソンができる人なら誰でも使える携帯型のコミュニケーション機器が必要（音声を拡大文字や点字にその場で変換できるもの、盲ろう者が表した手話や指文字を音声に変換するなど）。

3-4 カラオケ（視覚・聴覚）

〈困りごと〉

- ・カラオケボックスで、モニター画面に出てくる歌詞が読めなくて伴奏の音楽が聞き取れないため、伴奏に合わせて歌えない。

〈解決のための方策（ニーズ）〉

- ・一部のカラオケボックスで点字カラオケがあり、点字と拡大文字に変換できる機器が設置されているが、伴奏と同時に文字や点字が出てくるものではないので改良して欲しい。

3-5 ドライブ（視覚）

〈困りごと〉

- ・車を運転してドライブに行けない。

〈解決のための方策（ニーズ）〉

- ・すべて自動運転で目的地へ行ける車があればよい。

3-6 外歩き（視覚）

〈困りごと〉

- ・文字や好きなものを見ることが難しい。

〈解決のための方策（ニーズ）〉

- ・持ち運べて1台で多目的に使える拡大読書器があったらよい。

3-7 旅行を楽しみたい（聴覚）

〈困りごと〉

- ・電車やバスの案内が聞こえず、ゆっくり車窓の景色を楽しめない。
- ・空港で集合場所が伝わらず、乗り遅れそうになった。
- ・ガイドの話が分からない。

〈解決のための方策（ニーズ）〉

- ・すべての車両に電光掲示板、磁気誘導ループを設置してほしい。
- ・無線通信できるUDトークがあれば便利。
- ・旅行に随行してくれる要約筆記サービスが欲しい。

3-8 趣味の会やスポーツを楽しみたい（聴覚）

〈困りごと〉

- ・講師の声が聞こえない。
- ・雑談の輪に入れない。
- ・スポーツジムなどの施設に緊急時対応機器として電話しかないことが多い。
- ・人工内耳や補聴器をつけたままだと水中ウォーキングや水泳ができない。汗に弱い。

〈解決のための方策（ニーズ）〉

- ・個人用の磁気誘導ループがあると良い。
- ・音声認識ソフトを活用したい。
- ・趣味の会などにも手話通訳者や要約筆記の公費派遣サービスが欲しい。
- ・遠隔通訳で、手話や字幕を手元でみられるようにしてほしい。
- ・体を動かしながら使える情報保障があると良い。
- ・さまざまな場面・分野に文字や絵図の表示をつけてほしい。
- ・建物、特に公共施設は埋め込み式磁気ループを設置してほしい。
- ・邦画、DVD、激、講演会、落語、スポーツ番組に字幕を付けてほしい。
- ・緊急時に聴覚障害者が外部と連絡を取れるシステムを電話以外に設ける必要がある。
- ・スポーツで補聴器などに頼らずインストラクターの指示が分かるようなサポート体制がほしい。
- ・スポーツジム、体育館、プール等、湿気や水気の多い場所では文字表示が出る機材を用意してほしい。

3-9 飲み会（聴覚）

〈困りごと〉

- ・飲み会で隣の人としか話せない。

〈解決のための方策（ニーズ）〉

- ・磁気ループとコンパクトな全体投影を使った宴会支援システムがほしい。

3-10 パソコン（聴覚）

〈困りごと〉

- ・パソコンが不調の時、サポートが電話対応のみ。

〈解決のための方策（ニーズ）〉

- ・パソコンのトラブル対応は携帯メールやファックス対応も欲しい。

3-11 自由な移動ができない（自閉症）

〈困りごと〉

- ・移動が自立できない。福祉のサービスなどを利用するときにも、基本公共交通機関を利用するため不便。福祉のサービスには枠組みがあるので自由に楽しめない。

3-12 やってみたいこと（失語症）

〈困りごと〉

- ・競馬や株を試してみたい。

～ ニーズ集の作成にあたりご協力いただいた障害者団体 ～

- ・社会福祉法人 日本身体障害者団体連合会
- ・公益社団法人 全国脊髓損傷者連合会
- ・一般社団法人 日本ALS協会
- ・社会福祉法人 全国盲ろう者協会
- ・社会福祉法人 日本盲人会連合
- ・一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会
- ・ポリオの会（線維筋痛症友の会）
- ・NPO法人 自閉症サポートセンター
- ・NPO法人 日本失語症協議会

障害者自立支援機器に関するニーズ集

（平成28年2月2日現在）

（発行）

公益財団法人テクノエイド協会 企画部

162-0823

東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ4階

電話 03-3266-6883

（調査協力）

株式会社NTTデータ経営研究所

ライフ・バリュー・クリエイションコンサルティングユニット

102-0093

東京都千代田区平河町2-7-9 JA 共済ビル 10階

資料 6. 関係団体ニーズ調査の結果

効果的な交流会の開催やマッチングの推進をはかるため、平成 27 年 8 月中旬から 10 月中旬にかけて、協力 9 団体に対して自立支援機器に対するニーズヒアリング調査を実施した。

直接の面談に限定せず、団体において調査票を配布、回収の上テクノエイド協会に返送いただく方法でもニーズの収集を行った。その結果、以下通り 9 団体 74 名以上からの回答を得た。

ヒアリング調査一覧（表中敬称略）

	団体名	回答様式	n 数	面談日時	面談場所	面談ご対応者概要
1	社会福祉法人 日本身体障害者団体 連合会	ヒアリング	2	9 月 1 日（火） 14:00～15:30	団体事務局	役員 1 名、職員 1 名
2	公益社団法人 全国脊髄損傷者連合 会	調査票	8	10 月 14 日（水） 13:00～13:10	アルカディア 市ヶ谷	役員兼当事者 1 名
3	一般社団法人 日本 A L S 協会	ヒアリング	3	9 月 25 日（金） 14:00～16:00	団体事務局	役員兼当事者 2 名、役員兼 MSW 1 名
4	ポリオの会	面談時に 調査表記入	10	9 月 5 日（土） 17:00～	横浜ラポール	
	繊維筋痛症友の会		2			
5	社会福祉法人 全国盲ろう者協会	調査票	不明	8 月 17 日（月） 14:30～16:30	団体事務局	事務局 3 名、研究者（当事者）1 名
6	社会福祉法人 日本盲人会連合	調査票	4	9 月 7 日（月） 13:00～13:40	団体事務局	職員 3 名
7	一般社団法人 全日本難聴者・中途 失聴者団体連合会	調査票	33	8 月 12 日（水） 13:30～15:00	横浜ラポール	
8	特定非営利活動法人 自閉症サポートセン ター	調査票	3	8 月 17 日（月） 10:00～11:45	団体事務局	理事長、相談員 1 名
9	特定非営利活動法人 日本失語症協議会	ヒアリング	9	9 月 27 日（日） 10:00～12:00	テクノエイド 協会会議室	当事者、家族、言語聴覚士を含む 計 9 名

調査方法と質問項目

以下の各質問項目について記載した2ページ程度のヒアリングシートを準備の上、対象障害団体からの面談聞き取り、もしくは調査票を預けて団体関係者の意見集約を依頼することによって回答を収集した。

- 1) 日常生活、仕事・学業、趣味・スポーツの場面ごとに、「現在の生活における困りごと（解決したい課題）」と「困りごとを解決するための方策」について、それぞれ聞き取りもしくは自由記述によって回答いただく。
- 2) 現在使っている自立支援機器の名称、その優れている点、改良を望む点を7つ程度まで挙げていただく。
- 3) 使ってみたい機器や交流会に呼んでみたい機器について、自由記述で回答いただく。機能のみの記載でも可とする。

※なお、本報告書においては、回答いただいた個別機器名称に関しての記載は差し控えることとした。

団体別調査結果

(1)公益社団法人全国脊髄損傷者連合会

1)「困りごと」と「困りごとを解決するための方策」

場面	困りごと	解決するための方策	分類
日常生活	加齢に伴い、日常生活における様々な行動について悩んでいる。	ベッドから車いすへ移乗できる器具	移乗
日常生活	入浴時の洗い場と風呂淵の高さが40cmあり入浴不可能であった。	洗い場を35cm高くし高さを解消した。	移動
日常生活	冬季は、積雪のため車イスでは外出することが困難である。		移動
日常生活	車いす使用者のため、高いところの物の出し入れが困難。最近、妻も高齢になって脚立を使用するのも危なっかしい。	①脚立を使わない箇所は妻に頼む。脚立を使用しないと物の出し入れができない箇所は子供が帰省したときに頼む。②高い収納箇所の使用をしない。	環境
日常生活	両手ともに使えなくスマホが指等の静電気では動かかないと自分で操作できない。	スマホ、タブレット操作が感圧式でも動くようにして欲しい。	機器操作
日常生活	加齢に伴い、日常生活における様々な行動について悩んでいる。	安全第一、求めやすい価格	その他
日常生活	褥瘡がしやすい	ベットマットを変更した	その他
仕事・学業	タッチパネル用とキーボード用のマウススティックを換えなければならない	素材的に良いものがあれば良いと思う	その他
趣味・スポーツ	移動手段がない。介護タクシーを依頼するも自腹になる。		移動
趣味・スポーツ	高齢で障害が重く、スポーツはできません。趣味は野球観戦	家内が送迎をする	移動
趣味・スポーツ	旅行が趣味で、たまには新幹線を利用したいと思っているがJR駅に行くにも徒歩では無理だし、東京駅までの高速バスは車いす者は乗車が不可能。	マイカーを利用する。	移動

2) 現在使っている自立支援機器

機器の名称	優れている点	改良してほしい点
手動車いす（5名）	折りたたみ式でマイカーにも自力で積み下ろしできる。	・手動で昇降できる機器 ・軽量化（2名） ・安価にしてほしい ・パンクし難い工夫を
電動車いす	坂道でも頼もしい	速度が安定しないので、時速6キロを（安定して）出せるようにしてほしい
ベッドマット		1年ごとに検査して貰いたい
介護用ベッド	高さが自由に換えられる	乗り降りが楽になるように車いすの前がベッドの下に入るようにしてほしい。
L字バー		1年ごとに検査して貰いたい
マイカー手動装置	手のみで運転が可能。	
携帯用マイカー手動装置	旅先のレンタカーにも取り付け可能	アクセル・ブレーキ操作が重く疲れる。
お風呂リフター		

3) 使ってみたい機器

- ・車椅子
- ・手の全般、特に指先などを動かす装着ロボット
- ・スーツロボット
- ・自動運転の出来る自動車
- ・車いす者でも利用できるキャンピングカー
- ・褥瘡予防のため、自動で体圧を逃がす機能の付いたクッション

(2)一般社団法人 日本ALS協会

1)「困りごと」と「困りごとを解決するための方策」

場面	困りごと	解決するための方策	分類
一般論	症状の進行によって困りごとの内容が変わるため、非常に幅広い。発症直後は手足に関する困りごとが多い。機器としては杖、カバン、転び、首を支えるためのカラーなど。しかし、それらを選定している間に進行してしまう。	テーラーメイドの対応、機器選定が必要。たとえばリモコンですべての電子機器を制御したり、ウェアラブルの機器の開発を望む。	症状の進行に合わせた機器
日常生活	多少姿勢をずらしたい時に困る。	現在はヘルパーが本人の意思を確認しながらずらしている。	姿勢の変更
仕事・学業	症状の変化のスペンがどんどん短くなること、無理すると筋肉が落ちることから、変化への対応が難しい。		症状の進行に合わせた機器
仕事・学業	移動の次に言語、コミュニケーションの問題が大きい。	2人体制での文字盤書き取り。	コミュニケーション

その他意見	開発企業には、コンセプトモデルの競争を行ってもらい、デザインを含め、マスメディアに注目されるような機器を開発してほしい。
-------	--

2) 現在使っている自立支援機器

機器の名称	優れている点	改良してほしい点
持続吸引器		(症状の進行に合わせてどんどん使えなくなる他の機器に比べると)長く使うことになるので、なるべく良いものがほしい。
車いす		座面が低いため、高さを調整できるものがほしい。立位になれるものを。スウェーデンでは、支柱が座面を持ち上げる車いすがある。
車いすに固定するリチウムバッテリー		現行品は品質が悪い
車いすやベッドに取り付ける書見台		現行のものは大きすぎる。プリントなどを気楽に読めるよう、コンパクトなものを開発してほしい。

機器の名称	優れている点	改良してほしい点
ベッド		自分で操作できるようにしてほしい。 マッサージ機のように、人に合わせてほしい。 姿勢パターンを記憶させられないか。 多少姿勢をずらしたい時に困る。
ベッドや風呂への 移乗リフト		大がかりな改修が必要な点と、設定の面倒さを改善してほしい。
階段昇降機		一時的にしか使用できない。 大きすぎて日本の住宅では設置できないことが多い。
エレベーター		建蔽率の問題で設営できない。
スプリングバランサー		体幹をつかえる時期が短いので、使用時期は短い。
バランサー	「自分で食べられる」ことが食欲につながる	

3) 使ってみたい機器

品名	機能
吸引装置	

(3)ポリオの会・繊維筋痛症友の会

1)「困りごと」と「困りごとを解決するための方策」

場面	困りごと	解決するための方策	分類
日常生活	筋力の低下（PPS、両下肢共に）のため、立ち上がりが困難になった		起立・歩行・段差
日常生活	歩行自体が困難になってきた（自力歩行）		起立・歩行・段差
日常生活	60年近く「歩くこと」に困っている。	長下肢装具を着けてからは、ずいぶんと楽に歩けるようになった。	起立・歩行・段差
日常生活	障害のある足をかばうため、良い方の足が痛い。（股関節、膝、時には足の裏、ふくらはぎがつることもある）、腰痛、背中痛。悪い方の足の膝も痛くなり、軟骨がすり減ってきた。	痛み止め服用、湿布、ブロック注射	起立・歩行・段差
日常生活	階段の昇り降り、段差でつまづく。	膝に装具をつけて膝折れを防いでいる。	起立・歩行・段差
日常生活	階段がすごく大変。道路の点字ブロックが歩けない。		起立・歩行・段差
日常生活	地下鉄などはエレベーターの数も増え利用しやすくなりつつありますが、公共の交通機関でバスの乗車に困ります。ステップが高くて利用できず、スロープを出していただくことはなかなかお願いできません。成田、羽田からのリムジンバスは利用が不可能です。	ステップの前にもう一段スライドするプレートが出ると使いやすくなると思います。外国で見たことがあります。当たり前のように走っていました。	起立・歩行・段差
日常生活	駅や様々な場所に階段しかないときに困る	エレベーターが一番、エスカレーターが二番	起立・歩行・段差
日常生活	洗濯物を干すときに腕が伸びづらく、痛みもある。		腕の上げ下げ
日常生活	腕が上がらない	腕の装具ができれば良い。腕のACTIVEを作ってほしい。	腕の上げ下げ
日常生活	（脳性まひ）和服の着付けで帯が結べない。	帯は作り帯にする	腕の上げ下げ

場面	困りごと	解決するための方策	分類
日常生活	(脳性まひ) 手が震えるので、化粧品が使いにくい。手が震えても使いやすい口紅、アイメイクアップ道具が欲しい。	口紅は長いスティックタイプを使う。	腕の上げ下げ
日常生活	素足にならなければいけないときや装具を外すとき。装具は外用として作り、室内用も持っているが、出先まで持っていくづらい。		装具
日常生活	装具が自分に合わない。(湾曲、皮膚が弱いため、摺れてしまう)		装具
仕事・学業	立って仕事をするのが苦痛。長時間歩くと痛みが出る。荷物を持って歩くのがたいへん。		起立・歩行・段差

2) 現在使っている自立支援機器

機器の名称	優れている点	改良してほしい点
杖(3名、うち1名は両松葉杖)	安定性 外出時に疲れ方が違う 身体を支えるのには一番	
長下肢補装具(3名)	・歩きやすくなった ・膝折れしない	・もっと軽く、つけやすく ・軽量化 ・重い。軽いものは高価。 ・修理業者、制作者が田舎にはほとんどない。
補高靴	脚長差の軽減	価格を安くしてほしい
靴型装具	足底板を作っているが、なしには歩行が大変(痛みが出る)	
電動車いす(3名、うち2名は簡易電動車いす)	・手の操作だけで走れる ・行動範囲が広くなり、生活が楽しい。 ・行動範囲が格段に広がる	・段差5センチくらい乗り越えられたら。 ・転倒防止 ・重量が重い。もっと軽量化。

3) 使ってみたい機器

品名	機能
電動車いす（6名）	・ 今日試乗させていただいた電動車いすはとても乗り心地も良く使ってみたいと思うようなデザインでした。 ・ 1日乗ってみたい。砂利道とか段差とか、自分で試したい。 ・ 障害を補助する機器にはデザインはあまり考えてなく、使えれば充分という意識が高かったと思います。「乗らなければいけないから」ではなく、「乗りたいから」が使う理由になるのは素晴らしいと思います。 ・ 欲しいが価格が高い
バスのステップからスライドして延びるプレート	ステップの前にもう一段スライドするプレートが出ると使いやすくなると思います。外国で見たことがあります。当たり前のように走っていました。
ロボットスーツ	
その他意見	電動車いす使用者本人が一人で運転するという視点が欠如している。 車いす使用者本人が運転するというコンセプトでCMを作ってほしい。

(4)社会福祉法人全国盲ろう者協会

1)「困りごと」と「困りごとを解決するための方策」

場面	困りごと	解決するための方策	分類
日常生活	体温計・体重計・血圧計等の器具を使って自力で健康管理ができない。家族や他人に見てもらわなければならないのでプライバシーが守れない。	ブレイルセンス等点字で読める携帯端末に体温・体重・血圧のデータを送れるようにすることで自力で健康管理ができる。	健康管理・プライバシー
日常生活	スマートフォンによるメールの送受信やインターネットによる情報取得のために携帯型点字ディスプレイで読む際、日本語が正しく点字に変換されない。	日本語から点字へ正しく変換されるよう、スマートフォンのOSやアプリを改良する。	コミュニケーション
日常生活	歩行者用の信号機の色や音響信号の音がわからないため、自力で渡れない。	シグナルエイドに、赤か青かが振動でわかるようにする。	外出
日常生活	画面の情報が見えない音声ガイドが聞こえないため銀行のATMや駅の券売機等のタッチパネルによる操作ができない。	ATMの音声ガイドの情報を点字ディスプレイで読みながら、ボタンで操作できるようにする。 ※参考：ゆうちょ銀行のATMの中には点字で操作できるものがある。	外出
仕事・学業	通勤・通学において自力で移動できない。	人的支援の資源には限りがあるため、移動支援機器によって自力で移動できるようにする。たとえば、支援機器に目的地を入力すれば、職場や学校まで自動的に安全に誘導できるようにする。	通勤・通学
趣味・スポーツ	盲ろう者のマラソン人口は増えているがコミュニケーションがとれる伴走者の確保が困難。	触手話や指点字の技術がない人でマラソンができる人なら誰でも使える携帯型のコミュニケーション機器（音声を変換できるもの、盲ろう者が表した手話や指文字を音声に変換するなど）。	スポーツ
趣味・スポーツ	カラオケボックスで、モニター画面に出てくる歌詞が読めなくて伴奏の音楽が聞き取れないため、伴奏に合わせて歌えない。	一部のカラオケボックスで点字カラオケがあり、点字と拡大文字に変換できる機器が設置されているが、伴奏と同時に文字や点字が出てくるものではないので改良の余地がある。	趣味

2) 現在使っている自立支援機器

機器の名称	優れている点	改良してほしい点
FM補聴システム	騒がしいところでも聞き取りやすい。耳元で話さなくても音声伝わる。	居酒屋等周りがとてもさわがしいと限界があるので、聞きたい音を拾えるようにする。
携帯型拡大読書機	読みたい文字をその場で読める。遠くの看板の文字や景色を見れる。	文字のぼやけをなくしはっきり読めるようにするための画面の設定を簡単にできるようにする。立体物や平らでないものをはっきり見れるようにする。書類を楽にかけるようにする。
白杖（折りたたみ式）	軽くて持ちやすい。周りの人が気遣ってくれる。	自転車の車輪に巻き込まれたり人ごみの中で圧迫されてまげられてしまうことが多いので、もっと頑丈な材質にする。歩行者用横断歩道を渡る手前で赤か青かを振動でわかるものをつける。

3) 使ってみたい機器

- ・複数の人との会話で、音声認識によって文字化されたものを携帯端末で読める機器
- ・信号機の色を振動で知らせてくれる携帯端末型機器

(5)社会福祉法人日本盲人会連合

1)「困りごと」と「困りごとを解決するための方策」

場面	困りごと	解決するための方策	分類
日常生活	色がわからない	かざしたら簡単に読めたり、色がわかるものがあったらよい	識別
日常生活	手書きの文字が読めない、手紙や液晶画面が読めない	簡単に読めるものが欲しい	文字識別
日常生活	ワンセグ電波の入りが悪い	電波が入りやすい機器を開発してほしい	機器
日常生活	白杖が外出時に、折られたり曲げられたりする	形状記憶の杖が欲しい	移動
日常生活	デージープレーヤーの使い方が難しい	カセットテープ感覚で使えるプレーヤーがあったら良い	機器
仕事・学業	書類が読めない	読上げ機械の精度を向上させて欲しい	書類処理
仕事・学業	簡単なメモが書けないので困る	すみ字の簡単なメモが印刷できる機械があるとよい	書類処理
仕事・学業	点字プリンターの印刷速度が遅く、大量印刷できない	海外にあるような早くて正確なものがあればよい	書類処理
趣味・スポーツ	C Dのジャケットが読めない	簡単に読めるものが欲しい	趣味
趣味・スポーツ	車を運転してドライブに行けない	すべて自動運転で目的地へ行ける車ができればよい	移動
趣味・スポーツ	文字や好きなものを見ることがむずかしい	持ち運べて1台で多目的に使える拡大読書器があったらよい	趣味

2) 現在使っている自立支援機器

機器の名称	優れている点	改良してほしい点
点字ディスプレイ	簡単に点字でメモがとれる	外部メモリーへの対応

機器の名称	優れている点	改良してほしい点
タブレット端末	アプリが便利	日本語の読みを良くしてほしい
タブレット端末	いろいろ情報を知ることができて便利	すべて音声で対応できるようにしてほしい
音声置き時計	知りたいときにすぐ時間がわかる	壁掛け時計があったらよい

(6)一般社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会

1)「困りごと」と「困りごとを解決するための方策」

場面	困りごと	解決するための方策	分類
日常生活	玄関チャイムや火災報知器の起動が、お風呂やお手洗い等では分からない。	同じ周波数でフラッシュする小さな機器があるといい。手帳がなければ購入費の補助が受けられず、購入するのは高いので、高齢者や他の人たちも購入できるようなものを作ることで、安くしてほしい。	アラート・来訪
日常生活	就寝時は人工内耳の外部器械をはずすので、夜、何かあったらという不安がある。	災害時は携帯メールが届く設定にしている。	アラート・来訪
日常生活	就寝時補聴器からビービー音がするので外す。前日の夜の出来事を近所の人から知らせてくれて後から驚くことがよくある。一人なので風呂などで補聴器を外すときが心配だが、諦めるしかないと思っている。		アラート・来訪
日常生活	緊急情報（放送）がリアルタイムで伝わらないのは、困る。	「呼び出し」は、そばへ来て肩を叩いて知らせる等の配慮をする。	アラート・来訪
日常生活	道路を歩行中、後部から接近してくる自転車、自動車の声が聞こえない。		アラート・来訪
日常生活	自動車運転中、緊急車両接近の警報の音が聞こえない。		アラート・来訪
日常生活	聞こえないので、予想外の訪問者に対応できない。	ドアモニターを設置する。	アラート・来訪
日常生活	来客がわからない。	振動でチャイムがわかる機器があると良い。	アラート・来訪
日常生活	来客があってもチャイムが聞こえず、宅配便など郵便局に取りに行かなくてはいけないので不自由しています。	回転灯とか腕時計型の情報伝達機器が欲しい。	アラート・来訪
日常生活	水道とか換気扇とかちょっと離れたら聞こえないので、止め忘れることがある。	自分で気をつけるしかない。	アラート・来訪
日常生活	駅や車内の放送が聞こえない		公共交通

場面	困りごと	解決するための方策	分類
日常生活	駅構内の行き先案内（駅員に聞いても聞こえないから困る）		公共交通
日常生活	電車の次停車駅の放送が聞こえない。混雑しているとドア上部の文字も見ることが不可能。		公共交通
日常生活	電車・バスの方向標識は止まっているとときも表示してほしい		公共交通
日常生活	電車、バスの車内やホームでの情報の電光表示はかなり普及してきているが、決まった内容の表示のみである。緊急の情報（事故、運行状況、遅延、信号待ちなど）は音声のみで聴覚障害者にはわからない。	この時の情報を文字化して、現存の電光表示板に流す	公共交通
日常生活	交通機関の遅れ、事故、地震等の災害時、音声情報があるが、文字情報はほとんどないに等しい。	駅やバスターミナルに文字情報の可能な掲示板を設置してほしい。	公共交通
日常生活 （家族等）	・家族には文字により意思の疎通を図っているが、十分とは言えない ・家族間での会話ができず困る。 ・家族や友達（大切な人たち）との会話 ・人（夫妻、親子、兄弟（家族）、親戚、友達（旧友、同窓会、OB会）、近所の人、会いたい）との会話ができないこと。	・音声を文字に変換する機器の利用。高度な機器の必要はなく、音声→文字変換機能中心のものが欲しい。 ・筆談くらいしかないが、現実には難しい。 ・音声認識ソフトの認識率を向上させてほしい。手軽に使えるようにしてほしい。 ・相手の話す内容がわかりやすく文字・絵図など、目でみえる型で表示されれば。（「いつでも、どこでも、自由に」利用できることが条件）	コミュニケーション
日常生活 （近隣）	・人との会話が成り立たない。近所付き合いなど。 ・町内近隣の人と会話ができない。 ・隣近所とのコミュニケーションに困る。 ・地域の集まりに行っても、内容が伝わりにくい。	・人のなるべくいない時間帯にこみ出しする。解決が難しい。 ・スマートフォンや音声認識ソフトを使ってみたい。 ・感度の良い磁気誘導ループを使ってみたい。 ・筆談等で積極的に伝える。	コミュニケーション

場面	困りごと	解決するための方策	分類
日常生活 (近隣)	・地域の会合、集会など、聴こえないから参加したくない。 ・大変不自由で、社会参加（人々の集り、イベントなど）ができないこと。 ・会議、研修会、役員会等での会話が聞きとれず、ついていけない。町内会の当番が回ってくると聞き取れない。近所づきあい ・親戚づきあい、学校行事、地域行事、冠婚葬祭などの場で、コミュニケーションが取れないのは、困る。 ・老人会や敬老会、一般教養講座などの地域行事に、聴覚障害者が気楽に参加できないのは困る。 ・地域のコミュニティやレジャーなどに参加できない ・近所の人とは挨拶はするけどその後の会話が苦手である	・相手の話す内容がわかりやすく文字・絵図など、目でみえる型で表示されれば。 ・話していることを文字に表示してほしい。 ・事前に「難聴」と伝えることと、再度相手側（個人）に大きく話してもらうこと。現状ではそれ以外は特にやっていない。	コミュニケーション
日常生活 (買物)	買い物時の会話（セールストークへの対応） 飲食や買い物の際、こちらの意向は伝えるが、受け答えに戸惑う。スーパーなどのレジで店員からの呼びかけに即座に反応できない。	・日常の買い物（レジ対応）では、確認事項の文字表示化（ボードに図示する等） ・高価な買い物（家電、車など）では、タブレットPCを販売員が常備し、手書きや音声認識ソフトを活用できるようになるとよい。 ・事前に「難聴」と伝えることと、再度相手側（個人）に大きく話してもらうこと。現状ではそれ以外は特にやっていない。	コミュニケーション
日常生活 (店舗等)	・店や、役所等どこに行ってもリアルタイムでコミュニケーションがとれないので相手がもどかしい顔をする。 ・役所や病院、銀行・郵便局などで受付・窓口の人との会話をすることが難しい。 ・スーパーやファミレスなどで係員の話が聞こえない。 ・駅やデパート・ショッピングセン	・役所・病院・店舗等どこにでも音声認識機能を備えたディスプレイを設置する。 ・音声を文字に変換する機器や手軽に筆談できる機器があればいい。 ・電光掲示板やお知らせランプが普及すればいい。 ・音声認識ソフトの認識率を向上させてほしい。手軽に使えるよう	コミュニケーション

場面	困りごと	解決するための方策	分類
	ターなどの案内が聞こえない。 ・ 公共施設や病院に用事があるとき	にしてほしい。	
日常生活 (医師)	・ お医者さんの説明が聞きとれないので、不安が増幅する。 ・ 病院の受診時・ 諸検査時・ 入院時等に、呼び出しがわからなかったり、コミュニケーションがとれないのは、困る。命に関わる分野。 ・ 病院で医師の説明が聞き取れない(役所などでも) ・ 診察室は暗騒音が大きく医師の説明が聞き取りにくい。補聴器を使っても暗騒音のためS/N比が悪く、役に立たない。 ・ 病院で医師との対話ができない。 ・ 難聴者である旨を受付に伝えても、医師まで伝わっていない。	・ 医師等の話を文字変換して表示してほしい。 ・ 医師の音声文字変換により表示後、プリンターで出力する。診療報酬の中に若干の文字化費用を算出して報酬に加える。機器は患者がどの位置からでも見られるよう小型の専用機にまとめる。※役所などにも設置を希望する。	コミュニケーション
日常生活 (病院)	・ 医院、病院の待機時、呼び出し案内が明確に把握できないため、常に緊張を強いられ不安である。 ・ 病院で自分の診断順が分からない	・ 番号など文字表示による呼出システムに改善してほしい。 ・ 受付に難聴者であることを申告し、受付に大きな声で話してもらう。	コミュニケーション
日常生活	・ 人とのコミュニケーションがうまくいかない。(会話が聞きとれず、うまくいかない) ・ 健聴者の会話が聞き取れない。 ・ 騒音の場所での会話・ 多人数の会話などは全く分からない。 ・ 伝えたいことが省略気味になる	・ 話していることを文字に表示してほしい。	コミュニケーション
日常生活	・ 10人くらい集まる会合には出ることができない。個人的な話になってしまって内容が分からない。 ・ 不特定多数の人と会話ができません	・ 1人ずつ話せとは言えないので難しい。	コミュニケーション
日常生活	補聴器を付けても外に出ると人の声が聞き取りにくい。今までの友人とのコミュニケーションが取れず、外出も少なくなった	補聴器の性能向上	コミュニケーション

場面	困りごと	解決するための方策	分類
日常生活	電話が聞きとれる声と聞きとれない声とがある（人工内耳で対面しての会話はほぼ可能）	・ 電話の相手に、難聴であることを告げて、もう少し大きい声で少しトーンを落とし、ゆっくり話して下さいとお願いしている。 ・ F a x がある場合は F a x 対応を依頼する。	電話・ファックス・携帯
日常生活	カード紛失等の時に電話による本人確認が必要。聞こえなくて大変な思いをした。	本人確認が必要な時にテレビ電話を活用できないのか？	電話・ファックス・携帯
日常生活	電話しか連絡手段がない相手に連絡がとれない。（こちらからかけるものは電話リレーサービスがあるが、かってくる電話では対応できない。）	・ 相手の声が自動的に音声認識表示され、こちら側からはキーボードで打った内容が、相手には音声合成で連絡できる装置。また、F A X やメールアドレスが相手に伝わるといい。	電話・ファックス・携帯
日常生活	・ どこからの電話かが分かりにくい。それが分かれば対応しやすくなる。	・ F A X 電話で音声認識し、文字表示できればよいと思う。相手の名前（個人名や企業名など）だけでも助かる。	電話・ファックス・携帯
日常生活	電話ができない。相手の声が文字になる電話がほしい。	1. 携帯電話に文字変換の機能を入れ、相手の声が文字となり、難聴者はその文字を見ながら応答ができる。 2. ファックス。F A X 機に文字の出る窓を置き文字変換の機能を持たせる。相手から電話がかかった時は音声のベルと同時に点滅する電球で着信を知らせる。相手の声は文字となり、窓に読むことができ、同時に F A X の用紙に文字として打ち出される。紙の記録としても残される。	電話・ファックス・携帯
日常生活	ファックスか電話か分からないので健聴の妻が受話器を取ってしまい相手（送信）は再度送信しなければならないエラーになり、二度手間になる。	家電量販店で調べたが取り扱いがなくなっていた。	電話・ファックス・携帯
日常生活	・ テレビの字幕（収録番組の字幕がリアルタイム字幕の場合、映像とのズレが生じて楽しめない）	・ 収録番組（生番組でも収録した部分）は全て字幕づけする対応を望む。	テレビ・ラジオ

場面	困りごと	解決するための方策	分類
	・ 政見放送、ケーブルテレビに字幕がない。 ・ 「音声告知」放送が聴こえない。情報が耳に入らない。 ・ 全てのニュース、天気予報に字幕をつけてほしい	・ 国・民間テレビ局・ケーブルテレビ会社・市など、完全字幕化を目指してほしい。	
日常生活	補聴器の効果（性能アップ）が望まれる。		機器
日常生活	人工内耳をしている側の頭を下につけられない		機器
日常生活	音声認識ソフトを使っているが、東北弁なので、認識が悪い。	・ 音声認識ソフトの性能向上。（方言でも対応できるように）	機器
仕事・学業	・ 職員研修などあるが、聴こえないので困る。こちらから書いてくださいと度々お願いするのは気兼ね。 ・ 会議や朝礼などの内容が良く分からない。 ・ 会議中にとんちんかんの受け答えで笑われる。 ・ 通訳不在でも会議ができる装置がほしい	・ いつでも使える補聴支援機器があるとよい ・ 筆談ボードを持っておく ・ 会議支援システムがもっと手軽に使えたら良い。 ・ 資料を事前にもらったり、ゆっくり話してもらったり、手話をつけてもらったり、書いてもらったり、いろいろ工夫はしているが・・・ ・ 高性能音声認識ソフトの開発が必要。 ・ 各自のパソコンを連結し文字変換のソフトで各自の音声を変換し、同じ画面を共有することにより会議を進める。 ・ 磁気ループを敷設してほしい。 ・ PC要約をお願いしたい。 ・ 音声認識ソフトを使ってみたい。	コミュニケーション
仕事・学業	先生の言葉が聞こえない、難聴者とばれるのが怖い。	高性能音声認識ソフトの開発が必要。	コミュニケーション
仕事・学業	・ 難聴者同士の会議において、通訳者に頼ることなくスピーディに音声文字変換処理するソフトの開発を望む。これで問題なくログも当事者のものとなる。	・ 通訳なしでOKになる会話機を早く作ってほしい。今あるのは誤変換が多い。	コミュニケーション

場面	困りごと	解決するための方策	分類
	・各種会議に通訳を依頼する手間や労力を減らしたい。		
仕事・学業	上司や同僚とのコミュニケーションに困る。 ・感度の良い磁気誘導ループを使ってみたい。 ・上司や同僚の話が聞こえない。 ・仕事中、人から声をかけられ困る。聞こえないので。 ・相手の話が聞き取れない。普段のコミュニケーションが難しく孤独を感じる。	・スマートフォンや音声認識ソフトを使ってみたい。 ・音声を文字に変換する機器や手軽に筆談できる機器があればいい。 ・気軽に筆談する。 ・いつでも使える補聴支援機器があるとよい・筆談ボードを持っておく ・気軽に筆談できる道具や、相手（健聴者）に負担を感じさせずに（会話の雰囲気をこわさない）情報保障の機器があるといい。	コミュニケーション
仕事・学業	窓口対応等、接客時（来客に筆談や言い直しはお願いしづらい）	・タブレットPCでの音声認識アプリ使用。	コミュニケーション
仕事・学業	・電話に出られない。 ・相手の声の質によって電話が聞こえにくい時あり。	・音声が表示ディスプレイ上で文字認識できる電話があれば。	コミュニケーション
仕事・学業	・伝達内容や、放送がわからないので困る。	・携帯メールに内容を送信して伝えるか、直接伝えて欲しい。	コミュニケーション
仕事・学業	会社の産業カウンセラーと話すのに筆談となり、スムーズにコミュニケーションが出来ない。	遠隔の手話通訳か音声認識ソフト	コミュニケーション
仕事・学業	授業、会議、研修等への参加ができない（情報保障を依頼しても実現されない）	音源を小型の外付けマイク（有線、Bluetooth等で接続）で拾うことは可能か？	コミュニケーション
仕事・学業	授業（教育現場）における情報保障がない	電光掲示板の設置 情報保障の配備	教育
仕事・学業	研修会や役員会は、要約筆記派遣を利用するが急な連絡会議の場合は依頼できない。	・音声認識ソフトを使う。 ・磁気ループを設置してほしい（会議室等）。又、携帯用磁気ループの開発をしてほしい。 ・いつでも使える補聴支援機器があるとよい	コミュニケーション

場面	困りごと	解決するための方策	分類
仕事・学業	人工内耳を使用して１年目である。水や汗にも強いプロセッサを開発してほしい。		機器
仕事・学業	火災報知器やチャイムが鳴っても分からない	キセノンランプの設置	アラート・来訪
仕事・学業	機械使用時に機械の異状音が聞こえない。機械の故障を生じる。人との打ち合せや、人からの情報が与えられない。	・目で見てわかるように文字表示、 絵図表示すべき。 ・警報装置を機械へ装備する。	アラート・来訪
仕事・学業	磁気ループが合わない難聴者もいる。	高性能音声認識ソフトの開発が必要。	機器
趣味・スポーツ	・バス・電車での音声情報が、聞こえずに困る。 ・旅をする時、汽車、バス等の音声（案内など）が聞こえず、ゆっくりと旅を楽しむことができない。 ・空港で、集合場所が伝わらずに、乗り遅れるようになった。	・マイクの声や情報を、文字で対処をして欲しい ・電光掲示板をすべての車両に設置と、音声公知と同時に文字での案内ができるシステムを作ってほしい。 ・無線通信できる音声認識ソフトがあれば便利。	公共交通
趣味・スポーツ	・旅行などでガイドの話が分からないのでつまらない。 ・旅行を楽しみたい。 ・趣味は旅行だがガイドの説明が分からない。	・ガイドの話が分かるような工夫をしてほしい。 ・バスの設備に磁気ループ、ＰＣ要約の表示が出るようにしてほしい。	旅行
趣味・スポーツ	習いごとにも行きたいが、聞こえる人だけの集まりが多い。 趣味のお菓子講座や歴史講座に行くが、十分に聞き取れないことと、雑談の仲間に入りにくい ・趣味の会など、要約筆記の公費派遣が難しく、情報も少なく、コミュニケーションも上手く取れない。しかし、参加して情報を得たいし、交流もしたい。 ・難聴者のために趣味の会などに参加できない。 ・町内や市内の一般の趣味の会・スポーツの会に入りたいけど、情報保障が付かないから入れない。	・磁気ループを設置して欲しい。 ・個人用の磁気誘導ループ（持ち運びと設置が簡単なもの）があるとよい ・音声認識ソフトが活用できるとよい。 ・音声認識装置は実際場で試用や使用をして利用者（聴覚障害者）も慣れる機会が多くあればいいと思う。 ・習い事をしたくても話が聞こえないのであきらめている。 ・健聴者に交じってのことだから無理と自覚している	コミュニケーション

場面	困りごと	解決するための方策	分類
	・一般（聞こえる人）の集団活動へ参加したくてもコミュニケーションができないため難しい。音声認識して文字化できる機能は既にあるが、誤変換も多く実用化が難しい。		
趣味・スポーツ	聞こえないので、ヨガの呼吸法など講師の説明がわからない。	体を動かしながらでもわかる情報保障があるといい。	コミュニケーション
趣味・スポーツ	・自分で興味があり、習いたいことがあっても耳が聞こえないと難しいものがあり、諦めることも多い。仮にやったとしても友達ができなくて、さびしい思いをする。 ・趣味や近隣の行事、講習会等に参加したいと思うが、文字通訳のある場合はほとんどなく、独りまたは家族と行動するしかない。 ・健聴者のみの仲間の会話に入っていけない時がある。 ・説明が聞き取れない。 ・NHK文化センターのカルチャー、教室、老人大学の講座を自由に学べない。	・筆談を気楽に頼めればいいが、雰囲気がかわれそうで遠慮する。音声認識ソフトなどは高くて手が出ない。 ・音声→文字変換機器を利用することになるが、離れたところの音は聞こえない。 ・事前に「難聴」と伝えることと、再度相手側（個人）に大きく話してもらうこと。現状ではそれ以外は特にやっていない。 ・インストラクターに配慮をお願いする。 ・すべての社会のあらゆる分野・場面に「必要な文字・絵図表示」をつける。	コミュニケーション
趣味・スポーツ	邦画に字幕がない。DVDにも日本語字幕がないものが多い。	字幕透かしの方法を普及させてほしい。もしくは邦画にも字幕を付けてほしい。DVDには字幕を付けてほしい。	コミュニケーション
趣味・スポーツ	・アロマ、いけばな、陶芸、美術鑑賞、映画鑑賞など、いたるところで音声がかえず趣味を楽しめない。特に、生で鑑賞する劇は情報保障がなく、その文化を楽しめない。 ・観劇なども楽しみから失せてしまった。観劇、講演会、落語など楽しみたい。 ・美術館の音声ガイドを利用できず、鑑賞を深められない。 ・美術館・博物館などで音声のみで字幕のない映像・展示物があると内容がわからない。	- 遠隔通訳で、手話や字幕を手元で観たい。 ・音声ガイドの内容を文字化してタブレットに表示できるシステムを広く普及させる。 ・音声認識ソフトを使った文字表示があればいい。	コミュニケーション

場面	困りごと	解決するための方策	分類
趣味・スポーツ	ジムの更衣室に緊急時対応の電話のみが設置されている。聴覚障害者はそのため対応できない。ジム以外（ロードサービス）にもいえる。	緊急時において聴覚障害者が外部と連絡が取れるようなシステムを電話以外に設ける必要がある。例えば、病院のように、ボタンを押すだけで緊急時の連絡を取れるようなものや、リアルタイム字幕に対応した電話を付けるなど、工夫次第では可能である。	アラート・来訪
趣味・スポーツ	スポーツで審判や他のプレイヤーの言うことがわからない。	字幕がつけられるものは字幕をつけてほしい。	
趣味・スポーツ	・スポーツインストラクターの話が分からない。 ・スポーツも、聞こえない人に配慮した取り組みがないと困る。 ・スポーツの際、やりながら説明されても分からない。タイムのあるカーブス等では特に難しい。 ・スポーツの時、楽しみながら、ジョークを言いながらの会話ができない。 ・グループで行うスポーツは無理と感じる。	・事前に「難聴」と伝えることと、再度相手側（個人）に大きく話してもらうこと。現状ではそれ以外は特にやっていない。	
趣味・スポーツ	・水中ウォーキングの際、補聴器や人工内耳は水に弱いのではずさなければならない ・人工内耳・補聴器は汗に弱い。	・水中ウォーキングや水泳の解決方策は難しい。（人工内耳を最近施術した人には水中で使用するアクセサリーがあるが・・・）、 ・スポーツジムや体育館等、いつでも文字表示が出る機材があるといい。	機器
趣味・スポーツ	難聴者の飲み会では隣の人としか話せない。	磁気ループとコンパクトな全体投影を使った宴会支援システムが欲しい。	機器
趣味・スポーツ	パソコンが不調のとき、サポートの遠隔操作は電話対応のみ。健聴者（夫）に頼らざるを得ないのですぐ直せない。	携帯メールやFAX対応もあるといい。	機器

2) 現在使っている自立支援機器

機器の名称	優れている点	改良してほしい点
補聴器（8名）	・身体の一部として常時使用できる。 ・万能ではないが、最低限の音は聞こえる。 ・昔の補聴器より音質が良い。	・高難聴者用の補聴器の開発を望む。 ・雑音に弱い ・重度難聴でも小型化してほしい。 ・高音部を低音に落とせる補聴器がほしい。 ・操作しづらい
補聴器電池、人工内耳電池	小型の電池が補聴器を小型化させている。	小さいだけあって消耗が激しい。特に人工内耳の電池の消耗電力は大きい。充電式の電池がほしい。無線充電、太陽電池化なども研究してほしい。
人工内耳	通常の会話は、ほぼ成立する	条件に左右される。 相手の声の質感、自らの体調、広い会場での会議や大勢の集まりなど、環境音が大きく耳に入り、ほとんど聞き取れないことがある。
携帯用磁気誘導ループ（設置型）	感度が良い。	設置が大変。 低価格にしてほしい。
携帯用磁気誘導ループ（首掛け型）	持ち運びに便利。	感度が悪い。 低価格にしてほしい。
家庭用磁気ループ		設置が面倒
磁気誘導ループ（3名）	・多くの人が同時に使うことができる。 ・人工内耳にはかなりの効果があり、聞き取りやすい。 ・携帯もでき、補聴器を使う難聴者には効果的	・磁気ループを設置している施設は限られている。 ・最近の補聴器はTコイルが標準装備ではないので、知らない人はループを利用できない。
FMマイク	いろんな面で役に立つ。	
屋内信号装置（2名）	・ドアホンや住宅火災警報機の音声などを振動や視覚情報で知らせる ・玄関チャイム、FAX、火災報知器、コールなど振動付きで、文字で知らせる。 大変助かっている。	・必要のない音にも反応して、誤作動する ・反応に少し時間がかかる
お知らせランプ	光の点滅は視覚的でわかりやすい	もっと普及しやすい価格に。

機器の名称	優れている点	改良してほしい点
音声認識装置	自分の声をマイクで録って学習機能がある	
インターネットFAX	ワード、PDFファイルの送信が可能。	1件ずつしか送信できないため、4～5件までの同報送信ができると良い。
FAX（10名）	・確実に伝わる ・容易に操作できる。 ・いつでもFAX送信が可能。 ・一般家庭にも普及している ・高齢の難聴者と連絡がしやすい ・文字や絵のやりとりができるので重宝している ・サークルからの回覧に便利。 ・わざわざ出力する必要がない。 （高性能機種） ・紙を使用せず、画面に指で書いて送信できる。 ・音声とファックスを自動で認知できるようになった。	・外出中も携帯電話で受信できるという。 ・パソコンやタブレットも対象機器に。 ・複雑な機能は不要 ・受信にしばらく気づかないことがある ・テレビ電話機能付きファックスを開発してほしい。 ・パソコン、携帯メールが相手のファックスに送信できる機器を開発してほしい。高齢者などはパソコン、携帯を持たない人が多いので。 ・メールでFAX送受信ができるようになってほしい。 ・紙の入れ替えが面倒。インクリボンがもっと長く使えるという。 ・もう少し操作が簡単なものがよい。 ・電話での音声文字表示できればFAXを持たない人からの電話も受けられる。 ・聞こえる人はFAXをあまり利用しないのか、送信できない時が多い。 ・時々通じない時がある。（送信、受信とも） ・高齢でも簡単に理解、操作できる会話支援機を ・一斉送信できれば良いと思う。 ・機種によると思うが、返信されるのが困る。 ・古い機種はプリントが自動で、カーボン代が馬鹿にならない。 ・インクリボンの低価格化を望む ・現状で良い
音声拡大電話器（2名）	補聴器との併用である程度聞き取りに効果がある。	3段階切替え式だが、もう少し、こまかく操作ができるものがほしい。
筆談機器	手持ちボード。難聴者同志だと欠かせない。どんな環境でも使える。	

機器の名称	優れている点	改良してほしい点
目覚まし時計のフラッシュとバイブ	・バイブが強くて、起きられる。 ・デザインが良い。	機能で改善点はないが、高いのが難点で、福祉サービスを受けられない人は困る。
振動式目覚まし時計	旅行先のホテル等で使える目覚ましバイブで便利。	もう少し小さく軽く。
聴覚障害者用目覚まし時計	・腕に振動が伝わるので、寝ていても分かる。 ・振動が大きく、気づきやすい	・デザインがいまいち。 ・もっと効果的に振動が伝わる方法を。 ・もっとコンパクトでおしゃれに改良して欲しい。
音声認識ソフト	比較的リアルタイムで利用できる	音声認識の向上
字幕機能付きテレビ（2名）	・今までほとんどテレビを見なかったが、最近字幕が多くなったので見るようになった。 ・内容がよくわかっていい。	・討論会（政治）番組などにも付けてほしい。 ・地元テレビ作成の番組にも字幕がほしい。 ・画面にかぶって表示されると読みにくい。テレビ画面と字幕が表示される部分は別々になるといい。
タイラップ	テレビの音声聞きやすい。	・テレビのジャックに差し込んだら音声が消えてしまうのは困る。聞こえる人と一緒に楽しみたい。 ・この機器を使うと、健聴者用の音声がなくなるので、どちらも聞きとれるように、機器を改善してほしい。
タブレット（9名）	・画像の白黒反転、拡大機能、拡大鏡として活用。 ・パソコンテイクでは、無線LANを用いて、配信された文字を画面に映して活用することができる。 ・大きさがよい。 ・音声文字変換は誤変換が少ない	・軽量化してほしい。機能が多すぎる。 ・持ち運びに良いように二つに折れたらポケットに入りよいと思う。 ・音声認識機能は認識率の向上を。音声認識用に外付けのピンマイクのようなアクセサリがあれば良い。 ・購入時、マニュアル本がついていない
スマートフォン（4名）	・どこでも、いつでも使えること。 ・音声認識ソフトが使える	・わかりやすく要約した内容を口で（音声で）、機器に吹きこむ方法がある。（文字表示） ・音声認識方法の改善。
パソコン	・聴覚障害者に役立つ機能が多い ・買い物やコミュニティなど難聴でもスムーズにできる。	

機器の名称	優れている点	改良してほしい点
	・携帯電話では、いつでもどこでも受信が可能。送信は常識的な時間内にするが、パソコンメールは時間を問わない。	
メール（ＰＣ）	・紙でのファイルが不要（ディスクに保存できる） ・電話の代りになる。 ・時間を気にせず連絡できる。 ・写真や文書がそのまま送れる。 ・すでに一般的になってきているので、特に聴覚障害を意識せずに使える。	
携帯電話メール（２名）	・文字の受け答えができる ・使いやすい。手軽。料金が安い。 ・出先でもどこでも使用できる。 ・聴覚障害の有無に関係なく、誰に対しても使える。 ・すぐ連絡がとれるのが良い。 ・一斉通知が出来るのがよい。 ・多目的な情報が身に付けながら操作できるのが良い。 ・いろいろと便利	・文字の入力に時間がかかる ・代理電話サービス対応もできるようにしてほしい。
携帯電話（３名）	・一番頼りにしている。 ・いつでもどこでもＯＫ	

３）使ってみたい機器

- ・音声認識で聴覚障害者の会議参加を支援するコミュニケーションツール（２名）
- ・音声認識ソフト（５名）
- ・タブレットを使った情報保障
- ・手話アプリ
- ・音声認識文字変換装置（１２名）
- ・遠距離操作による、会話認識ソフト
- ・バス旅行で、遠隔入力による情報保障を体験したい。
- ・要約機能を持つ文字変換装置（２名）
- ・字幕電話・テレビ電話・手書き電話（各１名）
- ・メガネに字幕が表示されるもの。（２名）
- ・腕時計型やメガネ型のウェアラブル端末で情報保障（要約筆記）

- ・画面と字幕部分が別々に表示できるテレビ。
- ・難聴者のタブレットやスマートフォンに、要約筆記を送信する遠隔操作（遠隔文字システム）とか、聴覚障害者がタブレット、スマートフォンに操作可能な文字通訳アプリを学んでみたい。
- ・難聴者・中途失聴者用の学習教材。
- ・音声認識型大型スクリーン
- ・玄関の録画付きモニター
- ・スマートフォンより画面が大きく見やすいタブレット
- ・FM補聴援助システム
- ・個人用磁気ループ
- ・磁気誘導ループ
- ・補聴器（5名。骨伝導含む）
- ・補聴器比較
- ・振動式目覚まし時計
- ・福祉電話
- ・聴覚障害者用の火災報知器
- ・タブレット
- ・スマートフォン（2名）

その他 意見	全般に自立支援機器は高価で種類も少ない。デザインも芳しくない。 もっと、安価なもの、生活が潤うような、種類、デザインのものを開発してほしい。
-----------	---

(7)NPO法人自閉症サポートセンター

1)「困りごと」と「困りごとを解決するための方策」

場面	困りごと	解決するための方策	分類
日常生活	対人的コミュニケーションと相互作用の障害 (社会性の障害) 年齢に応じた社会集団の構成・人間関係の構成・コミュニケーションがとれないこと	様々なVOCA (Voice Output Communication Aid) やカード類、スマホアプリ等	コミュニケーション
日常生活	限局された反復する行動や興味(こだわり) (常同性) 無目的と思えるような行動を繰り返すこと等。たとえば、道順が決まっていたり、手をひらひらさせたり、服を着る順番が決まっている。	スケジュール支援の用具、時間を自己管理するための用具、感覚過敏に関わる用具およびアプリ。	自己管理支援
日常生活	スケジュール、手順へのこだわり、パニック	視覚的な支援(スケジュール、手順、時間など、抽象的なものを視覚的に表す)、構造化(区切る、仕切る、同線の工夫など)	自己管理支援
日常生活	機能的な(身体的な)問題はないが、身辺自立ができない、整理整頓・片付けができない(家事ができない)		自己管理支援
日常生活	感覚過敏(聴覚、触覚、味覚など)	感覚過敏を軽減すること⇒刺激の軽減と経験の積み上げ(無理せず少しずつ行う)	感覚過敏支援
日常生活	他者への迷惑行為(ぴよんぴよん跳ねる物音、奇声、大声、自傷・他害)		自己管理支援
仕事・学業	集団行動ができない。指示が通りにくい。(特に言葉のみの指示)。ルーティンワークが得意だが、想定外のこと、予定外のことへの対応には弱い。	・個々のアセスメントによる「その子(人)なりのやり方」を習得すること。時には道具を使用して。凹を凸(ストレングス)で補うこと。	自己管理支援
仕事・学業	学業では全体的な遅れはないが、読み書きなどの特定の活動に苦手がある場合(LD)、普通の学び方では習得できず、学力不振になる。	・カウンター、タイマー、スケジュールボードなどを活用し、「始め」と「終り」を明確にし、見通しを立てられるようにすること。	自己管理支援
仕事・学業	姿勢(体勢)の保持が苦手	「その人なし」の理解方法を尊重し伝えること。	自己管理支援

場面	困りごと	解決するための方策	分類
		・適切な環境調整が必要。一人一人に合った机、椅子、授業や作業に関係ないものの目隠しなど。広義には周囲の態度を含む。	
趣味・スポーツ	移動が自立できない。福祉のサービスなどを利用するときにも、基本公共交通機関を利用するため不便。福祉のサービスには枠組みがあるので自由に楽しめない。	一人で楽しむためには、1人で自由に移動できることが必要。	

その他意見	発達障害児の用具の場合、最終目的は「それが不要になる」ことである点が、他の用具と異なる。
-------	--

2) 現在使っている自立支援機器

機器の名称	優れている点	改良してほしい点
コミュニケーションアプリ	・他のV O C A機能のアプリに比べ、文書の保存や細かな文字の使い方、声や読み上げ速度の調整、見栄えなど、圧倒的に機能が優れている。 ・言葉でのコミュニケーションが苦手でも意思疎通ができる。	・スマートフォンへの対応も検討いただきたい。また、専用のケース、キーガードも検討いただきたい。
イヤーマフ	・ホームセンターなどでも類似のものはあるが、遮音性等のイヤーマフとしての性能が優れていることや、小児用の製品は他にない。 ・聴覚刺激の軽減	・小児用製品の色遣いに落ち着いた色の選択肢があればありがたい。 ・デザイン、大きさ、耳に当たる素材などが選べない。オーダーメイドにしてほしい。 ・素材が劣化する。
タイムタイマー	・残りの時間の量が目で見て分かりやすい。 ・時間になると音になる。 ・大きさの選択肢もある。	・現在の機構では若干無理があり、壊れやすいのではないかと。60分計として、別の機構の検討も必要ではないか。 ・回る向きが選べない
タイムログ	・残りの時間の量が目で見て分かりやすい。 ・時間になると音もなる。 ・比較的丈夫である。	・回る向きが選べない
パーテーション	設置工事がいらないので、場面に合	・軽いと倒れやすい。重くすると持

機器の名称	優れている点	改良してほしい点
	わせレイアウトできる。	ち運べない。足を大きくすると場所をとる。
デジカメ類		現在はスマホやタブレットで代替可。

3) 使ってみたい機器

- ・ 特別支援スマホアプリ
- ・ コミュニケーションアプリ
- ・ P e c s アプリ
- ・ 自閉症や発達障害をもつ子供向けの生活支援アプリ
- ・ フィットネスクッション
- ・ 耳栓
- ・ タイムタイマー
- ・ タイムログ
- ・ ポケットカレンダー
- ・ デジタルペン
- ・ H u g M a c h i n e
- ・ スヌーズレン

(8)特定非営利活動法人 日本失語症協議会

1)「困りごと」と「困りごとを解決するための方策」

場面	困りごと	解決するための方策	分類
日常生活	言葉が最大の難点。	(支援者が) ゆっくり、何回でも話しかける。自宅内ではノートで伝える。	コミュニケーション・情報処理
		携帯電話で漢字の読み方などを都度記録している。	コミュニケーション・情報処理
日常生活	細かい理解が難しい。		コミュニケーション・情報処理
日常生活	ら～わ行が言いづらい。筆記でも母音に変換してしまう。	PCが音声認識するようになったのはありがたい。	コミュニケーション・情報処理
日常生活	大量の情報を一度には処理できない。	一つ一つ提示するように整理してくれる人がいると助かる。	コミュニケーション・情報処理
日常生活	できること、できないことが自分で分からない。ひとりひとり程度や様相が違う。		テーラーメイドの対応
日常生活	車の運転については、事故の際に警察に連絡するなどの救護ができないので実は難しい。	指電話などで「今事故」「状況」などを選択できれば大丈夫。 自動車本体のモニター機能を高めてはどうか。	緊急時
日常生活	緊急時の発信	SOSカードや東京都作成のヘルプカード	緊急時
日常生活	表音文字や数字が苦手なので、ATM操作が困難。		コミュニケーション・情報処理
日常生活	STが少ないので訓練の場が少ない。	コミュニケーションツール	コミュニケーション・情報処理
日常生活	相手の人に100%応えられない。		コミュニケーション・情報処理
仕事・学業	書類手続きが苦手		コミュニケーション・情報処理

場面	困りごと	解決するための方策	分類
仕事・学業	青色申告		コミュニケーション・情報処理
趣味・スポーツ	(やってみたいこと) 競馬		その他
趣味・スポーツ	(やってみたいこと) 株		その他

2) 現在使っている自立支援機器

機器の名称	優れている点	改良してほしい点
電子辞書	最近では音が出る機能がついているものもある 漢字の読み方書き方の確認に使用。	
パソコン(2名)	触っているうちに覚えていくことができる人もいる。 ルビの有無が大きい、予測変換が助かる。 PCは片手専用のキーボードで入力している。調べ物は可能。	メールを使う仕事は大変だと思う。
サービスアプリ	日常のリソースを絵にして手帳化。 当事者よりも介助者にとって役立つ。	ルビがないので当事者にはわかりづらい。
音声を文字化するアプリ		精度が低い

3) 使ってみたい機器

- ・注文管理システム
- ・コンシェルジュ
- ・アプリ
- ・ドライブレコーダー(事故対策)

平成 2 7 年度
シーズ・ニーズマッチング強化事業報告書
(障害者自立支援機器等開発促進事業)

平成 2 8 年 3 月	発行
発 行 者	公益財団法人テクノエイド協会
〒162-0823	
東京都新宿区神楽河岸 1 番 1 号	セントラルプラザ 4 階
TEL 03-3266-6880	FAX 03-3266-6885

この事業は、厚生労働省から平成 2 7 年度障害者総合支援事業費補助金の交付を受けて実施したものである。